

審査意見への対応を記載した書類（6月）

目次

全学（共通）

No.

審査意見

ページ

【設置の趣旨・目的等】

1. 【全体計画審査意見2の回答について】

カリキュラムマップに関して、以下の点を踏まえ、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）

- (1) 新たに作成されたカリキュラムマップについて、当該マップにより、養成する人材像、ディプロマ、カリキュラム及びアドミSSIONの3つのポリシー、教育課程、具体的に想定される就職先などの対応関係が適切であることをどのように明確化しようとしているのか、マップの作成の考え方や参照方法について説明すること。

3

- (2) カリキュラムマップにおいて、知識情報システム学類では外国語科目として「フランス語入門」を、環境社会システム学類では「中国語入門」を示すなど学類によって履修が可能又は推奨される外国語科目が異なっているようにも見受けられることから、誤解を生じないように注釈を付すか、例えば、「初修外国語科目」といった科目区分を例示するなど、表記を改めること。

19

【教育課程等】

2. 【全体計画審査意見7の回答について】

2つのキャンパスに分かれて教育研究を行うこととなる研究科のうち、情報学研究科以外では、「他キャンパスの授業科目を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにする」「学生及び教員が原則として2校地間を移動する必要のない教育課程を編成し」といった記載となっている一方で、情報学研究科では「学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とする」とされており、大学院生が各キャンパスで支障なく教育研究を行えるのか依然として不明確である。情報学研究科において、2校地を移動する必要がある場合のモデルカリキュラムを示しつつ、教育課程の履修上支障が生じないことを説明すること。

（是正事項）

22

【入学者選抜】

3. 【全体計画審査意見10の回答について】

現代システム科学域における国際バカロレア特別選抜で、仮に入学者が5名

の入学定員に満たなかった場合の欠員分の取扱いについて、具体的に説明すること。	(改善事項)	43
【教員組織】		
4. 【全体計画審査意見 11 の回答について】		
採用計画に関して、「組織の若返りやダイバーシティの推進を考慮した教員採用に努める」とあるが、「ダイバーシティ」の定義が不明確なため、具体的に説明すること。	(改善事項)	45
5. 【全体計画審査後、大学院の専任教員一覧の提出をもって確認された内容について】		
専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(文学研究科文化構想学専攻 (D)、法学研究科法曹養成専攻 (P)、都市経営学研究科都市経営専攻 (M・D))	(改善事項)	47
(その他)		
(1) 大学の名称 (英訳名称) の変更		54
(2) 教職課程認定申請に伴う修正		55
(3) 管理栄養士養成施設の指定申請に伴う修正		75
(4) 看護師学校等の指定申請に伴う修正		82
(5) 理学療法士作業療法士学校養成施設の指定申請に伴う修正		98
(6) 社会福祉士申請に伴う修正		101
(7) 誤記や不備に伴う修正		107

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（是正事項）全学（共通）

1. 【全体計画審査意見2の回答について】

カリキュラムマップに関して、以下の点を踏まえ、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（1）新たに作成されたカリキュラムマップについて、当該マップにより、養成する人材像、ディプロマ、カリキュラム及びアドミSSIONの3つのポリシー、教育課程、具体的に想定される就職先などの対応関係が適切であることをどのように明確化しようとしているのか、マップの作成の考え方や参照方法について説明すること。

（2）カリキュラムマップにおいて、知識情報システム学類では外国語科目として「フランス語入門」を、環境社会システム学類では「中国語入門」を示すなど学類によって履修が可能又は推奨される外国語科目が異なっているようにも見受けられることから、誤解を生じないように注釈を付すか、例えば、「初修外国語科目」といった科目区分を例示するなど、表記を改めること。

（1）

（対応）

全体計画審査意見2に対応するため、養成する人材像、ディプロマ、カリキュラム及びアドミSSIONの3つのポリシー、教育課程、具体的に想定される就職先などについて、御指摘の項目の対応関係を1枚で示す図として、各教育組織のカリキュラムマップをそれぞれ作成した。

カリキュラムマップの作成にあたっては、学校教育法施行規則第165条の2及び同第2項を踏まえ、ディプロマ・ポリシーに対応するカリキュラム・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに対応するディプロマ・ポリシー、更にアドミSSION・ポリシーに対応するカリキュラム・ポリシーをそれぞれのポリシーの項目ごとに対応を示すとともに、基礎から専門・応用に展開していく授業科目の履修上の体系性を示している。

これらの前提を原則として、以下の作成方法により作成している。

<カリキュラムマップの作成方法>

1. 全体の構成としては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミSSION・ポリシーに定めるそれぞれのポリシーの対応関係を矢印で示している。また、ディプロマ・ポリシーに定める能力を教育課程の各年次の中で、どの授業科目でそれぞれの能力を身に付けるのかを示すため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの間に教育課程を示すことで全体の関係性と一貫性を示した。さらに、ディプロマ・ポリシーに定

める能力を備えて学位が授与された学生の想定される進路・就職先を結び付けることで、履修の課程に応じて身に付く能力に対応した進路のイメージを示した。

2. 特に、学校教育法施行規則第 165 条の 2 第 2 項に定める、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応関係については、ディプロマ・ポリシーに対応するカリキュラム・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに対応するディプロマ・ポリシーをそれぞれのポリシーの項目ごとに「(CP1)」などのように明確に記載するとともに、アドミッション・ポリシーがカリキュラム・ポリシーに沿って設定され、全体としての一貫性が明確になるように記載した。

3. カリキュラムマップに記載した教育課程は、履修を推奨する配当年次に授業科目を配置しており、各授業科目の根拠となるカリキュラム・ポリシーを結び付けることで体系性を示した。

各授業科目は、着色等により科目区分や必修・選択の別を示しており、これらは各カリキュラムマップに凡例として示した。教育課程の中の矢印は、基礎や応用といった授業科目間の履修上の体系性を示している。複数の科目区分の積み重ねによりディプロマ・ポリシーが達成される場合は、科目区分間を矢印で結ぶことや同列に並べることにより体系性を示している。

なお、現代システム科学域において作成したカリキュラムマップでは、全体計画審査意見を踏まえ専門科目の授業科目名に記号を付すことで、現代システム科学域における「主な基礎学問分野」(○、△、□、◇の記号)と各学類における「主な教育研究分野」(●、▲、■、◆の記号)が、どの授業科目で身に付けるのかを示しており、これらについても凡例で示した。

4. 各ポリシー間の関係については、複数のポリシーと対応することがあるため、対応関係を示す矢印が複数に分かれて各ポリシーに結びついているものもある。また、対応関係を示す項目が多岐にわたることから、対応関係を示す矢印を着色や実線と破線などを記載することにより、学生に分かりやすいよう工夫をしている。

5. 上記 1～4 のほか、ディプロマ、カリキュラム及びアドミッションの 3 つのポリシー、教育課程、具体的に想定される就職先などの対応関係を確認する上で必要と考えられる、【設置の趣旨及び必要性】と【養成する人材像】を上段に示した。「設置の趣旨及び必要性」と「養成する人材像」については、各学部等・研究科における「設置の趣旨等を記載した書類」から抜粋して記載し、カリキュラムマップを補完する情報として示した。

6. 現代システム科学域におけるディプロマ・ポリシーの達成には、語学など多数の必修科目を含む科目区分の履修、複数の科目区分の段階的履修、あるいは専門科目のように少数の必修科目に加えて多数の選択科目を含む科目区分の履修を必要とするような設計としている。これにより、各科目区分において、卒業要件として定められた単位を修得することにより、ディプロマ・ポリシーの各項目で掲げられた資質・能力が身に付くようなカリキュラム構成となっている点、また、領域横断的応用力、システムの思考力を身に付けるカリキュラムである点をカリキュラムマップ上で示すために、以下の点に留意して作成した

(詳細は、第一次専門審査における意見 現代システム科学域(共通) NO.5(1)P30 参照)。

- ・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの対応について、主に対応する部分に限定して記載した
- ・ディプロマ・ポリシーが複数の科目区分と対応する場合は、科目区分同士の対応を水色の太い矢印で示し、複数の科目区分の詰め重ねでディプロマ・ポリシーが達成されることを示した
- ・科目区分とディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係、アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係を示す矢印をオレンジ色で示した
- ・科目区分はオレンジ色の枠で囲み、卒業に必要な単位数を付記した
- ・オレンジ色の矢印と水色の矢印の意味を注記した
- ・知識情報システム学類のように1種類のマップで全体のカリキュラムを示す場合は、全ての学類専門科目を記載した

7. 以上により、原則として学部等は各学類・学科単位、大学院は各課程、専攻単位で作成し、以下の場合のように、教育課程の要件のほか、履修モデル、コース、資格取得、想定される就職先などの別で複数作成したものもある。

- ・現代システム科学域教育福祉学類、文学部言語文化学科など、資格等の取得を目的として、履修内容が異なる場合
- ・現代システム科学域環境社会システム学類、経済学部経済学科など、履修課程により想定される就職先が多岐に渡る場合
- ・看護学部看護学科、生活科学研究科など、コースが設定されている場合
- ・現代システム科学域における未来デザインコースのように、通常のカリキュラムに特別なプログラムが付加されるカリキュラムが設定されている場合

学部間や研究科間で様式や表現方法に違いはあるものの、全ての学部等・研究科において、養成する人材像、ディプロマ、カリキュラム及びアドミッションの3つのポリシー、履修課程、具体的に想定される就職先などの対応関係がそれぞれの特色を踏まえ、関係性・体系的性・一貫性を持って示されていることを確認の上、提出している。

<カリキュラムマップの参照方法>

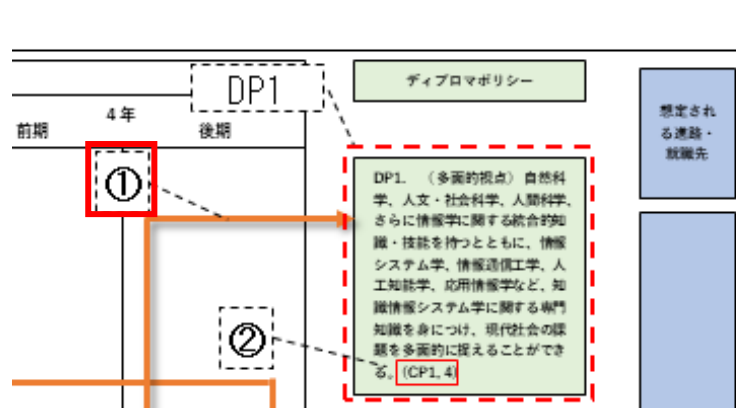
例：現代システム科学域知識情報システム学類

例えば、現代システム科学域知識情報システム学類のカリキュラムマップについて、各種の対応関係や授業科目間の履修上の体系的性を次の①～⑤で説明する。

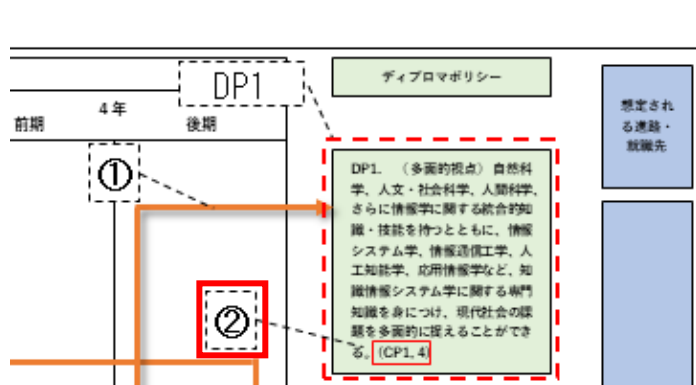
■ディプロマ・ポリシーの対応関係

①ディプロマ・ポリシーのうち、カリキュラムマップにおいて「DP1」と記載したものについて説明する。

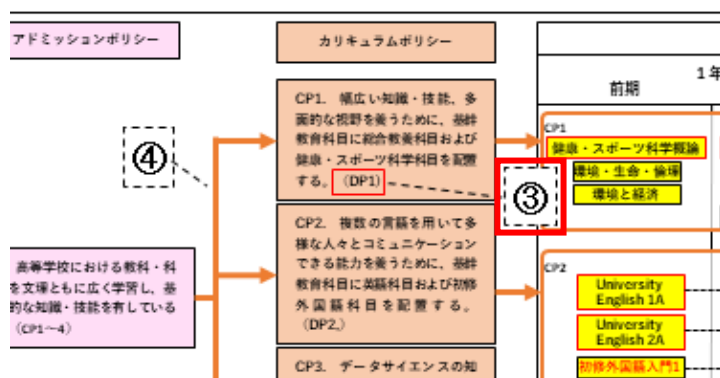
「DP1」の枠に教育課程から矢印で結びついている授業科目により、「DP1」の能力が身に付くことを示している。



- ②「DP1」の枠の中には、「DP1」と対応関係にあるカリキュラム・ポリシーを括弧書き「()」で示している。「DP1」の場合はCP1、4と対応関係であることを示している。また、複数の科目区分の積み重ねによりディプロマ・ポリシーが達成される場合は、水色の矢印で科目区分の体系性を示している。(後述⑤参照)

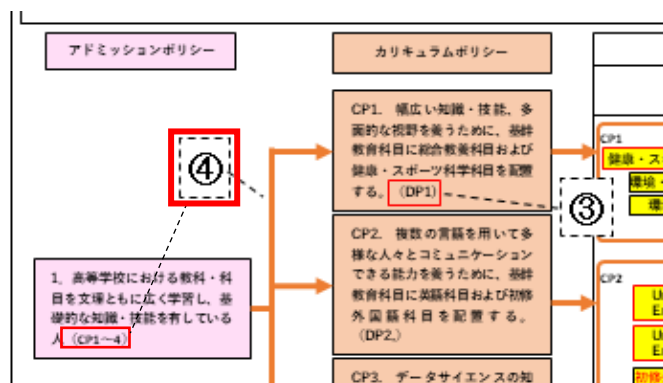


- ③ディプロマ・ポリシー同様に、カリキュラム・ポリシーの各項目に対対応関係にあるディプロマ・ポリシーを括弧書き「()」で示している。「CP1」の場合は「DP1」と対応関係であることを示している。



- ④アドミッション・ポリシーについては、矢印によりカリキュラム・ポリシーを追っていくことで、ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの関係性をたどることができる。このことをアドミッション・ポリシー

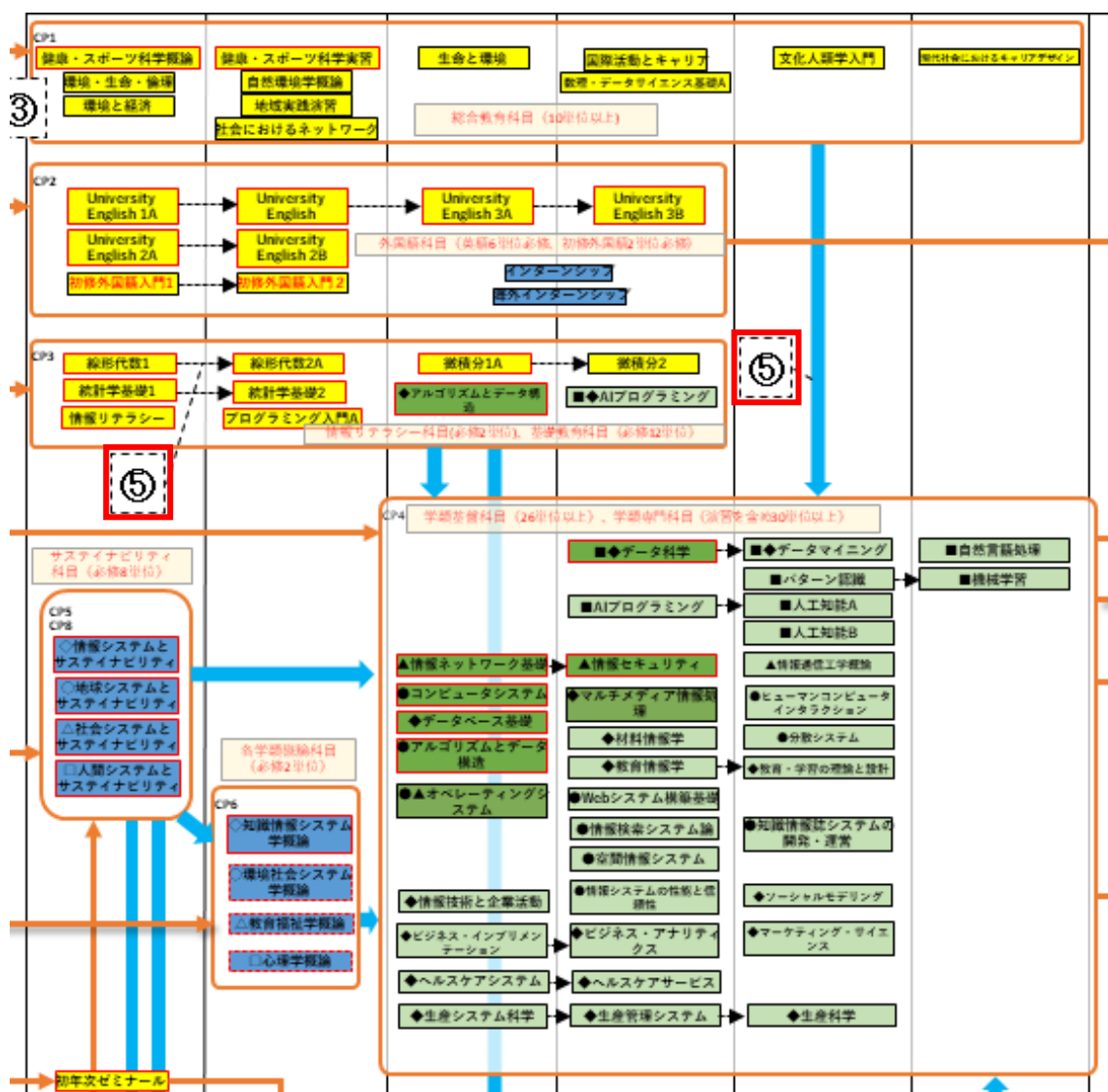
の枠の中で対応関係にあるカリキュラム・ポリシーを括弧書き「()」で示している。1つ目のポリシーの場合はCP1、2、3、4と対応関係であることを示している。



■授業科目間の履修上の体系性

⑤カリキュラムマップに示した教育課程において、授業科目間の黒色破線の矢印や、オレンジ色などの枠で囲った科目群間の水色の矢印により、履修上の体系性を示している。

例えば、1年次前期に配置されている「線形代数 1」と1年次後期に配置されている「線形代数 2A」は黒色破線の矢印で結びついており、授業科目間の体系性を示している。同様に、1年次前期に配置されCP1と結びついている「健康・スポーツ科学概論」、「環境・生命・倫理」及び「環境と経済」などを含むオレンジ色の枠の科目群と、2年次～3年次に配置されCP4と結びついている「情報ネットワーク基礎」、「コンピューターシステム」及び「データベース基礎」などを含むオレンジ色の枠の科目群を水色の矢印で結びつけることにより、履修上の体系性を示している。



カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー、授業科目と授業科目群などの関係性を1枚のカリキュラムマップで表現する際に、矢印同士を区別するために色分けを行っている。現代システム科学域については、以下のとおり整理を行った。

科目間の体系性：	黒色破線の矢印	----->
科目区分間の体系性：	水色の矢印	————>
DP、CP、AP の関係性：	オレンジ色の矢印	————>

⑥各授業科目について、科目区分や必修・選択の別は、カリキュラムマップの左下（あるいは紙面の余白）に「凡例」を示した。このほか、現代システム科学域において作成したカリキュラムマップでは、現代システム科学域における「基礎学問分野」（○、△、□、◇の記号）と各学類における「主な教育研究分野」（●、▲、■、◆の記号）が、どの授業科目で身に付けるのかを示しており、これらについても凡例で示した。



各学部等・研究科において作成したカリキュラムマップは、本審査意見への対応を記載した書類の資料1「学部等・研究科 カリキュラムマップ」(P3～P187)として添付する。なお、学部等・研究科において提出したカリキュラムマップのタイトルは次のとおりである。

学部等

【現代システム科学域】

知識情報システム学類

1. カリキュラムマップ
2. 未来デザインコースカリキュラムマップ

環境社会システム学類

1. カリキュラムマップ (自然環境学)
2. カリキュラムマップ (社会環境学)
3. カリキュラムマップ (環境哲学・政策学)
4. 未来デザインコースカリキュラムマップ (自然環境学を中心に履修する場合の例)

教育福祉学類

1. カリキュラムマップ (教育福祉総合志向：教育福祉学全体を学び、多面的視点から持続可能な社会の実現に寄与する)
2. カリキュラムマップ (教育福祉の福祉志向モデル：教育福祉学を学びながら社会福祉士やSSWの資格取得を目指す)
3. カリキュラムマップ (教育福祉の保育志向モデル：教育福祉学を学びながら保育士資格取得を目指す)
4. カリキュラムマップ (教育福祉教育志向：教育福祉学を学びながら教員免許の取得を目指す)
5. 未来デザインコースカリキュラムマップ

心理学類

1. カリキュラムマップ

2. 未来デザインコースカリキュラムマップ：認知科学と情報科学を融合してシステム開発に貢献できる人材
--

【文学部】

哲学歴史学科

1. 哲学コース カリキュラムマップ
2. 日本史コース カリキュラムマップ
3. 日本史コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ
4. 世界史コース カリキュラムマップ
5. 世界史コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ

人間行動学科

1. 社会学コース カリキュラムマップ
2. 心理学コース カリキュラムマップ
3. 心理学コース（公認心理師資格取得）カリキュラムマップ
4. 教育学コース カリキュラムマップ
5. 地理学コース カリキュラムマップ

言語文化学科

1. 国語国文学コース カリキュラムマップ
2. 中国語中国文学コース カリキュラムマップ
3. 中国語中国文学コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ
4. 英米言語文化コース カリキュラムマップ
5. ドイツ語圏言語文化コース（標準）カリキュラムマップ
5. ドイツ語圏言語文化コース（教員免許取得）カリキュラムマップ
6. ドイツ語圏言語文化コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ
7. フランス語圏言語文化コース（教員免許取得）カリキュラムマップ

文化構想学科

1. 表現文化コース カリキュラムマップ
2. 表現文化コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ
3. アジア文化コース カリキュラムマップ
4. アジア文化コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ
5. アジア文化コース（研究者志望タイプ）カリキュラムマップ
6. 文化資源コース カリキュラムマップ
7. 文化資源コース（公務員志望）カリキュラムマップ
8. 文化資源コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ

【法学部】

法学科

- | |
|---------------|
| 1. カリキュラム・マップ |
|---------------|

【経済学部】

経済学科

- | |
|-------------------------------------|
| 1. カリキュラムマップ 〈★ジェネラル・プラティカル・エコノミスト〉 |
| 2. カリキュラムマップ 〈★エコノミック・データ・サイエンティスト〉 |
| 3. カリキュラムマップ 〈★ポリシー・プランナー〉 |
| 4. カリキュラムマップ 〈★リージョナル・クリエーター〉 |
| 5. カリキュラムマップ 〈★グローバル・アナリスト〉 |
| 6. カリキュラムマップ 〈★ソーシャル・エコノミスト〉 |
| 7. カリキュラムマップ 〈★マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト〉 |

【商学部】

商学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

公共経営学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

【理学部】

数学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

物理学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

化学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

生物学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

地球学科

- | |
|--------------|
| 1. カリキュラムマップ |
|--------------|

生物化学科

1. カリキュラムマップ

【工学部】

航空宇宙工学科

1. カリキュラムマップ

海洋システム工学科

1. カリキュラムマップ

機械工学科

1. カリキュラムマップ

建築学科

1. カリキュラムマップ

都市学科

1. カリキュラムマップ

電子物理工学科

1. カリキュラムマップ（電子物性コース）

2. カリキュラムマップ（電子材料コース）

情報工学科

1. カリキュラムマップ

電気電子システム工学科

1. カリキュラムマップ

応用化学科

1. カリキュラムマップ

化学工学科

1. カリキュラムマップ

マテリアル工学科

1. カリキュラムマップ

化学バイオ工学科

1. カリキュラムマップ

【農学部】

応用生物科学科

1. カリキュラムマップ

生命機能化学科

1. カリキュラムマップ

緑地環境科学科

1. カリキュラムマップ

【獣医学部】

獣医学科

1. カリキュラムマップ（標準）

2. カリキュラムマップ（食生産科学副専攻）

【医学部】

医学科

1. カリキュラムマップ

リハビリテーション学科

1. 理学療法学専攻 カリキュラムマップ

2. 作業療法学専攻 カリキュラムマップ

【看護学部】

看護学科

1. 実践看護科学コース カリキュラムマップ

2. 先進ケア科学コース カリキュラムマップ

【生活科学部】

食栄養学科

1. カリキュラム・マップ（食品栄養学コース）

2. カリキュラム・マップ（実践栄養学コース）

3. カリキュラム・マップ（栄養士）

4. カリキュラム・マップ（管理栄養士）

5. カリキュラム・マップ（栄養教諭）

6. カリキュラム・マップ（家庭科教諭）

居住環境学科

1. カリキュラム・マップ（建築士資格取得）
2. カリキュラム・マップ（標準）

人間福祉学科

1. カリキュラム・マップ（公認心理師）
2. カリキュラム・マップ（社会福祉士）
3. カリキュラム・マップ（家族・社会・生活系モデル）

研究科

【現代システム科学研究科】

現代システム科学専攻

1. 博士前期課程 環境共生科学分野 カリキュラムマップ
2. 博士前期課程 言語文化学分野 カリキュラムマップ
3. 博士前期課程 人間科学分野 カリキュラムマップ
4. 博士前期課程 社会福祉学分野 カリキュラムマップ
5. 博士前期課程 臨床心理学分野 カリキュラムマップ
6. 博士前期課程 認知行動科学分野 カリキュラムマップ
7. 博士後期課程 環境共生科学分野 カリキュラムマップ
8. 博士後期課程 言語文化学分野 カリキュラムマップ
9. 博士後期課程 人間科学分野 カリキュラムマップ
10. 博士後期課程 社会福祉学分野 カリキュラムマップ
11. 博士後期課程 心理学分野 カリキュラムマップ

【文学研究科】

哲学歴史学専攻

1. （博士前期課程）カリキュラムマップ
2. （博士後期課程）カリキュラムマップ

人間行動学専攻

1. （博士前期課程）カリキュラムマップ
2. （博士後期課程）カリキュラムマップ

言語文化学専攻

1. （博士前期課程）カリキュラムマップ 1/2
2. （博士前期課程）カリキュラムマップ 2/2
3. （博士後期課程）カリキュラムマップ 1/2
4. （博士後期課程）カリキュラムマップ 2/2

文化構想学専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ
2. (博士後期課程) カリキュラムマップ

【法学研究科】

法学政治学専攻

1. (博士前期課程) カリキュラム・マップ
2. (博士後期課程) カリキュラム・マップ

法曹養成専攻

1. 専門職学位課程 カリキュラム・マップ

【経済学研究科】

経済学専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ
2. (博士後期課程) カリキュラムマップ

【経営学研究科】

グローバルビジネス専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ (修士：経営学)
2. (博士前期課程) カリキュラムマップ (修士：商学)
3. (博士前期課程) カリキュラムマップ (修士：グローバルビジネス)
4. (博士後期課程) カリキュラムマップ (博士：経営学)
5. (博士後期課程) カリキュラムマップ (博士：商学)

【都市経営研究科】

都市経営専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ
2. (博士後期課程) カリキュラムマップ

【情報学研究科】

基幹情報学専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ
2. (博士後期課程) カリキュラムマップ

学際情報学専攻

1. (博士前期課程) カリキュラムマップ

- | |
|-----------------------|
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |
|-----------------------|

【理学研究科】

数学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

物理学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

化学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

生物学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

地球学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

生物化学専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

【工学研究科】

航空宇宙海洋系専攻

- | | | |
|-------------|-----------|----------------|
| 1. (博士前期課程) | カリキュラムマップ | (航空宇宙工学分野) |
| 2. (博士前期課程) | カリキュラムマップ | (海洋システム工学分野) |
| 3. (博士後期課程) | カリキュラムマップ | (航空宇宙工学分野) |
| 4. (博士後期課程) | カリキュラムマップ | (海洋システム工学分野) |

機械系専攻

- | |
|-----------------------|
| 1. (博士前期課程) カリキュラムマップ |
| 2. (博士後期課程) カリキュラムマップ |

都市系専攻

1.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ
2.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ

電子物理系専攻

1.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(電子物性コース)
2.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(電子材料コース)
3.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(電子物性コース)
4.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(電子材料コース)

電気電子系専攻

1.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ
2.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ

物質化学生命系専攻

1.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(応用化学分野)
2.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(化学工学分野)
3.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(マテリアル工学分野)
4.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ	(化学バイオ工学分野)
5.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(応用化学分野)
6.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(化学工学分野)
7.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(マテリアル工学分野)
8.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ	(化学バイオ工学分野)

量子放射線系専攻

1.	(博士前期課程)	カリキュラムマップ
2.	(博士後期課程)	カリキュラムマップ

【農学研究科】

応用生物科学専攻

1.	博士前期課程	カリキュラムマップ
2.	博士後期課程	カリキュラムマップ

生命機能化学専攻

1.	博士前期課程	カリキュラムマップ
2.	博士後期課程	カリキュラムマップ

緑地環境科学専攻

1.	博士前期課程	カリキュラムマップ
----	--------	-----------

2. 博士後期課程 カリキュラムマップ

【獣医学研究科】

獣医学専攻

- | |
|--------------------------------|
| 1. 博士課程 (動物構造機能学コース) カリキュラムマップ |
| 2. 博士課程 (獣医環境科学コース) カリキュラムマップ |
| 3. 博士課程 (獣医臨床科学コース) カリキュラムマップ |

【医学研究科】

医科学専攻

- | |
|-------------------------|
| 1. 修士課程 医科学専攻 カリキュラムマップ |
|-------------------------|

基礎医科学専攻

- | |
|---------------------------|
| 1. 博士課程 基礎医科学専攻 カリキュラムマップ |
|---------------------------|

臨床医科学専攻

- | |
|---------------------------|
| 1. 博士課程 臨床医科学専攻 カリキュラムマップ |
|---------------------------|

【リハビリテーション学研究科】

リハビリテーション学専攻

- | |
|---------------------|
| 1. 博士前期課程 カリキュラムマップ |
| 2. 博士後期課程 カリキュラムマップ |

【看護学研究科】

看護学専攻

- | |
|--|
| 1. 博士前期課程 (修士論文コース：実践看護科学領域) カリキュラムマップ |
| 2. 博士前期課程 (実践看護研究コース：実践看護科学領域) カリキュラムマップ |
| 3. 博士前期課程 (修士論文コース・先進ケア科学領域) カリキュラムマップ |
| 4. 博士後期課程 カリキュラムマップ |

【生活科学研究科】

生活科学専攻

- | |
|---|
| 1. 食栄養学分野 食栄養学コース (博士前期課程) カリキュラム・マップ |
| 2. 居住環境学分野 居住環境学コース (博士前期課程) カリキュラム・マップ |
| 3. 総合福祉・臨床心理学分野 総合福祉科学コース (博士前期課程) カリキュラム・マップ |
| 4. 総合福祉・臨床心理学分野 臨床心理学コース (博士前期課程) カリキュラム・マップ |

5. (博士後期課程) カリキュラム・マップ

(2)

(対応)

現代システム科学域における初修外国語科目の履修については、学類によって履修する授業科目を指定しておらず、国際基幹教育機構が提供する初修外国語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語）から選択することが可能である。

そのため、御指摘の各学類のカリキュラムマップに記載している「フランス語入門 1」、「フランス語入門 2」等の初修外国語の授業科目は、「初修外国語入門 1」、「初修外国語入門 2」としてカリキュラムマップ上に表記する。なお、現代システム科学域が履修を推奨する「初修外国語入門 1」、「初修外国語入門 2」は、以下のとおりである。

初修外国語入門 1（1 年前期）	初修外国語入門 1（1 年後期）
ドイツ語入門 1	ドイツ語入門 2
フランス語入門 1	フランス語入門 2
中国語入門 1	中国語入門 2
ロシア語入門 1	ロシア語入門 2
朝鮮語入門 1	朝鮮語入門 2

上記の初修外国語入門科目に加え、中級、応用などの授業科目も国際基幹教育機構において開設され、現代システム科学域の学生も履修することができる。心理学類未来デザインコースのカリキュラムマップでは、想定される進路に合わせて、初修外国語を応用まで履修した場合を記載している。

本審査意見への対応を記載した書類の資料 1「学部等・研究科 カリキュラムマップ」（P3～P15 参照）として添付する。

(新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (資料) -2 ページ) 知識情報システム学類カリキュラムマップ 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2	(設置趣旨 (資料) -2 ページ) 知識情報システム学類カリキュラムマップ <u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u>
(設置趣旨 (資料) -3 ページ) 知識情報システム学類 未来デザインコースカリキュラムマップ 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2	(設置趣旨 (資料) -3 ページ) 知識情報システム学類 未来デザインコースカリキュラムマップ <u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u>
(設置趣旨 (資料) -4 ページ)	(設置趣旨 (資料) -4 ページ)

環境社会システム学類カリキュラムマップ (自然環境学) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -5 ページ) 環境社会システム学類カリキュラムマップ (社会環境学) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -6 ページ) 環境社会システム学類カリキュラムマップ (環境哲学・政策学) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -7 ページ) 環境社会システム学類 未来デザインコースカリキュラムマップ (自然環境学を中心に履修する場合の例) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -8 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉総合志向：教育福祉学全体を学び、多面的視点から持続可能な社会の実現に寄与する) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -9 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉の福祉志向モデル：教育福祉学を学びながら社会福祉士や SSW の資格取得を目指す) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -10 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉の保育志向モデル：教育福祉学を学びながら保育士資格取得を目指す)	環境社会システム学類カリキュラムマップ (自然環境学) <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -5 ページ) 環境社会システム学類カリキュラムマップ (社会環境学) <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -6 ページ) 環境社会システム学類カリキュラムマップ (環境共生学 (政策科学、環境哲学・倫理学)) <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -7 ページ) 環境社会システム学類 未来デザインコースカリキュラムマップ <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -8 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉総合志向：教育福祉学全体を学び、多面的視点から持続可能な社会の実現に寄与する) <u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -9 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉の福祉志向モデル：教育福祉を学びながら社会福祉士や SSW の資格取得を目指す) <u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -10 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉の保育志向モデル：教育福祉を学びながら保育士資格取得を目指す)
---	--

初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -11 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉教育志向：教育福祉学を学びながら教員免許の取得を目指す) 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -12 ページ) 教育福祉学類 未来デザインコースカリキュラムマップ 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -13 ページ) 心理学類 カリキュラムマップ 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 (設置趣旨 (資料) -14 ページ) 心理学類 未来デザインコースカリキュラムマップ：認知科学と情報科学を融合してシステム開発に貢献できる人材 初修外国語入門 1→初修外国語入門 2 →初修外国語中級 1→初修外国語中級 2 →初修外国語応用 1→初修外国語応用 2	<u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -11 ページ) 教育福祉学類 カリキュラムマップ (教育福祉教育志向：教育福祉学を学びながら教員免許の取得を目指す) <u>フランス語入門 1→フランス語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -12 ページ) 教育福祉学類 未来デザインコースカリキュラムマップ <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -13 ページ) 心理学類 カリキュラムマップ <u>中国語入門 1→中国語入門 2</u> (設置趣旨 (資料) -14 ページ) 心理学類 未来デザインコースカリキュラムマップ：認知科学と情報科学を融合してシステム開発に貢献できる人材 <u>ドイツ語初級 A (基礎) →ドイツ語初級 B (会話) →ドイツ語中級 1→ドイツ語中級 2 →ドイツ語応用 1→ドイツ語応用 2</u>
---	---

(是正事項) 全学 (共通)

2. 【全体計画審査意見7の回答について】

2つのキャンパスに分かれて教育研究を行うこととなる研究科のうち、情報学研究科以外では、「他キャンパスの授業科目を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにする」「学生及び教員が原則として2校地間を移動する必要のない教育課程を編成し」といった記載となっている一方で、情報学研究科では「学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とする」とされており、大学院生が各キャンパスで支障なく教育研究を行えるのか依然として不明確である。情報学研究科において、2校地を移動する必要がある場合のモデルカリキュラムを示しつつ、教育課程の履修上支障が生じないことを説明すること。

(対応)

2以上の校地において教育研究を行う研究科については、原則として、各大学院生が所属するキャンパスは、指導教員が配置されるキャンパスに合わせて分属し、それぞれのキャンパスを中心に授業科目の履修及び研究活動を行うこととしている。そのため、大学院生及び教員共に他の校地に移動することはなく、入学から修了まで原則として1つのキャンパスにおいて授業科目の履修及び研究活動が行える体制を確保する計画である。

また、履修指導や大学院生の希望により、他キャンパスの授業を履修する場合は、メディアを利用して遠隔授業を実施することを予定している。他キャンパスの授業を履修する必要がある場合は、教員及び大学院生の移動時間などの負担をできるだけ軽減できるように調整・対応する。

以上が2以上の校地において教育研究を行う場合の全学的な方針であり、該当する研究科はこの方針に沿って全体計画審査意見7の回答をしたところであるが、具体的にどのような方針でどのような配慮等を行うのかを明確にするため、情報学研究科をはじめ理学研究科及び看護学研究科の具体的計画の表現を修正して記載する。また、経済学研究科及び情報学研究科、工学研究科の「設置の趣旨等を記載した書類」において、「学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とする」場合として、「単位未修得の授業科目を履修する者」を対象に含めていたが、当該研究科において大学院生は、指導教員が配置されるキャンパスにて授業科目を履修することから、単位未修得の授業科目を履修する場合でも、2校地を移動する必要がないため、当該研究科における「設置の趣旨等を記載した書類」の記載を修正する。

また、情報学研究科における御指摘の「学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とする」については、「他キャンパスの授業科目を自由科目として履修することを希望する者」に対しての原則となり、「履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮する。」という記載については、コロナ禍の中、オンラインでの履修について実績が蓄積されていることから、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修することを希望する者は、オンラインでの履修とすることを原則とし、このことを「設置の趣旨等を記載した書類」に修正して記載する。

以上から、2以上の校地において教育研究を行う研究科については、2以上の校地を移動することはなく、支障なく教育研究を行える。

本審査意見の御指摘「情報学研究科において、2校地を移動する必要がある場合のモデルカリキュラムを示しつつ、教育課程の履修上支障が生じないことを説明すること。」については、前述のとおり自由科目（単位認定できるが卒業要件に算入しない科目）を履修する場合に該当することになることから、自由科目をオンラインで履修する場合のモデルカリキュラムを履修モデルにより示す。これにより、情報学研究科「設置の趣旨等を記載した書類」添付資料の履修モデルを修正する。

この履修モデルの作成にあたっては、自由科目を2年次に配当している。これは、2年次は講義等の授業科目の配当はなく、それぞれの専攻における研究指導が主となることから、研究指導の進捗に応じて、学生が必要と考える他の専攻の1年次配当の授業科目を履修する可能性を考慮し、本履修モデルでは自由科目を2年次に配当するかたちで示した。また、自由科目の設定については、本研究科の前身にあたる大阪市立大学工学研究科及び大阪府立大学工学研究科、大阪府立大学人間社会システム科学研究科における2018年度及び2019年度の自由科目の履修実績（学生一人当たり1.9科目の自由科目を履修）から2科目配置した。さらに、それぞれの専攻に配置した自由科目については、前述の前身の研究科における学生の研究テーマの実績により、学生が選択する可能性が高い授業科目を配置した。

情報学研究科 基幹情報学専攻（博士前期課程） 履修モデル

履修モデル（情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・知能情報学分野）
企業において人工知能・機械学習の専門的業務に携わる専門職業人

科目区分			1年次		2年次		単位 合計	
			科 目 名	単位	科 目 名	単位		
大学院 共通教育科目			研究公正A	1				
			小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	1	
専門科目	専攻演習科目		プログラミング演習(機械学習演習)	2				
			先端ソフトウェア環境構築実践	2				
			小計（2科目）	4	小計（0科目）	0	4	
	専攻研究指導				基幹情報学特別研究1	2		
					基幹情報学特別研究2	2		
			小計（0科目）	0	小計（2科目）	4	4	
	専攻基礎科目		基幹情報学セミナー	2				
			テクニカルライティング・プレゼンテーション	2				
			小計（2科目）	4	小計（0科目）	0	4	
	専攻専門科目	知能情報学系科目		深層学習	2			
				ビックデータ解析	2			
				先端的計算知能	2			
				データマイニング	2			
				ヒューマンコンピュータインタラクション	2			
				言語情報学	2			
小計（6科目）				12	小計（0科目）	0	12	
システム情報学系科目			情報プラットフォーム構成論	2				
	情報センシングシステム		2					
	高性能計算論		2					
小計（3科目）	6	小計（0科目）	0	6				
自由科目	学際情報学 専攻科目				(生産システム科学特論)	2		
					(認知心理学特論)	2		
小計（0科目）			0	小計（2科目）	4	4		
合計(卒業単位数)			14科目	27	2科目	4	31	
合計(自由科目単位数)			0科目	0	2科目	4	4	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

() 書きの科目は自由科目を示す。

履修モデル（情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・システム情報学分野）
企業において情報システムの設計、構築に携わる専門職業人

科目区分			1年次		2年次		単位 合計
			科 目 名	単位	科 目 名	単位	
大学院 共通 教育 科目			研究公正A	1			
			小計（1科目）	1	小計（0科目）	0	1
専 門 科 目	専 攻 演 習 科 目	プログラミング演習(機械学習演習)	2				
		先端ソフトウェア環境構築実践	2				
		小計（2科目）	4	小計（0科目）	0	4	
	専 攻 科 目 研 究 指 導			基幹情報学特別研究1	2		
				基幹情報学特別研究2	2		
		小計（0科目）	0	小計（2科目）	4	4	
	専 攻 基 礎 科 目	基幹情報学セミナー	2				
		テクニカルライティング・プレゼンテーション	2				
		小計（2科目）	4	小計（0科目）	0	4	
	専 攻 専 門 科 目	知 能 情 報 学 系 科 目	機械学習構成論	2			
			深層学習	2			
			データマイニング	2			
			小計（3科目）	6	小計（0科目）	0	6
		シ ス テ ム 情 報 学 系 科 目	情報プラットフォーム構成論	2			
			情報センシングシステム	2			
			サイバーセキュリティ	2			
			ネットワークシステム設計論	2			
			時系列信号処理	2			
			無線ネットワークシステム	2			
小計（6科目）	12	小計（0科目）	0	12			
自 由 科 目	学 際 情 報 学 専 門 専 攻 科 目			(情報経済特論)	2		
				(空間情報システム特論)	2		
		小計（0科目）	0	小計（2科目）	4	4	
合計(卒業単位数)			14科目	27	2科目	4	31
合計(自由科目単位数)			0科目	0	2科目	4	4

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

()書きの科目は自由科目を示す。

情報学研究科 学際情報学専攻（博士前期課程） 履修モデル

履修モデル（情報学研究科・学際情報学専攻博士前期課程・学際情報学分野）
企業において情報システムの設計に携わる人材像

科目区分			1年次		2年次		単位 合計
			科 目 名	単位	科 目 名	単位	
大学院 共通 教育 科目			研究公正A	1			
	小計（1科目）		1	小計（0科目）	0	1	
専門 科目	専攻 演習 科目	学際情報学特別演習1		2			
		学際情報学特別演習2		2			
		小計（2科目）		4	小計（0科目）	0	4
	専攻 研究 指導				学際情報学特別研究1	2	
					学際情報学特別研究2	2	
	小計（0科目）		0	小計（2科目）	4	4	
	専攻 基幹 科目	学際情報学基礎論		2			
		小計（1科目）		2	小計（0科目）	0	2
	専攻 専門 科目	情報 工 学 系 科 目	情報通信システム特論		2		
			情報ネットワーク特論		2		
			情報セキュリティ特論		2		
			データサイエンス特論		2		
			情報基盤システム特論		2		
			分散システム特論		2		
		小計（6科目）		12	小計（0科目）	0	12
		学際 情報 学 系 科 目	経営情報分析特論		2		
	生産科学特論		2				
空間情報システム特論			2				
認知心理学特論		2					
小計（4科目）		8	小計（0科目）	0	8		
自由 科目	専攻 専門 基幹 情報 学 系 科 目				(時系列信号処理)	2	
					(計算知能)	2	
		小計（0科目）		0	小計（2科目）	4	4
合計(卒業単位数)			15科目	19	4科目	4	23
合計(自由科目単位数)			0科目	0	2科目	4	4

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

() 書きの科目は自由科目を示す。

(情報学研究科 設置の趣旨等を記載した書類より抜粋)

1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

大阪公立大学では、2025 年度（令和 7 年度）に「森之宮キャンパス」を開設し、全学共通教育として基幹教育を実施する。また、一部の学部等が移転する。さらに、大阪市立大学と大阪府立大学の同種分野で集約化を行う学部（工学部、理学部、看護学部）については、同一キャンパスで教育を行う必要があることから、キャンパスの集約化を進める。

情報学研究科においては、教員が所属する研究室に応じて杉本キャンパスまたは中百舌鳥キャンパスで教育研究を実施する。授業については、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパスに移動して履修できるよう、時間割を配慮する。また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、大学設置基準第 25 条第 2 項及び平成 13 年文部科学省告示第 51 号（大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等）に基づき、他キャンパスの履修希望者に対し遠隔授業を実施する。

同時双方向の遠隔授業システムを採用し、その場で当該授業を行う教員が他キャンパスの学生からの設問解答、質疑応答による指導を行う。また、遠隔で授業を受ける教室に、ティーチング・アシスタント等を配置する。授業終了後には、インターネット等の利用により、設問解答、添削指導等を併せて行う。以上により、遠隔授業による授業の質を保証する。

いずれのキャンパスも十分な収容定員を確保し、杉本キャンパスは 12 名、中百舌鳥キャンパスには 37 名の専任教員を配置する。

各キャンパスの教員配置の内訳は、助教を除き、杉本キャンパスにおいて基幹情報学専攻の教授 3 名及び准教授 2 名、学際情報学専攻の教授 3 名及び准教授 3 名を配置し、中百舌鳥キャンパスにおいては、基幹情報学専攻の教授 8 名及び准教授 7 名、学際情報学専攻の教授 11 名及び准教授 9 名を配置し、十分な研究指導を行うことができる。（参考：資料 7 「2 以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置」）

また、大学院生の研究室の所属の取り扱いについては、出願時に研究指導を希望する教員（研究室）を記載し、その希望に基づき入学時に所属決定する。大学院生の配置されるキャンパスは、指導教員の所属するキャンパスとし、科目の履修及び研究活動を行うことができるように場所を十分に確保している。なお、両キャンパスにおける大学院生が研究を行う場所の確保状況及び施設、設備については、「8. 施設、設備等の整備計画 イ. 校舎等施設の設備計画」に記載のとおりである。

また、それぞれのキャンパスに図書館、自習スペース、保健管理施設を整備するほか、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を整備する。

なお、2027 年度（令和 9 年度）には、森之宮キャンパス及び中百舌鳥キャンパスで授業科目の履修及び研究活動を行うことになるが、2026 年度までと同様に遠隔授業システムを併用することで、学生及び教員のキャンパス移動の負担を軽減する。

キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮する。

※ 資料6『情報学研究科キャンパスの遷移』参照

<参考>

本学における教育は、配当年次の配慮やコース単位のカリキュラムの設定などにより、基本的に学年単位で1つの校地で授業等を行い、学生や教員の2校地の移動負担が最小限となるように考慮した時間割編成とすることを前提としており、2つのキャンパスに分かれて教育研究を行うこととなる研究科については、①「時間割編成における工夫」、②「履修上の工夫」、③「授業形態における工夫」などの基本的な考えを原則として、大学院生が支障なく教育研究を行うことができるようにしている。

(大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類「2以上の校地において教育研究を行う研究科の具体的計画」より抜粋)

(1) 時間割編成における工夫

まず、学生にキャンパスの移動による過度の負担がかからないよう、時間割を編成する。例えば、移動が必要な科目を後期の特定の曜日に集めるなどの工夫を行う。

また、教員の担当授業が同一日で複数キャンパスの実施にならないよう、時間割を調整する。

なお、基幹教育科目のうち、教職課程等の複数の学部等が履修する科目については、全ての学部等が、森之宮キャンパスで学修する期間中に卒業に必要な単位数を修得できるよう時間割上の配慮をするが、必要に応じて他キャンパスでも開講する。

(2) 履修上の工夫

全学共通科目である「基幹教育」のうち、森之宮キャンパスで学修する期間中に卒業に必要な授業科目を修得できなかった学生が専門教育の拠点キャンパスへ移動後に当該科目を履修する場合や、他のキャンパスの授業科目を自由科目として履修する場合は、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数など履修登録状況に応じて、教員が学生の所在するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して遠隔授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。

(3) 授業形態における工夫

平常時は面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第25条第2項及び本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用した遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。遠隔授業はその場で当該授業を行う教員が他キャンパ

スの学生からの設問解答、質疑応答による指導を行い、双方向性を担保する。また、遠隔で授業を受ける教室に、ティーチング・アシスタント等を配置し、学生の主体的な活動を保障する。授業前後に授業支援システム（LMS）等により、担当教員が質問への回答、指導できるよう体制も整えるなど、遠隔授業による授業の質を担保する。

専門教育のカリキュラム等の状況により、森之宮キャンパスなど他のキャンパスに学生が移動することが難しい場合には、修得できなかった必修科目を履修する場合に備え、録画などによるオンデマンドでの履修体制を確立する。なお、オンデマンドで受講した学生に対して双方向性を担保するため、授業前後に授業支援システム（LMS）等により、担当教員が質問への回答、指導できるよう体制も整えるなど、遠隔授業による授業の質を担保する。

（４）その他

学生に対しては、森之宮キャンパスのほか、各キャンパスに図書館（室）、自修スペース等を整備し、学生の授業時間外学修を各キャンパスで適切に行えるようにする。さらに、保健管理施設、学生相談室、履修相談、健康管理の体制を各キャンパスで整備するほか、学生がどこでも情報にアクセスできるように学生向けポータルサイトを開設する。

森之宮キャンパスには、授業の準備に共同で使える教員控室を準備する。

なお、学生の移動に関しては、バスによる移動、交通費の補助等の支援を計画している。

以下に、２つのキャンパスに分かれて教育研究を行うこととなる研究科について、設置の趣旨等を記載した書類の「２以上の校地において教育研究を行う研究科の具体的計画」に記載された内容について抜粋する。いずれの研究科においても、前述の全学の方針①～③に沿った対応をすることとしており、支障なく教育研究が行えるよう配慮する。

- ① 時間割編成における工夫
- ② 履修上の工夫
- ③ 授業形態における工夫

<設置の趣旨等を記載した書類の「２以上の校地において教育研究を行う研究科の具体的計画」より抜粋>

【経済学研究科】

キャンパス：杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパス

- ・大学院生の配置されるキャンパスは指導教員が所属するキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うことができるように教科科目及び研究スペースの確保がなされる。（全学方針①②）
- ・他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。（全学方針②③）

【情報学研究科】

キャンパス：杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパス

- ・大学院生の配置されるキャンパスは、指導教員の所属するキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することではなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。(全学方針①②)
- ・他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。(全学方針②③)

【理学研究科（生物化学専攻以外）】

キャンパス：杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパス

- ・各大学院生が配置されるキャンパスは、指導教員が配置されるキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することではなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。(全学方針①②)
- ・他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。(全学方針②③)

【工学研究科（機械系専攻、電子物理系専攻、電気電子系専攻、物質化学生命系専攻）】

キャンパス：杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパス

- ・各大学院生が配置されるキャンパスは、指導教員が配置されるキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することではなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。(全学方針①②)
- ・移動等が伴う場合にも、移動が必要のない遠隔授業の実施を取り入れるなどの対応をとる。(全学方針②③)
- ・どうしても移動が必要な場合などは、各専攻の状況に応じて、移動時間などの負担を軽減できるような時間割上の配慮や調整を行う。(全学方針①)

【看護学研究科】

キャンパス：阿倍野キャンパス、羽曳野キャンパス

- ・研究指導教員の教育研究拠点であるキャンパスにて学生は教育研究を実施する。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することではなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。(全学方針①②)
- ・他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。(全学方針②③)

【生活科学研究科】

キャンパス：杉本キャンパス、羽曳野キャンパス

- ・大学院生は、指導教員の所属するキャンパスの研究室に所属するので、大学院生が研究を行う場所、研究指導を受ける教員は十分に確保されている。（全学方針①）
- ・キャンパスを移動することなく当該キャンパスで実施することとし、他キャンパスの学生は遠隔授業で実施することとしており、学生及び教員の教育研究上の支障及び移動に関する負担はない。（全学方針②③）

（新旧対照表）経済学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）－28 ページ） 13 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 （略） （文章重複のため削除）	（設置趣旨（本文）－28 ページ） 13 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 （略） <u>キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。</u>

（新旧対照表）情報学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）－53、54 ページ） 13 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 （略） 情報学研究科においては、教員が所属する研究室に応じて杉本キャンパスまたは中百舌鳥キャンパスで教育研究を実施する。 大学院生の配置されるキャンパスは、指導教員の所属するキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。そのため、原則として、学生	（設置趣旨（本文）－53、54 ページ） 13 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 （略） 情報学研究科においては、教員が所属する研究室に応じて杉本キャンパスまたは中百舌鳥キャンパスで教育研究を実施する。 <u>授業については、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパス</u>

及び教員共に2以上の校地を移動することではなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。 遠隔授業については、同時双方向の遠隔授業システムを採用し、その場で当該授業を行う教員が他キャンパスの学生からの設問解答、質疑応答による指導を行う。また、遠隔で授業を受ける教室に、ティーチング・アシスタント等を配置する。授業終了後には、インターネット等の利用により、設問解答、添削指導等を併せて行う。以上により、遠隔授業による授業の質を保証する。 (略) (文章重複のため削除) (設置趣旨(資料)－10ページ) 資料3 履修モデル(情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・知能情報学分野) 科目区分 自由科目 学際情報学専攻専門科目 2年次	に移動して履修できるよう、時間割を配慮する。また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、大学設置基準第25条第2項及び平成13年文部科学省告示第51号(大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づく大学が履修させることができる授業等)に基づき、他キャンパスの履修希望者に対し遠隔授業を実施する。 同時双方向の遠隔授業システムを採用し、その場で当該授業を行う教員が他キャンパスの学生からの設問解答、質疑応答による指導を行う。また、遠隔で授業を受ける教室に、ティーチング・アシスタント等を配置する。授業終了後には、インターネット等の利用により、設問解答、添削指導等を併せて行う。以上により、遠隔授業による授業の質を保証する。 (略) キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮する。 (設置趣旨(資料)－10ページ) 資料3 履修モデル(情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・知能情報学分野) (追加)
---	--

(生産システム科学特論) 単位 2	
2 年次 (認知心理学特論) 単位 2	
1 年次 小計 (0 科目) 単位 0	
2 年次 小計 (2 科目) 単位 4	
単位合計 4	
合計 (卒業単位数)	
合計 (自由科目単位数)	
1 年次 0 科目 単位 0	
2 年次 2 科目 単位 4	
単位合計 4	

欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。 () 書きの科目は自由科目を示す。 (設置趣旨 (資料) -11 ページ) 資料 3 履修モデル (情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・システム情報学分野) 科目区分 自由科目 学際情報学専攻専門科目 2 年次 (情報経済特論) 単位 2 2 年次 (空間情報システム特論) 単位 2 1 年次 小計 (0 科目) 単位 0 2 年次 小計 (2 科目) 単位 4 単位合計 4 合計 (卒業単位数) 合計 (自由科目単位数)	欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。 (設置趣旨 (資料) -11 ページ) 資料 3 履修モデル (情報学研究科・基幹情報学専攻博士前期課程・システム情報学分野) (追加)
--	--

1 年次 0 科目 単位 0 2 年次 2 科目 単位 4 単位合計 4 欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。 () 書きの科目は自由科目を示す。 (設置趣旨 (資料) -12 ページ) 資料 3 履修モデル (情報学研究科・学際情報学専攻博士前期課程・学際情報学分野) 科目区分 自由科目 基幹情報学専攻専門科目 2 年次 (時系列信号処理) 単位 2 2 年次 (計算知能) 単位 2 1 年次 小計 (0 科目)	欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。 (設置趣旨 (資料) -12 ページ) 資料 3 履修モデル (情報学研究科・学際情報学専攻博士前期課程・学際情報学分野) (追加)
--	--

単位 0 2 年次 小計 (2 科目) 単位 4 単位合計 4 合計 (卒業単位数) 合計 (自由科目単位数) 1 年次 0 科目 単位 0 2 年次 2 科目 単位 4 単位合計 4 欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。 () 書きの科目は自由科目を示す。	
欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。	欄外 (注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

(新旧対照表) 理学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -64、65 ページ) 1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	(設置趣旨 (本文) -64、65 ページ) 1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

生物化学専攻以外は、杉本キャンパス・中百舌鳥キャンパスの2校地において教育研究を行う。数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻、地球学専攻については、学生及び教員が原則として2校地間を移動する必要のない教育課程を編成しており、教育研究に不具合は生じない。 なお、生物化学専攻は中百舌鳥キャンパスのみで教育研究を行う。 大学院生の研究室配属は、出願時に希望する指導教員（研究室）を記載させ、その希望に基づき入学後速やかに決定する。 各大学院生が配置されるキャンパスは、指導教員が配置されるキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することはなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。 各専攻における教員の配置は、「5 教員組織の編成の考え方及び特色 ア 教員組織編成の考え方」に記載のとおりであり、また、各専攻におけるキャンパス毎の教員配置は別添資料6「2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置」に記載のとおりである。 また、両キャンパスにおける大学院生が研究を行う場所の確保状況については教育研究上に問題なく確保できており、その詳細については、「8 施設、設備等の整備計画 イ 校舎等施設の整備計画」のとおりである。これらのことから、大学院生が、配置されたキャンパスで支障なく研究活動を行うことができると言える。	生物化学専攻以外は、杉本キャンパス・中百舌鳥キャンパスの2校地において教育研究を行う。数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻、地球学専攻については、学生及び教員が原則として2校地間を移動する必要のない教育課程を編成しており、教育研究に不具合は生じない。 なお、生物化学専攻は中百舌鳥キャンパスのみで教育研究を行う。 大学院生の研究室配属は、出願時に希望する指導教員（研究室）を記載させ、その希望に基づき入学後速やかに決定する。 各大学院生が配置されるキャンパスは、指導教員が配置されるキャンパスとし、当該キャンパスにて科目の履修及び研究活動を行うこととする。各専攻における教員の配置は、「5 教員組織の編成の考え方及び特色 ア 教員組織編成の考え方」に記載のとおりであり、また、各専攻におけるキャンパス毎の教員配置は別添資料6「2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置」に記載のとおりである。 また、両キャンパスにおける大学院生が研究を行う場所の確保状況については教育研究上に問題なく確保できており、その詳細については、「8 施設、設備等の整備計画 イ 校舎等施設の整備計画」のとおりである。これらのことから、大学院生が、配置されたキャンパスで支障なく研究活動を行うことができると言える。 さらに、他キャンパスの授業科目を履修希望する者に対しては、基本的には<u>対面により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利</u>
---	---

	<u>用しての授業実施など、適宜学生の履修に配慮するものとする。</u>
--	--------------------------------------

(新旧対照表) 工学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -141、142、143、144 ページ) 1 3 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 (略) (文章重複のため削除) (略) 機械系専攻 (略) 授業については、学生は指導教員の所在するキャンパスで実施される授業を主に履修するため、基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになる。万一、移動が伴う場合にも、移動が必要のない遠隔授業の実施を取り入れるなどの対応をとる。どうしても移動が必要な場合などは、各専攻の状況に応じて、移動時間などの負担を軽減できるような時間割上の配慮や調整を行う。これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。	(設置趣旨 (本文) -141、142、143、144 ページ) 1 3 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 (略) <u>キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には対面により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。</u> (略) 機械系専攻 (略) 授業については、学生は指導教員の所在するキャンパスで実施される授業を主に履修する。<u>基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになるが、万一、他キャンパスの授業を履修する場合には適切な配慮を行う。</u>授業は、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパスに移動して履修できるよう、時間割を配慮する。また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、他キャンパスの履修希望者に対し、希望に応じて遠隔授業を実施す

電子物理系専攻 (略) 学生はそれぞれのコースに対応したキャンパスの研究室に配属され、所属のコース及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修する<u>ため</u>、基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになる。万一、<u>移動が伴う場合にも、移動が必要のない遠隔授業の実施を取り入れるなどの対応をとる。</u>どうしても移動が必要な場合などは、各専攻の状況に応じて、移動時間などの負担を軽減できるような時間割上の配慮や調整を行う。 これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。	る。<u>これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。</u> 電子物理系専攻 (略) 学生はそれぞれのコースに対応したキャンパスの研究室に配属され、所属のコース及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修する。<u>基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになるが、万一、他キャンパスの授業を履修する場合には適切な配慮を行う。</u>授業は、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパスに移動して履修できるよう、時間割を配慮する。また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、他キャンパスの履修希望者に対し、希望に応じて遠隔授業を実施する。 これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。
電気電子系専攻 (略) 学生はそれぞれの分野に対応したキャンパスの研究室に配属され、所属の分野及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修する<u>ため</u>、基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになる。万一、<u>移動が伴う場合にも、移動が必要のない遠隔授業の実施を取り入れるなどの対応をとる。</u>どうしても移動が必要な場合などは、各専攻の状況に応じて、移動時間などの負担を軽減できるような時間割上の配慮や調整を行う。	電気電子系専攻 (略) 学生はそれぞれの分野に対応したキャンパスの研究室に配属され、所属の分野及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修する。<u>基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになるが、万一、他キャンパスの授業を履修する場合には適切な配慮を行う。</u>授業は、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパスに移動して履修できるよう、時間割を配慮する。

これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。 物質化学生命系専攻 (略) 学生はそれぞれの分野に対応したキャンパスの研究室に配属され、所属の分野及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修するため、基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになる。万一、移動が伴う場合にも、移動が必要のない遠隔授業の実施を取り入れるなどの対応をとる。どうしても移動が必要な場合などは、各専攻の状況に応じて、移動時間などの負担を軽減できるような時間割上の配慮や調整を行う。 これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。 (略)	また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、他キャンパスの履修希望者に対し、希望に応じて遠隔授業を実施する。 これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。 物質化学生命系専攻 (略) 学生はそれぞれの分野に対応したキャンパスの研究室に配属され、所属の分野及び研究室に応じたキャンパスで実施される授業を主に履修する。基本的に1つのキャンパスで学びを完結することになるが、万一、他キャンパスの授業を履修する場合には適切な配慮を行う。授業は、基本的には対面により実施するため、授業を実施する他のキャンパスに所属する学生が当該授業を履修する場合には、学生が授業を実施するキャンパスに移動して履修できるよう、時間割を配慮する。 また、学生の教育研究の時間を十分に確保するため、他キャンパスの履修希望者に対し、希望に応じて遠隔授業を実施する。 これらの対応により、学生は各キャンパスで支障なく授業を履修し、教員から研究指導を受け、研究活動を行うことができる。 (略)
---	---

(新旧対照表) 看護学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -46 ページ) 13 2以上の校地において教育研究を行う場合 (略) 本研究科においては、研究指導教員の教育研究拠点であるキャンパスにて学生は教育研究を実施することから、先進ケア科学	(設置趣旨 (本文) -46 ページ) 13 2以上の校地において教育研究を行う場合 (略) 本研究科においては、研究指導教員の教育研究拠点であるキャンパスにて学生は教育研究を実施する。そのため、先進ケア科

領域の学生は阿倍野キャンパス、実践看護科学領域の学生は羽曳野キャンパスに所属する。そのため、原則として、学生及び教員共に2以上の校地を移動することはなく、1つのキャンパスにおいて科目の履修及び研究活動が行える体制をとる。他キャンパスの授業科目の受講を希望する場合には、配置されたキャンパスから遠隔授業により受講できるようにすることとしており、学生および教員の移動に関する負担はない。

本研究科の阿倍野キャンパスの収容定員は42名、羽曳野キャンパスの収容定員は88名である。いずれのキャンパスでも学生の研究活動に必要な自習室、情報処理室、実験室を整備し、教育活動に必要な講義室、演習室などのスペースを確保しており、指導教員と同じキャンパスにてタイムリーに必要な指導が受けられる体制を構築する。

両キャンパスにおける大学院生が使用する研究室の確保状況については、8. 施設、設備等の整備計画 イ. 校舎等施設の設備計画に記載のとおりである。

阿倍野キャンパスには21名、羽曳野キャンパスには42名の専任教員を配置している。(参考：資料12「2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況」)

学士課程同様に、それぞれのキャンパスに図書館、自習スペース、保健管理施設を整備しているほか、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を整備する。

なお、2025年度には、阿倍野キャンパスに集約することから、本研究科の全ての学生が阿倍野キャンパスで授業科目の履修および研究活動を行うことになる。(参考：資料11「看護学研究科キャンパスの遷移」)

学領域の学生は阿倍野キャンパス、実践看護科学領域の学生は羽曳野キャンパスに所属する。

本研究科の阿倍野キャンパスの収容定員は42名、羽曳野キャンパスの収容定員は88名である。いずれのキャンパスでも学生の研究活動に必要な自習室、情報処理室、実験室を整備し、教育活動に必要な講義室、演習室などのスペースを確保しており、指導教員と同じキャンパスにてタイムリーに必要な指導が受けられる体制を構築する。

両キャンパスにおける大学院生が使用する研究室の確保状況については、8. 施設、設備等の整備計画 イ. 校舎等施設の設備計画に記載のとおりである。

他キャンパスの授業科目の履修を希望する者に対しては、基本的には対面授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、オンライン授業またはオンライン・対面併用型授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。

阿倍野キャンパスには22名、羽曳野キャンパスには43名の専任教員を配置している。(参考：資料12「2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況」)

それぞれのキャンパスの教育研究は原則、キャンパスを移動することなく当該キャンパスで実施することとしており、学生および教員の移動に関する負担は少ない。

学士課程同様に、それぞれのキャンパスに図書館、自習スペース、保健管理施設を整備しているほか、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を整備する。

	なお、2025 年度には、阿倍野キャンパスに集約することから、本研究科の全ての学生が阿倍野キャンパスで授業科目の履修および研究活動を行うことになる。(参考：資料 11「看護学研究科キャンパスの遷移」)
--	---

(改善事項) 全学 (共通)

3. 【全体計画審査意見 10 の回答について】

現代システム科学域における国際バカロレア特別選抜で、仮に入学者が5名の入学定員に満たなかった場合の欠員分の取扱いについて、具体的に説明すること。

(対応)

現代システム科学域における入学者の選抜方法は、全定員数 260 名のうち 60 名を学域単位とし、そのうちの 20 名を一般前期 (英・数型 5、英・国型 5、英・小論文型 5、理・数型 5) に、35 名を一般入試後期に、5 名 (第 1 次募集 3 名、第 2 次募集 2 名) を国際バカロレア特別選抜にそれぞれ割り当てる計画としている。

国際バカロレア特別選抜の入学定員 5 名について、仮に国際バカロレア特別選抜における入学者が 5 名の入学定員に満たなかった場合は、一般前期、一般後期、学校推薦型など他の特別選抜の合格者との合算で現代システム科学域への入学者 260 名を確保する予定である。これらについては、国際バカロレア特別選抜と他の選抜の入試日程の関係から可能であると言える。なお、このことについては、学生募集要項や Web サイト等で周知する。

(現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類より抜粋)

【入学者選抜の区分と定員】

選抜種類	学域・学類	学力検査の区分	募集人員	共通テスト	個別学力検査の方法
一般前期	知識情報システム学類	—	40	○	英語・数Ⅲ
	環境社会システム学類	英・国型	30	○	英語・国語
		理・数型	20	○	数Ⅱ・理科
	教育福祉学類	—	30	○	英語・小論文
	心理学類	英・国型	20	○	英語・国語
		理・数型	10	○	数Ⅱ・理科
	学域単位	英・数型	5	○	英語・数Ⅲ
		英・国型	5	○	英語・国語
		英・小論文型	5	○	英語・小論文
		理・数型	5	○	数Ⅱ・理科
一般後期	学域単位	—	35	○	面接
学校推薦型	知識情報システム学類	理系型	5	○	面接
		文系型	5	○	面接
	環境社会システム学類	—	20	—	小論文・面接
	教育福祉学類	学校推薦型	9	—	小論文・面接
	心理学類	—	5	—	小論文・面接
総合型	教育福祉学類	—	6	—	小論文・面接
社会人	環境社会システム学類	—	若干	—	小論文・面接
	教育福祉学類	—	若干	—	小論文・面接

	心理学類	—	若干	—	小論文・面接
外国人留学生	知識情報システム学類	—	若干	—	小論文・面接
	環境社会システム学類	—	若干	—	小論文・面接
	教育福祉学類	—	若干	—	小論文・面接
	心理学類	—	若干	—	小論文・面接
帰国生徒	学域単位	—	若干	—	小論文・面接
国際バカロレア	学域単位	—	5	—	面接
ユネスコスクール	学域単位	—	若干	—	小論文・面接
SSH	学域単位	—	若干	—	小論文・面接
合計			260		

< 参考 >

一般選抜 2022 年度入試日程（案）

項目	前期日程	後期日程
出願期間	2022 年 1 月 24 日（月）～2 月 2 日（水）	
第 1 段階選抜 合格者発表	2 月 9 日（水）	2 月 18 日（金）
個別学力検査等 実施日	2 月 25 日（金）	3 月 12 日（土）
合格者発表	3 月 9 日（水）	3 月 22 日（火）

国際バカロレア特別選抜 2022 年度入試日程（案）

項目	第 1 次募集	第 2 次募集
出願期間	2021 年 10 月 13 日（水） ～15 日（金）	2022 年 1 月 19 日（水） ～21 日（金）
選抜期日	2021 年 11 月 20 日（土）	2022 年 2 月 28 日（月）
合格者発表	2021 年 12 月 2 日（木）	2022 年 3 月 9 日（水）

(改善事項) 全学 (共通)

4. 【全体計画審査意見 11 の回答について】

採用計画に関して、「組織の若返りやダイバーシティの推進を考慮した教員採用に努める」とあるが、「ダイバーシティ」の定義が不明確なため、具体的に説明すること。

(対応)

全体計画審査意 11 の対応において、「助教等の若手教員の継続的な採用計画と教育組織の維持に関する方策」として、組織の若返りやダイバーシティの推進を考慮した教員採用に努めることを説明した。

御指摘にあるダイバーシティについては、大阪公立大学の設置者である公立大学法人大阪の第 1 期中期目標・中期計画において以下のとおりの目標を定めており、全体計画審査意 11 の対応におけるダイバーシティについて、「性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれないダイバーシティ」として記載し、設置の趣旨等を記載した書類を以下の新旧対照表のとおり修正する。

なお、この目標の達成に向けては、本法人の人事計画策定会議において「今後の人事計画」を策定する中で、教員人事における採用において国際公募を原則として活用するなど、国内外から幅広く優秀な人材獲得に努めることとしており、男女共同参画社会の観点からも採用において、本法人が取り組む女性研究者を支援する施策を紹介するとともに、各部局の男女比率を考慮して女性限定公募などを実施することを計画している。

第 1 期中期目標	第 1 期中期計画
第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標 (略) 2 組織力の向上 教職員組織の活性化を図るため、多様な優れた人材の確保・活用・育成・登用を行うとともに、教職員に対する評価制度を適正に運用する。また、機動的・弾力的な組織運営に努めるとともに、柔軟な人事制度を構築する。さらに、職員のスキルと経験、ポテンシャルを最大限活用するという観点から、法人及び両大学・高専に適材適所に職員を配置し、事務組織の活性化と全体の事務能力の向上を図り、法人運営や教育研究等のサポート体制を強化する。	第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 (略) 2 組織力の向上に関する目標を達成するための措置 (略) (2) ダイバーシティの推進 ・ 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれないダイバーシティを推進し、個性と能力を最大限に発揮できる環境を整備する。特に、育児・介護支援制度などのワーク・ライフ・バランスに配慮した環境を整備することで男女共同参画を促進し、女性研究者の積極採用や上位職への積極登用を行うとともに、キャリア形成支援の環境を整備し、女性教員比率を 20%以上に高める。

(新旧対照表) 大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -15 ページ) 〔2〕大学の特色 (大学・大学院) 2. 大阪の発展を牽引する「知の拠点」 (2) 教育、研究、社会貢献機能のさらなる強化 新大学は、大阪の発展を牽引する「知の拠点」の実現に向けて、質の高い教育による「知の継承」、新しい戦略領域を含む高度な研究による「知の創造」、グローバルな産学官連携と地域貢献を融合させた「知の活用」に対し、両大学がこれまで培ってきた歴史と伝統を承継し理系・文系・医療系の幅広い学問体系を擁する総合大学として、国際化や性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれないダイバーシティ (以下、「ダイバーシティ」という) にも積極的に取り組み、更に充実させる。	(設置趣旨 (本文) -15 ページ) 〔2〕大学の特色 (大学・大学院) 2. 大阪の発展を牽引する「知の拠点」 (2) 教育、研究、社会貢献機能のさらなる強化 新大学は、大阪の発展を牽引する「知の拠点」の実現に向けて、質の高い教育による「知の継承」、新しい戦略領域を含む高度な研究による「知の創造」、グローバルな産学官連携と地域貢献を融合させた「知の活用」に対し、両大学がこれまで培ってきた歴史と伝統を承継し理系・文系・医療系の幅広い学問体系を擁する総合大学として、国際化やダイバーシティにも積極的に取り組み、更に充実させる。

(改善事項) 文学研究科文化構想学専攻、法学研究科法曹養成専攻、都市経営学研究科

5. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(文学研究科文化構想学専攻(D)、法学研究科法曹養成専攻(P)、都市経営学研究科都市経営専攻(M・D))

(対応)

文学研究科及び法学研究科法曹養成専攻、都市経営学研究科における、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にした上で、教育研究に継続性があることを各研究科の「設置の趣旨等を記載した書類」に追記する。

<文学研究科 文化構想学専攻>

文学研究科では、専任教員の年齢構成をできるだけ若くするよう、退職する教員の後任採用にあたっては、教育上の指導能力や研究業績等を考慮しつつ、若手・中堅教員の採用を積極的に行うことで、専任教員の年齢構成バランスを改善し、より適切な教育研究体制を構築するものとする。また、持続可能な教育研究体制を維持するために、後に博士後期課程教授の候補となり得る教員を博士前期課程の准教授として配置することになっている。

本研究科文化構想学専攻博士後期課程における専任教員の年齢構成は、完成年度である令和6年度末60代教授4名(完成年度までに定年退職する教員1名を除く)、50代教授2名となっており、その後、令和7年度末に教授が2名(いずれも定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する教員)、令和8年度末に1名、令和9年度末に1名がそれぞれ退職することになる。それらの補充にあたっては、教授候補者である本専攻博士前期課程担当の准教授を上記のそれぞれの退職時まで本専攻博士後期課程担当の教授に昇任させる計画である。教授として昇任できないなどにより欠員が生じる場合は、学内外公募により若手・中堅教員を採用する。その結果、令和10年4月には、博士後期課程担当教授の4名が50代、2名が40代となることを目標にする。これは、本研究科の前身にあたる大阪市立大学文学研究科における、これまでの教員採用方針や実績に照らしても無理のないものであり、目標達成については十分に見通せるものであると同時に、本研究科の教育・研究の継続性をも確保し得るものである。

(新旧対照表) 文学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨(本文) - 23ページ)	(設置趣旨(本文) - 23ページ)
5 教員組織の編成の考え方及び特色	5 教員組織の編成の考え方及び特色
ウ 専任教員の年齢構成	ウ 専任教員の年齢構成
(略)	(略)
博士後期課程	博士後期課程
令和6年3月31日に定年となる人間行動学専攻の1名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度	令和6年3月31日に定年となる人間行動学専攻の1名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度

まで留任する。令和 6 年 3 月 31 日に定年となる言語文化学専攻の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。令和 6 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学専攻の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。 ※添付資料 1：定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて 完成年度における専任教員の構成は以下の表のとおりである。 文学研究科では、専任教員の年齢構成をできるだけ若くするよう、退職する教員の後任採用にあたっては、教育上の指導能力や研究業績等を考慮しつつ、若手・中堅教員の採用を積極的に行うことで、専任教員の年齢構成バランスを改善し、より適切な教育研究体制を構築するものとする。また、持続可能な教育研究体制を維持するために、後に博士後期課程教授の候補となり得る教員を博士前期課程の准教授として配置することになっている。 本研究科文化構想学専攻博士後期課程における専任教員の年齢構成は、完成年度である令和 6 年度末 60 代教授 4 名（完成年度までに定年退職する教員 1 名を除く）、50 代教授 2 名となっており、その後、令和 7 年度末に教授が 2 名（いずれも定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する教員）、令和 8 年度末に 1 名、令和 9 年度末に 1 名がそれぞれ退職することになる。それらの補充にあたっては、教授候補者である本専攻博士前期課程担当の准教授を上記のそれぞれの退職時まで本専攻博士後期課程担当の教授に昇任させる計画である。教授として昇任できな	まで留任する。令和 6 年 3 月 31 日に定年となる言語文化学専攻の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。令和 6 年 3 月 31 日に定年となる文化構想学専攻の 1 名の教授については、特例を定めた規程により、有期雇用として完成年度まで留任する。 ※添付資料 1：定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて 完成年度における専任教員の構成は以下のとおりである。<u>各専攻に 50 歳代の准教授を配置し、教育、研究の次世代への継承も支障なく継続できる教員構成となっている。</u> (略)
---	--

いなどにより欠員が生じる場合は、学内外公募により若手・中堅教員を採用する。その結果、令和10年4月には、博士後期課程担当教授の4名が50代、2名が40代となることを目標にする。これは、本研究科の前身にあたる大阪市立大学文学研究科における、これまでの教員採用方針や実績に照らしても無理のないものであり、目標達成については十分に見通せるものであると同時に、本研究科の教育・研究の継続性をも確保し得るものである。 (略)	
---	--

<法学研究科 法曹養成専攻>

完成年度である令和7年度以降に定年退職する教員の後任人事については、専門職大学院として求められる教育上の指導能力又は実務上の経験と能力を考慮しつつ、若手・中堅教員の採用を積極的に行うことで、専任教員の年齢構成バランスを改善し、より適切なものとする。具体的な計画としては、完成年度末に60歳以上である専任教員5名の後任人事について、30歳代1名、40歳代3名、50歳代1名の採用を目標とする。これは、大阪市立大学法学研究科における従来の教員採用方針や実績に照らしても無理のないものであり、目標達成については十分に見通せるものであると同時に、教育・研究の継続性をも確保しうるものである。

なお、専任教員の年齢構成・学位保有状況（専門職大学院）に誤記があったため、以下のとおり修正する。上記の記述は修正後の人数を基に記載している。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
法学研究科 法曹養成専攻										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	3人	2人	0人	0人	5人	
	修 士	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准 教 授	博 士	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	0人	2人	3人	2人	0人	0人	7人	
	修 士	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（新旧対照表）法学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）－12 ページ） 5. 教員組織の編成の考え方及び特色 （略） ウ）専任教員の年齢構成 専任教員 12 名の年齢構成は、2025 年 3 月 31 日時点で 40～49 歳 2 名、50～59 歳 5 名、	（設置趣旨（本文）－12 ページ） 5. 教員組織の編成の考え方及び特色 （略） ウ）専任教員の年齢構成 専任教員 12 名の年齢構成は、2025 年 3 月 31 日時点で 40～49 歳 2 名、50～59 歳 5

61～64 歳 2 名、65～69 歳 2 名、70 歳以上が 1 名である。 (表略) 本専攻の専任教員のうち完成年度までに定年に達する教員が 1 名いる。その者は、担当する授業科目が主要科目であり、かつ、専門分野の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難であることから、本法人で定める「定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて」に基づき、定年に達した後も専任教員の身分で主要科目を担当する専任教員として完成年度まで雇用し、教育の実施に支障のないようにする。 なお、<u>完成年度である令和 7 年度以降に定年退職する教員の後任人事については、専門職大学院として求められる教育上の指導能力又は実務上の経験と能力を考慮しつつ、若手・中堅教員の採用を積極的に行うことで、専任教員の年齢構成バランスを改善し、より適切なものとする。具体的な計画としては、完成年度末に 60 歳以上である専任教員 5 名の後任人事について、30 歳代 1 名、40 歳代 3 名、50 歳代 1 名の採用を目標とする。これは、大阪市立大学法学研究科における従来の教員採用方針や実績に照らしても無理のないものであり、目標達成については十分に見通せるものであると同時に、教育・研究の継続性をも確保しうるものである。</u> ※資料 1 定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて	名、61～64 歳 2 名、65～69 歳 2 名、70 歳以上が 1 名である。年齢構成のバランスがよく、著しい偏りはない。 (表略) 本専攻の専任教員のうち完成年度までに定年に達する教員が 1 名いる。その者は、担当する授業科目が主要科目であり、かつ、専門分野の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難であることから、本法人で定める「定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて」に基づき、定年に達した後も専任教員の身分で主要科目を担当する専任教員として完成年度まで雇用し、教育の実施に支障のないようにする。 なお、<u>定年後雇用する教員の後任となる教員は、教員構成のバランスを考慮し計画的にその確保に努めることとしており、本専攻の教員組織の継続性に問題はない。</u> ※資料 1 定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて
--	---

(新旧対照表) 法学研究科法曹養成専攻 専任教員の年齢構成・学位保有状況 (専門職大学院)

新	旧
(専任年齢・学位(専門職)－1 ページ)	(専任年齢・学位(専門職)－1 ページ)

65～69 歳 教授 学士 1 人	65～69 歳 教授 学士 0 人
65～69 歳 教授 短期大学士 0 人	65～69 歳 教授 短期大学士 1 人
70 歳以上 教授 学士 1 人	70 歳以上 教授 学士 0 人
70 歳以上 教授 短期大学士 0 人	70 歳以上 教授 短期大学士 1 人
教授 学士 合計 2 人	教授 学士 合計 0 人
教授 短期大学士 合計 0 人	教授 短期大学士 合計 2 人
65～69 歳 合計 学士 1 人	65～69 歳 合計 学士 0 人
65～69 歳 合計 短期大学士 0 人	65～69 歳 合計 短期大学士 1 人
70 歳以上 合計 学士 1 人	70 歳以上 合計 学士 0 人
70 歳以上 合計 短期大学士 0 人	70 歳以上 合計 短期大学士 1 人
学士 合計 2 人	学士 合計 0 人
短期大学士 合計 0 人	短期大学士 合計 2 人

<都市経営研究科>

完成年度直後の令和 7 年度には、都市再生論の（常勤）専任教員 1 名、A I 論及び企業変革論の実務型専任教員 2 名の後任を、40 才台を中心に若手を優先して直ちに採用し、また、実践的な経験を活かした教授研究の継続性を維持するため、その他の 4 名の実務型専任教員の退職の後には、若手を中心に速やかに後任採用人事を行う。後任は特段の事情がない限り若手教員を優先採用する方針を立て、候補者の年齢を重要な判断基準の 1 つとすることにより、40 代 20%、50 代 40%、60 代 40%の年齢分布の実現を目標とする。

（新旧対照表）都市経営研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）—30 ページ） ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色 ウ 専任教員の年齢構成 （略） （6）将来的な人事計画として、完成年度直後の令和 7 年度には、都市再生論の（常勤）専任教員 1 名、A I 論及び企業変革論の実務型専任教員 2 名の後任を、40 才台を中心に若手を優先して直ちに採用し、ま	（設置趣旨（本文）—30 ページ） ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色 ウ 専任教員の年齢構成 （略） （追加）

た、実践的な経験を活かした教授研究の継続性を維持するため、その他の4名の実務型専任教員の退職の後は、若手を中心に速やかに後任採用人事を行う。後任は特段の事情がない限り若手教員を優先採用する方針を立て、候補者の年齢を重要な判断基準の1つとすることにより、40代 20%、50代 40%、60代 40%の年齢分布の実現を目標とする。 (略)	(略)
--	------------

(その他)

(1) 大学の名称（英訳名称）の変更

全学

(対応)

大学の名称（英訳名称）について、協議の結果「Osaka Metropolitan University」に変更することとしたことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

(新旧対照表) 基本計画書（大阪公立大学）

新	旧
(基本計画書－1 ページ) 大学の名称 大阪公立大学 (Osaka Metropolitan University)	(基本計画書－1 ページ) 大学の名称 大阪公立大学 (University of Osaka)

(新旧対照表) 基本計画書（大阪公立大学大学院）

新	旧
(基本計画書－1 ページ) 大学の名称 大阪公立大学大学院 (Osaka Metropolitan University, Graduate School)	(基本計画書－1 ページ) 大学の名称 大阪公立大学大学院 (University of Osaka, Graduate School)

(新旧対照表) 大阪公立大学・大阪公立大学大学院 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨（本文）－20 ページ) 〔3〕大学の名称等（大学・大学院） （略） 大学、大学院の英訳名称は「Osaka Metropolitan University」、「Osaka Metropolitan University, Graduate School」とした。 （略）	(設置趣旨（本文）－20 ページ) 〔3〕大学の名称等（大学・大学院） （略） 大学、大学院の英訳名称は「University of Osaka」、「University of Osaka, Graduate School」とした。 （略）

(その他)

(2) 教職課程認定申請に伴う修正

文学部

【言語文化学科】

(対応)

令和3年3月の教職課程認定申請に関して、学科等の目的・性格と免許状との相当関係に指摘があったことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

上記申請に際し、ドイツ語圏言語文化コース、フランス語圏言語文化コースの2コースに整理し、言語文化学科として計5コースを組織するものとして申請したことから、科目区分授業科目、コース等について修正を行った。

<科目区分>

選択必修科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化コースモデル群

→ (新) ドイツ語圏言語文化コースモデル群、フランス語圏言語文化コースモデル群

自由選択科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化

→ (新) ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化

<授業科目>

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化論 A

→ (新) ドイツ語圏言語文化論

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化論 B

→ (新) フランス語圏言語文化論

<コース>

(旧) 国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語フランス語圏言語文化 (4 コース)

→ (新) 国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化 (5 コース)

以上の内容について、言語文化学科においてドイツ語圏言語文化コース、フランス語圏言語文化コースがそれぞれ独立しているものであることが分かるように、次の箇所を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —3 ページ)	(設置趣旨 (本文) —3 ページ)
1 設置の趣旨及び必要性	1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性 (2) 学部設置までの経緯 (略) 平成 22(2010)年 4 月には、言語情報コースが言語応用コースとなった。さらに、令和 2(2020)年 4 月には、新たに文化構想学科が設置され、4 学科 14 コースの教育研究体制が完成した。	ア 学部等設置の理由及び必要性 (2) 学部設置までの経緯 (略) 平成 22(2010)年 4 月には、<u>ドイツ言語文化コースとフランス言語文化コースがドイツ語フランス語圏言語文化コースに統合され、また言語情報コースが言語応用コースとなった。</u>さらに、令和元(2020)年 4 月には、新たに文化構想学科が設置され、4 学科 15 コース(2 領域)の教育研究体制が完成した。
(設置趣旨 (本文) —4 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 ア 学部等設置の理由及び必要性 (3) 学科設置の必要性 【言語文化学科】 (略) グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、<u>ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化</u>、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨 (本文) —12 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 (設置趣旨 (本文) —16 ページ) 3 学部・学科等の名称及び学位の名称	(設置趣旨 (本文) —4 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 ア 学部等設置の理由及び必要性 (3) 学科設置の必要性 【言語文化学科】 (略) グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、<u>ドイツ語フランス語圏言語文化</u>、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨 (本文) —12 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 (設置趣旨 (本文) —16 ページ) 3 学部・学科等の名称及び学位の名称

(設置趣旨 (本文) —22、23、26 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 (設置趣旨 (本文) —27、28、29 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 (設置趣旨 (本文) —32、33、37、38 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	(設置趣旨 (本文) —22、23、26 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 (設置趣旨 (本文) —27、28 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 (設置趣旨 (本文) —32、33、37、38 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件																																
(設置趣旨 (資料) —17 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 国語国文学コース (標準)) 2 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>ドイツ語圏言語文化論</td><td>2</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table> 3 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>フランス語圏言語文化論</td><td>2</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table> ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨 (資料) —21、23、25、26、27 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル (設置趣旨 (資料) —28 ページ) 資料 2-4 文学部文化構想学科の履修モデル (設置趣旨 (資料) —86、88、89、90 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル (設置趣旨 (資料) —91 ページ) 資料 4-4 文学部文化構想学科の編入学後の	科目名	単位	(略)	(略)	ドイツ語圏言語文化論	2	(略)	(略)	科目名	単位	(略)	(略)	フランス語圏言語文化論	2	(略)	(略)	(設置趣旨 (資料) —17 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 国語国文学コース (標準)) 2 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>ドイツ語フランス語圏言語文化論 A</td><td>2</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table> 3 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>ドイツ語フランス語圏言語文化論 B</td><td>2</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table> ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨 (資料) —21、23、24、25、26 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル (設置趣旨 (資料) —27 ページ) 資料 2-4 文学部文化構想学科の履修モデル (設置趣旨 (資料) —85、87、88、89 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル (設置趣旨 (資料) —90 ページ) 資料 4-4 文学部文化構想学科の編入学後の	科目名	単位	(略)	(略)	ドイツ語フランス語圏言語文化論 A	2	(略)	(略)	科目名	単位	(略)	(略)	ドイツ語フランス語圏言語文化論 B	2	(略)	(略)
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
ドイツ語圏言語文化論	2																																
(略)	(略)																																
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
フランス語圏言語文化論	2																																
(略)	(略)																																
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
ドイツ語フランス語圏言語文化論 A	2																																
(略)	(略)																																
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
ドイツ語フランス語圏言語文化論 B	2																																
(略)	(略)																																

履修モデル (設置趣旨(資料) —105、106、107、108、109、111、112、113 ページ) 資料 6 カリキュラム・マップ また、以下の資料を追加する。 (設置趣旨(資料) —24 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル ドイツ語圏言語文化コース(中・高 ドイツ語免許取得) (設置趣旨(資料) —110 ページ) 資料 6 カリキュラム・マップ 文学部言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース(教員免許取得)カリキュラムマップ	履修モデル (設置趣旨(資料) —104、105、106、107、108、109、110、111 ページ) 資料 6 カリキュラム・マップ
---	--

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—2、3 ページ) ※科目区分の分割 選択必修科目 ドイツ語圏言語文化コースモデル群 フランス語圏言語文化コースモデル群 自由選択科目 ドイツ語圏言語文化 フランス語圏言語文化	((再補正前) 教員氏名—2、3 ページ) ※科目区分の分割 選択必修科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化コースモデル群</u> 自由選択科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化</u>
※授業科目の名称変更 ドイツ語圏言語文化論 フランス語圏言語文化論	※授業科目の名称変更 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化論 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化論 B</u>

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名—2、3 ページ) 調書番号 18 大山 万容 担当授業科目の名称 (略) フランス語圏言語文化論【隔年】	((再補正前) 教員氏名—2、3 ページ) 調書番号 18 大山 万容 担当授業科目の名称 (略) <u>ドイツ語フランス語圏言語文化論 B【隔年】</u>

(略)	(略)
調書番号 19 信國 萌 担当授業科目の名称 (略) ドイツ語圏言語文化論【隔年】 (略)	調書番号 19 信國 萌 担当授業科目の名称 (略) <u>ドイツ語フランス語圏言語文化論 A【隔年】</u> (略)

文学研究科

【言語文化学専攻】

(対応)

令和 3 年 3 月の教職課程認定申請に関して、学科等の目的・性格と免許状との相当関係に指摘があったことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

上記申請に際し、ドイツ語圏言語文化学専修、フランス語圏言語文化学専修の 2 専修に整理し、言語文化学専攻として計 6 専修を組織するものとして申請したことから、科目区分、授業科目、専修等について修正を行った。

<科目区分>

博士前期課程

分野専門科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学分野

→ (新) ドイツ語圏言語文化学分野、フランス語圏言語文化学分野

研究指導科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学

→ (新) ドイツ語圏言語文化学分野、フランス語圏言語文化学分野

博士後期課程

分野専門科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学分野

→ (新) ドイツ語圏言語文化学分野、フランス語圏言語文化学分野

論文指導科目：

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学分野

→ (新) ドイツ語圏言語文化学分野、フランス語圏言語文化学分野

<授業科目>

博士前期課程

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化研究 A

→ (新) ドイツ語圏言語文化研究

(旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1

- (新) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1、
フランス語圏言語文化学総合研究演習 1
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化研究 B
- (新) フランス語圏言語文化研究
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2
- (新) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2、
フランス語圏言語文化学総合研究演習 2
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1
- (新) ドイツ語圏言語文化学研究指導 1、フランス語圏言語文化学研究指導 1
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2
- (新) ドイツ語圏言語文化学研究指導 2、フランス語圏言語文化学研究指導 2

博士後期課程

- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A
- (新) ドイツ語圏言語文化学特殊研究 A、フランス語圏言語文化学特殊研究 A
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B
- (新) ドイツ語圏言語文化学特殊研究 B、フランス語圏言語文化学特殊研究 B
- (旧) ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導
- (新) ドイツ語圏言語文化学論文指導、フランス語圏言語文化学論文指導

<専修>

- (新) 国語国文学専修、中国語中国文学専修、英語英米文学専修、ドイツ語フランス語圏言語文化学専修、言語応用学専修 (5 専修)
- (新) 国語国文学専修、中国語中国文学専修、英語英米文学専修、ドイツ語圏言語文化学専修、フランス語圏言語文化学専修、言語応用学専修 (6 専修)

以上の内容について、言語文化学専攻においてドイツ語圏言語文化学専修、フランス語圏言語文化学専修がそれぞれ独立しているものであることが分かるように、次の箇所を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —4 ページ)	(設置趣旨 (本文) —4 ページ)
1 設置の趣旨及び必要性	1 設置の趣旨及び必要性
ア 研究科等設置の理由及び必要性	ア 研究科等設置の理由及び必要性
(3) 専攻設置の必要性	(3) 専攻設置の必要性
(略)	(略)

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、<u>ドイツ語圏言語文化学</u>、<u>フランス語圏言語文化学</u>、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 （設置趣旨（本文）—11 ページ） 1 設置の趣旨及び必要性 （設置趣旨（本文）—12 ページ） 3 研究科、専攻等の名称及び学位の名称 （設置趣旨（本文）—15、17 ページ） 4 教育課程の編成の考え方及び特色 （設置趣旨（本文）—19、20、21 ページ） 5 教員組織の編成の考え方及び特色 （設置趣旨（本文）—27、28、31、32 ページ） 6 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 （設置趣旨（本文）—41 ページ） 9 基礎となる学部（又は修士課程）との関係	グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、<u>ドイツ語圏フランス語圏言語文化学</u>、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 （設置趣旨（本文）—11 ページ） 1 設置の趣旨及び必要性 （設置趣旨（本文）—12 ページ） 3 研究科、専攻等の名称及び学位の名称 （設置趣旨（本文）—15、17 ページ） 4 教育課程の編成の考え方及び特色 （設置趣旨（本文）—19、20、21 ページ） 5 教員組織の編成の考え方及び特色 （設置趣旨（本文）—27、31 ページ） 6 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 （設置趣旨（本文）—40 ページ） 9 基礎となる学部（又は修士課程）との関係
（設置趣旨（資料）—24 ページ） 資料 2-1 博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（<u>ドイツ語圏言語文化学専修</u>） （略）	（設置趣旨（資料）—24 ページ） 資料 2-1 博士前期課程における修了までのスケジュール表 言語文化学専攻（<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学専修</u>） （略）

1 年次 9 月 指導教員 学生が研究を進めるうえで必要な<u>ドイツ語圏言語文化学</u>の専門知識、分析能力を養い、<u>ドイツ語圏言語文化学</u>の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨(資料) —64 ページ) 資料 2-2 博士後期課程における修了までのスケジュール表 (設置趣旨(資料) —93、94 ページ) 資料 3-3 履修モデル(博士前期課程 言語文化学専攻) (設置趣旨(資料) —113 ページ) 資料 4-3 履修モデル(博士後期課程 言語文化学専攻) (設置趣旨(資料) —131、132、137 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ また、以下の資料を追加する。 (設置趣旨(資料) —26、27 ページ) 資料 2-1 博士前期課程における修了までのスケジュール表 (フランス語圏言語文化学専修) (設置趣旨(資料) —67、68、69 ページ) 資料 2-2 博士後期課程における修了までのスケジュール表 (フランス語圏言語文化学専修) (設置趣旨(資料) —114 ページ) 資料 4-3 履修モデル(博士後期課程 言語文化学専攻)	1 年次 9 月 指導教員 学生が研究を進めるうえで必要な<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学</u>の専門知識、分析能力を養い、<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学</u>の諸分野における先行研究の内容や課題について指導する。 ※同じ趣旨の修正を以下の場所においても行う。 (設置趣旨(資料) —62 ページ) 資料 2-2 博士後期課程における修了までのスケジュール表 (設置趣旨(資料) —88、89 ページ) 資料 3-3 履修モデル(博士前期課程 言語文化学専攻) (設置趣旨(資料) —108 ページ) 資料 4-3 履修モデル(博士後期課程 言語文化学専攻) (設置趣旨(資料) —125、126、131 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ
---	---

(言語文化学専攻フランス語圏言語文化学 専修 博士後期課程)	
-----------------------------------	--

【言語文化学専攻 博士前期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—2 ページ) ※科目区分の分割 分野専門科目 ドイツ語圏言語文化学分野 フランス語圏言語文化学分野 研究指導科目 ドイツ語圏言語文化学分野 フランス語圏言語文化学分野	((補正前) 教育課程—2 ページ) ※科目区分の分割 分野専門科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学分野</u> 研究指導科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学</u>
※授業科目の名称等の変更 分野専門科目 ドイツ語圏言語文化研究 フランス語圏言語文化研究 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1 専任教員等の配置：教授 1 准教授 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 専任教員等の配置：教授 2 准教授 1 ※2 つに分割・整理 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2 専任教員等の配置：教授 1 准教授 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 専任教員等の配置：教授 2 准教授 1 ※2 つに分割・整理 研究指導科目 ドイツ語圏言語文化学研究指導 1 専任教員等の配置：教授 1 フランス語圏言語文化学研究指導 1 専任教員等の配置：教授 2 備考：共同 ※2 つに分割・整理	※授業科目の名称等の変更 分野専門科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究 演習 1</u> 専任教員等の配置：教授 3 准教授 2 ※2 つに分割・整理 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究 演習 2</u> 専任教員等の配置：教授 3 准教授 2 ※2 つに分割・整理 研究指導科目 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1</u> 専任教員等の配置：教授 3 備考：共同 ※2 つに分割・整理

ドイツ語圏言語文化学研究指導 2 専任教員等の配置：教授 1 フランス語圏言語文化学研究指導 2 専任教員等の配置：教授 2 備考：共同 ※2 つに分割・整理	ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2 専任教員等の配置：教授 3 備考：共同 ※2 つに分割・整理
※小計、合計欄の修正 分野専門科目 小計 小計 (73 科目) 単位数：選択 146 研究指導科目 小計 小計 (12 科目) 単位数：選択 24 合計 (106 科目) 単位数：選択 182	※小計、合計欄の修正 分野専門科目 小計 小計 (71 科目) 単位数：選択 142 研究指導科目 小計 小計 (10 科目) 単位数：選択 20 合計 (102 科目) 単位数：選択 174

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－1、2 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 5 白田 由樹 (略) フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 フランス語圏言語文化学研究指導 1 フランス語圏言語文化学研究指導 2	((再補正前) 教員氏名－1、2 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 5 白田 由樹 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2
調書番号 6 高井 絹子 (略) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語圏言語文化学研究指導 2	調書番号 6 高井 絹子 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2
調書番号 12 福島 祥行 フランス語圏言語文化研究【隔年】 (略)	調書番号 12 福島 祥行 ドイツ語フランス語圏言語文化研究 B【隔年】 (略)

フランス語圏言語文化学総合研究演習 1	<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1</u>
フランス語圏言語文化学総合研究演習 2	<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2</u>
フランス語圏言語文化学研究指導 1	<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1</u>
フランス語圏言語文化学研究指導 2	<u>ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2</u>
調書番号 19 長谷川 健一 ドイツ語圏言語文化研究【隔年】 (略) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2	調書番号 19 長谷川 健一 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化研究 A【隔年】</u> (略) <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2</u>
調書番号 20 原野 葉子 (略) フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2	調書番号 20 原野 葉子 (略) <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2</u>

(新旧対照表) 専任教員一覧

新	旧
(専任一覧-2、3 ページ) ※研究領域の分割 ドイツ語圏言語文化学分野 調書番号 6、19 フランス語圏言語文化学分野 調書番号 5、12、20	(専任一覧-2、3 ページ) ※研究領域の分割 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学分野</u> 調書番号 <u>5、6、12、19、20</u>
(専任一覧-2、3 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 6 高井 絹子 (略) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語圏言語文化学研究指導 2	(専任一覧-2、3 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 6 高井 絹子 (略) <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2</u>

調書番号 19 長谷川 健一 ドイツ語圏言語文化研究【隔年】 (略) ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語圏言語文化学総合研究演習 2	調書番号 19 長谷川 健一 ドイツ語フランス語圏言語文化研究 A【隔年】 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2
調書番号 5 白田 由樹 (略) フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 フランス語圏言語文化学研究指導 1 フランス語圏言語文化学研究指導 2	調書番号 5 白田 由樹 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2
調書番号 12 福島 祥行 フランス語圏言語文化研究【隔年】 (略) フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 フランス語圏言語文化学研究指導 1 フランス語圏言語文化学研究指導 2	調書番号 12 福島 祥行 ドイツ語フランス語圏言語文化研究 B【隔年】 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導 2
調書番号 20 原野 葉子 (略) フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 フランス語圏言語文化学総合研究演習 2	調書番号 20 原野 葉子 (略) ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 1 ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究演習 2

【言語文化学専攻 博士後期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—1、2 ページ) ※科目区分の分割 分野専門科目	((補正前) 教育課程—1、2 ページ) ※科目区分の分割 分野専門科目

ドイツ語圏言語文化学分野 フランス語圏言語文化学分野 論文指導科目 ドイツ語圏言語文化学分野 フランス語圏言語文化学分野	ドイツ語フランス語圏言語文化学分野 論文指導科目 ドイツ語フランス語圏言語文化学分野
※授業科目の名称等の変更 分野専門科目 ドイツ語圏言語文化特殊研究 A 専任教員等の配置：教授 1 フランス語圏言語文化特殊研究 A 専任教員等の配置：教授 2 備考：共同 ※2 つに分割・整理 ドイツ語圏言語文化特殊研究 B 専任教員等の配置：教授 1 フランス語圏言語文化特殊研究 B 専任教員等の配置：教授 2 備考：共同 ※2 つに分割・整理 論文指導科目 ドイツ語圏言語文化論文指導 専任教員等の配置：教授 1 フランス語圏言語文化論文指導 専任教員等の配置：教授 2 備考：共同 ※2 つに分割・整理	※授業科目の名称等の変更 分野専門科目 ドイツ語フランス語圏言語文化特殊研究 A 専任教員等の配置：教授 3 備考：共同 ※2 つに分割・整理 ドイツ語フランス語圏言語文化特殊研究 B 専任教員等の配置：教授 3 備考：共同 ※2 つに分割・整理 論文指導科目 ドイツ語フランス語圏言語文化論文指導 専任教員等の配置：教授 3 備考：共同 ※2 つに分割・整理
※小計、合計欄の修正 分野専門科目 小計 小計 (12 科目) 単位数：選択 24 論文指導科目 小計 小計 (6 科目) 単位数：選択 72 合計 (32 科目) 単位数：選択 96	※小計、合計欄の修正 分野専門科目 小計 小計 (10 科目) 単位数：選択 20 論文指導科目 小計 小計 (5 科目) 単位数：選択 60 合計 (29 科目) 単位数：選択 80

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－1 ページ) ※授業科目名称の変更	((補正前) 教員氏名－1 ページ) ※授業科目名称の変更

調書番号 5 白田 由樹 フランス語圏言語文化学特殊研究 A フランス語圏言語文化学特殊研究 B フランス語圏言語文化学論文指導	調書番号 5 白田 由樹 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>
調書番号 6 高井 絹子 ドイツ語圏言語文化学特殊研究 A ドイツ語圏言語文化学特殊研究 B ドイツ語圏言語文化学論文指導	調書番号 6 高井 絹子 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>
調書番号 12 福島 祥行 フランス語圏言語文化学特殊研究 A フランス語圏言語文化学特殊研究 B フランス語圏言語文化学論文指導	調書番号 12 福島 祥行 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>

(新旧対照表) 専任教員一覧

新	旧
(専任一覧-2 ページ) ※研究領域の分割 ドイツ語圏言語文化学分野 調書番号 6 フランス語圏言語文化学分野 調書番号 5、12	(専任一覧-2 ページ) ※研究領域の分割 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学分野</u> 調書番号 <u>5、6、12</u>
(専任一覧-2 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 6 高井 絹子 ドイツ語圏言語文化学特殊研究 A ドイツ語圏言語文化学特殊研究 B ドイツ語圏言語文化学論文指導	(専任一覧-2 ページ) ※授業科目名称の変更 調書番号 6 高井 絹子 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>
調書番号 5 白田 由樹 フランス語圏言語文化学特殊研究 A フランス語圏言語文化学特殊研究 B フランス語圏言語文化学論文指導	調書番号 5 白田 由樹 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>
調書番号 12 福島 祥行 フランス語圏言語文化学特殊研究 A フランス語圏言語文化学特殊研究 B フランス語圏言語文化学論文指導	調書番号 12 福島 祥行 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 A</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学特殊研究 B</u> <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学論文指導</u>

商学部

【商学科】

(対応)

令和3年3月の教職課程認定申請に関して、補正申請書類を下記のとおり修正する。

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名-4 ページ) (削除)	((再補正前) 教員氏名-4 ページ) 調書番号 48 <u>船越 久人</u> 担当授業科目の名称： <u>職業指導 1</u> <u>職業指導 2</u>
((再補正後) 教員氏名-4 ページ) 調書番号<1> 井上 真求 専任等区分： 兼任 職位： 講師 氏名： イノウエ マキ 井上 真求 就任年月： <令和6年4月> 保有学位： 修士(教育学) 担当授業科目の名称： 職業指導 1、職業指導 2 配当年次： 3・4 前、3・4 後 担当単位数： 2、2 年間開講数： 1、1 現職： 京都府立大学学術研究院(平 30.4)	((再補正前) 教員氏名-4 ページ) (追加)

【公共経営学科】

(対応)

令和3年3月の教職課程認定申請に関して、補正申請書類を下記のとおり修正する。

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名-4 ページ) (削除)	((補正前) 教員氏名-4 ページ) 調書番号 52 <u>船越 久人</u> 担当授業科目の名称： <u>職業指導 1</u>

((再補正後) 教員氏名－4 ページ) 調書番号<1> 井上 真求 専任等区分：兼任 職位：講師 氏名：イノウエ マキ 井上 真求 就任年月：<令和6年4月> 保有学位：修士（教育学） 担当授業科目の名称：職業指導1、職業指導2 配当年次：3・4 前、3・4 後 担当単位数：2、2 年間開講数：1、1 現職：京都府立大学学術研究院（平 30.4）	<u>職業指導 2</u> （教員氏名－4 ページ） （追加）
--	--

工学部

（対応）

「教職課程認定審査の確認事項」1（1）④に基づき、令和2年12月11日付けで「公大阪企画 6-1 号 大阪公立大学の認定課程における学部学科等の教育課程の変更について（届出）」を提出したところだが、高等学校教諭一種免許状（工業）の変更届を取り下げ、中学校教諭一種免許状（理科）及び高等学校教諭一種免許状（理科）を申請することとしたことから、次の箇所を修正する。

【工学部】

（新旧対照表）工学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
（設置趣旨（本文）－66 ページ） 4 教育課程の編成の考え方及び特色 化学工学科 イ 教育課程の概要及び特色 （略） また、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）の取得に向けて教職課程を履修する学生に対しては、教科教育法科目「理科教育法 1A」、「理科教育法 1B」、「理科教育法 2A」、「理科教育法 2B」を	（設置趣旨（本文）－66 ページ） 4 教育課程の編成の考え方及び特色 化学工学科 イ 教育課程の概要及び特色 （略） また、中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科・工業）の取得に向けて教職課程を履修する学生に対しては、教科教育法科目「理科教育法 1A」、「理科教育法 1B」、「理科教育法 2A」、「理科教育法

自由科目として配置する。 (略) (設置趣旨 (本文) —71 ページ) 化学バイオ工学科 イ 教育課程の概要及び特色 (略) また、教職に関する科目として、「理科教育法 1A」、「理科教育法 1B」、「理科教育法 2A」、「理科教育法 2B」を自由科目として提供する。	2B)、「工業科教育法 1A」、「工業科教育法 2A」、「職業指導」を自由科目として配置する。 (略) (設置趣旨 (本文) —71 ページ) 化学バイオ工学科 イ 教育課程の概要及び特色 (略) また、教職に関する科目として、「理科教育法 1A」、「理科教育法 1B」、「理科教育法 2A」、「理科教育法 2B」、「工業科教育法 1A」、「工業科教育法 2A」、「職業指導」を自由科目として提供する。
(設置趣旨 (本文) —166 ページ) 9 取得可能な資格 高等学校教諭一種免許状 (工業) 航空宇宙工学科、海洋システム工学科、機械工学科、建築学科、都市学科、電子物理工学科、電気電子システム工学科、応用化学科	(設置趣旨 (本文) —166 ページ) 9 取得可能な資格 高等学校教諭一種免許状 (工業) 航空宇宙工学科、海洋システム工学科、機械工学科、建築学科、都市学科、電子物理工学科、電気電子システム工学科、応用化学科、<u>化学工学科、化学バイオ工学科</u>

【化学工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—2、7 ページ) 授業科目の名称： (授業科目を削除) ※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程—2 ページ) 教職科目 小計	((再補正前) 教育課程—2、7 ページ) 授業科目の名称： <u>工業科教育法 1A</u> <u>工業科教育法 2A</u> <u>職業指導</u> ※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程—2 ページ) 教職科目 小計

小計 (4 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 1 専門科目 小計 小計 (51 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 32 合計 (81 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 167 <中百舌鳥キャンパス> (再補正後) 教育課程－7 ページ) 教職科目 小計 小計 (4 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 1 専門科目 小計 小計 (46 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 25 合計 (63 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 147	小計 (7 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 3 専門科目 小計 小計 (54 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 34 合計 (84 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 169 <中百舌鳥キャンパス> (再補正前) 教育課程－7 ページ) 教職科目 小計 小計 (7 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 3 専門科目 小計 小計 (49 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 27 合計 (66 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 149
--	--

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－4 ページ) (削除) (削除)	((再補正前) 教員氏名－4 ページ) 調書番号 51 <u>荻野 和俊</u> 担当授業科目の名称： <u>工業科教育法 1A</u> <u>工業科教育法 2A</u> 調書番号 52 <u>井上 真求</u> 担当授業科目の名称： <u>職業指導</u>

【化学バイオ工科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2、7 ページ) 授業科目の名称： (授業科目を削除) ※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程－2 ページ) 教職科目 小計 小計 (4 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 1 専門科目 小計 小計 (53 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 32 合計 (78 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 151 <杉本キャンパス> ((再補正後) 教育課程－7 ページ) 教職科目 小計 小計 (4 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 1 専門科目 小計 小計 (46 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 14 合計 (56 科目) 単位数：自由 8 備考：兼 56	((再補正前) 教育課程－2、7 ページ) 授業科目の名称： <u>工業科教育法 1A</u> <u>工業科教育法 2A</u> <u>職業指導</u> ※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程－2 ページ) 教職科目 小計 小計 (7 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 3 専門科目 小計 小計 (56 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 34 合計 (81 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 153 <杉本キャンパス> ((再補正前) 教育課程－7 ページ) 教職科目 小計 小計 (7 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 3 専門科目 小計 小計 (49 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 16 合計 (59 科目) 単位数：自由 16 備考：兼 58

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－4 ページ)	((再補正前) 教員氏名－4 ページ)

(削除)	調書番号 55 <u>荻野 和俊</u> 担当授業科目の名称： <u>工業科教育法 1A</u> <u>工業科教育法 2A</u>
(削除)	調書番号 56 <u>井上 真求</u> 担当授業科目の名称： <u>職業指導</u>

工学研究科

(対応)

「教職課程認定審査の確認事項」1 (1) ④に基づき、令和2年12月11日付けで「公大阪企画第6-2号 大阪公立大学大学院の認定課程における研究科専攻等の教育課程の変更に
ついて(届出)」を提出したところだが、高等学校教諭専修免許状(工業)の変更届を取り下げ、
中学校教諭専修免許状(理科)及び高等学校教諭専修免許状(理科)を申請することとしたこ
とから、次の箇所を修正する。

【工学研究科 共通】

(新旧対照表) 工学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨(本文)―140ページ) 1 1 取得可能な資格 高等学校教諭専修免許状(工業) 航空宇宙海洋系専攻、機械系専攻、都市系専 攻、電子物理系専攻、電気電子系専攻	(設置趣旨(本文)―140ページ) 1 1 取得可能な資格 高等学校教諭専修免許状(工業) 航空宇宙海洋系専攻、機械系専攻、都市系専 攻、電子物理系専攻、電気電子系専攻、 <u>物質 化学生命系専攻</u>

(その他)

(3) 管理栄養士養成施設の指定申請に伴う修正

生活科学部

(対応)

管理栄養士養成施設に係る指定申請に伴い、申請書類の記載内容に不備等の指摘があったことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【食栄養学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、2 ページ) 「社会・環境と健康 3」 備考欄 兼 3	((再補正前) 教育課程－1、2 ページ) 「社会・環境と健康 3」 備考欄 <u>兼 4</u>
「食品加工学」 備考欄 (共同を削除)	「食品加工学」 備考欄 <u>共同</u>
「調理と食事設計」 備考欄 (共同を削除)	「調理と食事設計」 備考欄 <u>共同</u>
「基礎調理学実習」 備考欄 (共同を削除)	「基礎調理学実習」 備考欄 <u>共同</u>
「食事設計実習」 備考欄 (共同を削除)	「食事設計実習」 備考欄 <u>共同</u>
「専門基礎分野 小計」 備考欄 兼 6	「専門基礎分野 小計」 備考欄 <u>兼 7</u>
「総合演習」	「総合演習」

備考欄 共同（一部）オムニバス 合計（85 科目） 備考欄 兼 71	備考欄 <u>共同</u> <u>合計（87 科目）</u> 備考欄 <u>兼 78</u>
--	--

（新旧対照表）教員の氏名等

新	旧
（（再補正後）教員氏名－1、2、3、4、5 ページ） 調書番号 1、2、4、5、11、16、17、18、19、22、23、24、25、26、27 担当授業科目の名称 総合演習※ 担当単位数 1.4 年間開講数 2 調書番号 3 担当授業科目の名称 食品衛生学（オムニバスの削除） 担当単位数 4 調書番号 5 担当授業科目の名称 解剖生理学実習 配当年次 2 通 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 4 年間開講数 2	（（再補正前）教員氏名－1、2、3、4、5 ページ） 調書番号 1、2、4、5、11、16、17、18、19、22、23、24、25、26、27 担当授業科目の名称 総合演習 担当単位数 2 年間開講数 1 調書番号 3 担当授業科目の名称 食品衛生学※ 担当単位数 2.2 調書番号 5 担当授業科目の名称 解剖生理学実習 配当年次 2 前 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 1

調書番号 7 担当授業科目の名称 臨床病態学※ 担当単位数 1.3	調書番号 7 担当授業科目の名称 臨床病態学※ 担当単位数 <u>2.2</u>
調書番号 9 担当授業科目の名称 臨床病態学※ 担当単位数 3.3	調書番号 9 担当授業科目の名称 臨床病態学※ 担当単位数 <u>1.8</u>
調書番号 11 担当授業科目の名称 公衆栄養学臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 2	調書番号 11 担当授業科目の名称 公衆栄養学臨地実習 担当単位数 <u>1</u> 年間開講数 <u>1</u>
調書番号 16 担当授業科目の名称 分子栄養学 配当年次 3 前 担当授業科目の名称 (基礎栄養学の削除)	調書番号 16 担当授業科目の名称 分子栄養学 配当年次 <u>2 前</u> 担当授業科目の名称 <u>基礎栄養学</u>
調書番号 18 担当授業科目の名称 給食経営管理臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 2	調書番号 18 担当授業科目の名称 給食経営管理臨地実習 担当単位数 <u>1</u> 年間開講数 <u>1</u>
調書番号 20 担当授業科目の名称 食品衛生学 (オムニバスの削除)	調書番号 20 担当授業科目の名称 食品衛生学※

担当単位数 4 調書番号 22 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 4 年間開講数 2 調書番号 23 担当授業科目の名称 公衆栄養学臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 2 調書番号 24 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 4 年間開講数 2 調書番号 25 担当授業科目の名称 食品加工学 担当単位数 2 年間開講数 1 担当授業科目の名称 調理と食事設計 担当単位数 2 年間開講数	担当単位数 1.8 調書番号 22 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 1 調書番号 23 担当授業科目の名称 公衆栄養学臨地実習 担当単位数 1 年間開講数 1 調書番号 24 担当授業科目の名称 臨床栄養学臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 1 調書番号 25 担当授業科目の名称 食品加工学 担当単位数 4 年間開講数 2 担当授業科目の名称 調理と食事設計 担当単位数 4 年間開講数
--	--

1 担当授業科目の名称 基礎調理学実習 担当単位数 1 年間開講数 1 担当授業科目の名称 食事設計実習 担当単位数 1 年間開講数 1 調書番号 26 担当授業科目の名称 給食経営管理臨地実習 担当単位数 2 年間開講数 2 (削除) 調書番号 39 担当授業科目の名称 臨床栄養学実習 2 担当単位数 1 年間開講数 1 調書番号 40 担当授業科目の名称 食品加工学 担当単位数	2 担当授業科目の名称 基礎調理学実習 担当単位数 2 年間開講数 2 担当授業科目の名称 食事設計実習 担当単位数 2 年間開講数 2 調書番号 26 担当授業科目の名称 給食経営管理臨地実習 担当単位数 1 年間開講数 1 調書番号 35 秋山 香代 担当授業科目の名称 <u>食品加工学実験</u> 調書番号 39 担当授業科目の名称 臨床栄養学実習 2 担当単位数 2 年間開講数 2 調書番号 40 担当授業科目の名称 食品加工学 担当単位数
--	---

2 年間開講数 1 調書番号 44 担当授業科目の名称 基礎調理学実習 担当単位数 1 年間開講数 1 担当授業科目の名称 食事設計実習 担当単位数 1 年間開講数 1 (削除) 調書番号 47 担当授業科目の名称 社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1.4 調書番号 48 担当授業科目の名称 臨床栄養学実習 2 担当単位数 1 年間開講数 1 調書番号 54 担当授業科目の名称	4 年間開講数 2 調書番号 44 担当授業科目の名称 基礎調理学実習 担当単位数 2 年間開講数 2 担当授業科目の名称 食事設計実習 担当単位数 2 年間開講数 2 調書番号 46 鈴木 春満 担当授業科目の名称 <u>社会・環境と健康 3※</u> 調書番号 47 担当授業科目の名称 社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1 調書番号 48 担当授業科目の名称 臨床栄養学実習 2 担当単位数 2 年間開講数 2 調書番号 54 担当授業科目の名称
--	---

社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1.4 調書番号 56 担当授業科目の名称 社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1.4 (削除) 調書番号<1> 福田 小百合 専任等区分 兼任 職位 講師 氏名 フクダ サユリ 福田 小百合 就任(予定)年月 <令和5年4月> 保有学位等 博士(学術) 担当授業科目の名称 調理と食事設計 配当年次 2 前 担当単位数 2 年間開講数 1 現職 京都文教短期大学食物栄養学科准教授 (平 17.4)	社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1 調書番号 56 担当授業科目の名称 社会・環境と健康 3※ 担当単位数 1 調書番号 63 <u>山下 満智子</u> 担当授業科目の名称 <u>調理と食事設計</u> (追加)
---	--

(その他)

(4) 看護師学校等の指定申請に伴う修正

看護学部

(対応)

看護師学校等に係る指定申請に伴い、申請書類の記載内容に不備等があったことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【看護学部】

(新旧対照表) 看護学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —4 ページ) 1. 設置の趣旨及び必要性 イ. 人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー (1) 人材養成の方針 (略) 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を探究しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 (略) (設置趣旨 (本文) —5 ページ) (2) ディプロマ・ポリシー (略) 5) 看護を探究する力 看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を探究する力を身につける。 (略) (設置趣旨 (本文) —12 ページ)	(設置趣旨 (本文) —4 ページ) 1. 設置の趣旨及び必要性 イ. 人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー (1) 人材養成の方針 (略) 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を探求しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 (略) (設置趣旨 (本文) —5 ページ) (2) ディプロマ・ポリシー (略) 5) 看護を探究する力 看護学への関心を深め、必要な情報を自ら系統的に収集・分析する研究の基礎能力を修得し、社会で発展する看護を<u>探求</u>する力を身につける。 (略) (設置趣旨 (本文) —12 ページ)

4. 教育課程の編成の考え方及び特色 ア. 教育課程の編成方針 (1) 総合性に関する方針 (略) ケアをつなぐ力は、共創科目とケアシステム科学科目、看護を<u>探究</u>する力は、実践看護科学科目とケアデータ科学科目にて、修得する。 (略) (2) 順次性に関する方針 (略) ⑧ 3～4年次では、ケアデータ科目の「研究セミナー」を履修することにより、看護専門分野に関心をもって、ケア科学を追求し、ケアと看護を発展させる<u>探究</u>力を修得する。(先進ケア科学コース) (設置趣旨(本文) —13 ページ) ⑨ 4年次では、実践看護科学科目の「総合研究」ならびに「総合実習」を履修することにより、研究の基礎を学ぶとともに看護を<u>探究</u>する総合的な看護実践能力を修得する。(実践看護科学コース) イ. 教育課程の概要及び特色 (1) 科目構成の概要とディプロマ・ポリシーとの関係 (略) さらに、多様な強みを併せもつ人材を育成するために履修モデルを提示し、実践看護科学コースでは、ディプロマ・ポリシーの「ケアをつなぐ力」として看護の対象や他職種とともに価値を創造する共創的看護実践の志向性を有する強み、先進ケア科学コースでは、「看護を<u>探究</u>する力」としてケアと科学を融合し、ケアを	4. 教育課程の編成の考え方及び特色 ア. 教育課程の編成方針 (1) 総合性に関する方針 (略) ケアをつなぐ力は、共創科目とケアシステム科学科目、看護を<u>探求</u>する力は、実践看護科学科目とケアデータ科学科目にて、修得する。 (略) (2) 順次性に関する方針 (略) ⑧ 3～4年次では、ケアデータ科目の「研究セミナー」を履修することにより、看護専門分野に関心をもって、ケア科学を追求し、ケアと看護を発展させる<u>探求</u>力を修得する。(先進ケア科学コース) (設置趣旨(本文) —13 ページ) ⑨ 4年次では、実践看護科学科目の「総合研究」ならびに「総合実習」を履修することにより、研究の基礎を学ぶとともに看護を<u>探求</u>する総合的な看護実践能力を修得する。(実践看護科学コース) イ. 教育課程の概要及び特色 (1) 科目構成の概要とディプロマ・ポリシーとの関係 (略) さらに、多様な強みを併せもつ人材を育成するために履修モデルを提示し、実践看護科学コースでは、ディプロマ・ポリシーの「ケアをつなぐ力」として看護の対象や他職種とともに価値を創造する共創的看護実践の志向性を有する強み、先進ケア科学コースでは、「看護を<u>探求</u>する力」としてケアと科学を融合し、ケアを
--	--

牽引する新たな看護を創造する学術志向性を有する強みを育む。 (略) (設置趣旨 (本文) —14 ページ) (略) 3 年次、4 年次においては、両コースの共通科目として、キャリア発展科目を配置し、看護を探究し、生涯にわたり自らの看護を自己研鑽する力を身につける。 (略) (設置趣旨 (本文) —15 ページ) (3) 科目構成の概要とその趣旨 1) 基幹教育科目等 (主に 1 年次) (略) 初年次教育科目、情報リテラシー科目、健康・スポーツ科学科目、外国語科目、総合教養科目など幅広い分野から学生が自身の興味や関心を探究するために主体的に自由に科目を選択する。(削除) (設置趣旨 (本文) —20 ページ) (5) 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」と科目の関係 (略) 具体的な編成内容としては、看護学教育モデル・コア・カリキュラムのうち、 「A. 看護系人材 (看護職) として求められる基本的な資質・能力」については、基盤看護学科目を中心としたすべての専門科目をとおして修得するほか、共創科目では「A-4. コミュニケーション能力」や「A-5. 保健・医療・福祉におけ	牽引する新たな看護を創造する学術志向性を有する強みを育む。 (略) (設置趣旨 (本文) —14 ページ) (略) 3 年次、4 年次においては、両コースの共通科目として、キャリア発展科目を配置し、看護を<u>探求</u>し、生涯にわたり自らの看護を自己研鑽する力を身につける。 (略) (設置趣旨 (本文) —15 ページ) (3) 科目構成の概要とその趣旨 1) 基幹教育科目等 (主に 1 年次) (略) 初年次教育科目、情報リテラシー科目、健康・スポーツ科学科目、外国語科目、総合教養科目など幅広い分野から学生が自身の興味や関心を<u>探求</u>するために主体的に自由に科目を選択する。<u>総合教養科目のうち、看護学に関連する科目として、数理データサイエンス基礎を履修し、専門科目である先進ケア科学で提供する学修内容につながる科目として、基礎教育科目の統計学基礎 1 を配置する。</u> (設置趣旨 (本文) —20 ページ) (5) 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」と科目の関係 (略) 具体的な編成内容としては、看護学教育モデル・コア・カリキュラムのうち、 「A. 看護系人材 (看護職) として求められる基本的な資質・能力」については、基盤看護学科目を中心としたすべての専門科目をとおして修得するほか、共創科目では「A-4. コミュニケーション能力」や「A-5. 保健・医療・福祉におけ
---	---

る協働」について、ケアデータ科学科目では「A-7. 社会から求められる看護の役割の拡大」や「A-8. 科学的探究」について一層、力点をおいて修得する。 (略) (設置趣旨 (本文) —23 ページ) 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ア. 教育方法等 3) 課題解決能力や看護探究能力の養成 (略) このプロセスにおいて論理的思考や研究的視点を修得させ、課題解決能力や看護探究能力を養成する。 (略) (設置趣旨 (本文) —24 ページ) ウ. 卒業要件 卒業要件は 4 年以上在学し、基幹教育科目 33 単位以上、専門科目 96 単位以上の合計 129 単位以上とする。(削除) 基幹教育科目では多様な教養を身につけ、専門科目では指定規則の専門基礎分野として 22 単位、専門分野の講義演習科目は 51 単位、臨床実習科目は 23 単位として、単一の看護師養成指定校としての要件を満たす(資料 3「教育課程と指定規則との対比表」)。 (設置趣旨 (資料) —2 ページ) 資料 1 看護学部における科目群とディプロマ・ポリシーとの関係 ディプロマ・ポリシー 看護を探究する力	る協働」について、ケアデータ科学科目では「A-7. 社会から求められる看護の役割の拡大」や「A-8. 科学的探求」について一層、力点をおいて修得する。 (略) (設置趣旨 (本文) —23 ページ) 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ア. 教育方法等 3) 課題解決能力や看護探求能力の養成 (略) このプロセスにおいて論理的思考や研究的視点を修得させ、課題解決能力や看護探求能力を養成する。 (略) (設置趣旨 (本文) —24 ページ) ウ. 卒業要件 卒業要件は 4 年以上在学し、基幹教育科目 33 単位以上、専門科目 96 単位以上の合計 129 単位以上とする。<u>卒業時にすべての学生が、看護師国家試験受験資格を得ることを卒業要件の考え方とする。</u>基幹教育科目では多様な教養を身につけ、専門科目では指定規則の専門基礎分野として 22 単位、専門分野の講義演習科目は 51 単位、臨床実習科目は 23 単位として、単一の看護師養成指定校としての要件を満たす(資料 3「教育課程と指定規則との対比表」)。 (設置趣旨 (資料) —2 ページ) 資料 1 看護学部における科目群とディプロマ・ポリシーとの関係 ディプロマ・ポリシー 看護を探求する力
--	--

(設置趣旨(資料) —5、6 ページ) 資料3 教育課程と指定規則との対比表 1. 基礎教育科目「統計学基礎1」の削除 当該科目は、1年次前期配当科目であり、先進ケア科学コースを選択する学生に対して履修を推奨する選択科目としていたが、2年次後期からのコース選択の幅を狭める可能性があるため、当該科目を選択科目から外す。 基幹教育科目 (削除) 履修方法及び卒業要件 (削除) 指定規則の教育内容 (削除) また、「統計学基礎1」で身に付けるとしていた、指定規則において定める教育内容である「健康支援と社会制度」については、ケアデータ科学の中の「ケアと健康福祉工学」「ケアと行動科学」「ヘルスケアサービス経営論」「情報ケア科学」「ケアと人工知能」「異文化ケア科学」において身に付けることができると判断することから、指定規則との対比表を修正する。 専門科目 ケアデータ科学 ケアと健康福祉工学 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと行動科学	(設置趣旨(資料) —5、6 ページ) 資料3 教育課程と指定規則との対比表 基幹教育科目 <u>(基礎教育科目)</u> 履修方法及び卒業要件 <u>選択2単位</u> 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと健康福祉工学 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと行動科学
--	--

指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ヘルスケアサービス経営論 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 情報ケア科学 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと人工知能 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 異文化ケア科学 指定規則の教育内容 専門分野 「健康支援と社会保障制度」 「看護の統合と実践」 さらに、卒業要件に占める「統計学基礎1」2単位については、ケアデータ科学か	指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ヘルスケアサービス経営論 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 情報ケア科学 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと人工知能 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 異文化ケア科学 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」
--	--

ら 1 単位以上（12 単位以上→13 単位以上）、キャリア発展科目から 1 単位以上（2 単位以上→3 単位以上）を修得することに変更する。 2. 授業科目名への記号の付記 各コースの学生が選択する科目を記号などにより明確にするよう指示があったため、授業科目名の後ろに、各コースの選択科目を表す、以下の記号を追記する。 ○：実践看護科学コース ●：先進ケア科学コース 3. 履修方法及び卒業要件の修正 各コースの学生の履修方法を明記するよう指示があったため修正する。 履修方法及び卒業要件 専門科目 健康基礎科学 必修 15 単位 選択 ○実践看護科学コース：6 単位 ●先進ケア科学コース：3 単位 専門科目 基盤看護学 必修：15 単位 専門科目 共創科目 選択 ○実践看護科学コース：4 単位 （先進ケア科学コースは自由選択） 専門科目 実践看護科学 選択 ○実践看護科学コース：49 単位	履修方法及び卒業要件 必修 30 単位 選択 66 単位 ※基礎教育科目で取得した単位を含める
--	--

(先進ケア科学コースは自由選択) 専門科目 ケアデータ科学 選択 ●先進ケア科学コース：13 単位 (実践看護科学コースは自由選択) 専門科目 生体行動ケア科学 選択 ●先進ケア科学コース：24 単位 (実践看護科学コースは自由選択) 専門科目 ケアシステム科学 選択 ●先進ケア科学コース：23 単位 (実践看護科学コースは自由選択) 専門科目 キャリア発展科目 選択 ○実践看護科学コース：7 単位（○が付 された授業科目以外から 2 単位） ●先進ケア科学コース：3 単位（●が付 された授業科目以外から 2 単位） 4. その他 1) 指定規則に定める教育内容ごとに定める 単位数が満たなかったことによる修正 専門科目 健康基礎科学 ゲノム医療ケア科学 指定規則の教育内容 専門基礎分野 「人体の構造と機能」 「疾病の成り立ちと回復の促進」	専門科目 健康基礎科学 ゲノム医療ケア科学 指定規則の教育内容 専門基礎分野 <u>「健康支援と社会保障制度」</u>
--	---

専門科目 ケアデータ科学 高齢者ケアと経済 指定規則の教育内容 専門分野 「老年看護学」 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと意思決定 指定規則の教育内容 専門分野 「基礎看護学」 「看護の統合と実践」 2) 記載内容の不備 区分 実践看護科学 専門科目 健康基礎科学 栄養学総論 配当年次 2 後 専門科目 健康基礎科学 生命倫理学 配当年次 3 前 専門科目 健康基礎科学 セクシュアルヘルス支援 配当年次 3 前 専門科目	専門科目 ケアデータ科学 高齢者ケアと経済 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 専門科目 ケアデータ科学 ケアと意思決定 指定規則の教育内容 専門分野 「看護の統合と実践」 区分 実践看護学 専門科目 健康基礎科学 栄養学総論 配当年次 2 <u>前</u> 専門科目 健康基礎科学 生命倫理学 配当年次 <u>2</u> 前 専門科目 健康基礎科学 セクシュアルヘルス支援 配当年次 <u>2</u> 前 専門科目
--	---

基盤看護学 精神看護学基盤論 配当年次 2 前 専門科目 共創科目 コミュニケーション論 配当年次 3 前 専門科目 共創科目 コラボレーション論 配当年次 3 前 専門科目 実践看護科学 病態看護論 配当年次 2 後 合計欄 卒業要件単位数 (最低単位数) 指定規則の教育内容ごとの合計欄 削除 指定規則に対する増単位数 指定規則の教育内容ごとの合計欄 削除 3) 別表 3 (看護師課程) 専門分野 臨床実習の単位数の記載を修正	基盤看護学 精神看護学基盤論 配当年次 2 後 専門科目 共創科目 コミュニケーション論 配当年次 2 前 専門科目 共創科目 コラボレーション論 配当年次 2 前 専門科目 実践看護学 病態看護論 配当年次 2 前 合計欄 卒業要件 (最低) 単位数
--	---

ケア科学コース・養護教諭一種履修モデル) (削除) 専門科目 単位合計 必修単位 94 単位＋選択 (キャリア発展 2 単位) 2 単位以上 (設置趣旨 (資料) —149 ページ) 資料 8 各実習科目の実習内容 Ⅱ. 先進ケア科学コース 1. 生活行動ケア基本実習 【概要】 また、本実習で人・健康・環境・看護について思考を深めることをとおして看護に対する自らの観点を探究する。 (設置趣旨 (資料) —155 ページ) 資料 9 臨地実習計画表 (先進ケア科学コース) 臨床療養支援看護学実習 3 年生前期 1G 6 月第 3 週～7 月第 1 週 3 年生前期 2G 7 月第 2 週～7 月第 4 週 臨床健康危機看護学実習 3 年生前期 2G 6 月第 3 週～7 月第 1 週 3 年生前期 1G 7 月第 2 週～7 月第 4 週 3 年生前期の臨地実習 2 グループ制 (図の修正) 3 年生後期に、グループ軸を追加 (図の修正)	ケア科学コース・養護教諭一種履修モデル) <u>基礎教育科目</u> <u>統計学基礎</u> <u>1 年次前・後</u> 専門科目 単位合計 必修単位 <u>86</u> 単位＋選択 (<u>ケアデータ科学 7 単位</u>＋キャリア発展 <u>1</u> 単位) <u>8</u> 単位以上 (設置趣旨 (資料) —149 ページ) 資料 8 各実習科目の実習内容 Ⅱ. 先進ケア科学コース 1. 生活行動ケア基本実習 【概要】 また、本実習で人・健康・環境・看護について思考を深めることをとおして看護に対する自らの観点を<u>探求</u>する。 (設置趣旨 (資料) —155 ページ) 資料 9 臨地実習計画表 (先進ケア科学コース) 臨床療養支援看護学実習 3 年生前期 <u>1G～3G</u> 6 月第 3 週～7 月第 1 週 3 年生前期 <u>4G～7G</u> 7 月第 2 週～7 月第 4 週 臨床健康危機看護学実習 3 年生前期 <u>4G～7G</u> 6 月第 3 週～7 月第 1 週 3 年生前期 <u>1G～3G</u> 7 月第 2 週～7 月第 4 週 3 年生前期の臨地実習 <u>7 グループ制</u>
--	--

高齢者ケアシステム実習 3年生後期 4G 11月第4週～12月第2週 3年生後期 5G 11月第4週～12月第2週 3年生後期 6G 10月第4週～11月第2週 3年生後期 7G 11月第2週～11月第4週 精神行動看護学実習 3年生後期 1G 12月第2週～12月第3週 3年生後期 2G 12月第1週～12月第2週 3年生後期 6G 1月第3週～1月第4週 3年生後期 7G 1月第2週～1月第3週 子ども・家族看護過程実習 3年生後期 1G 11月第4週～12月第1週 3年生後期 2G 1月第2週～1月第3週 3年生後期 3G 12月第2週～12月第3週 訪問看護過程実習 4年生前期 5月第2週～5月第4週 6月第1週～6月第2週 6月第3週～7月第1週 生活行動ケア応用実習 4年生前期 5月第2週～5月第4週 6月第1週～6月第2週	高齢者ケアシステム実習 3年生後期 4G 12月第1週～12月第3週 3年生後期 5G 12月第1週～12月第3週 3年生後期 6G 11月第1週～11月第3週 3年生後期 7G 11月第3週～12月第1週 精神行動看護学実習 3年生後期 1G 11月第3週～11月第4週 3年生後期 2G 12月第2週～12月第3週 3年生後期 6G 11月第4週～12月第1週 3年生後期 7G 12月第2週～12月第3週 子ども・家族看護過程実習 3年生後期 1G 12月第2週～12月第3週 3年生後期 2G 11月第4週～12月第1週 3年生後期 3G 1月第2週～1月第3週 訪問看護過程実習 4年生前期 5月第3週～7月第1週 生活行動ケア応用実習 4年生前期 5月第1週～5月第2週
---	---

地域包括ケア実習 4 年生後期 10 月第 1 週～11 月第 3 週 (計画表枠外) (削除) (設置趣旨 (資料) —156 ページ) 資料 9 臨地実習計画表 (実践看護科学コース) 4 年生 1G 5 月第 4 週～6 月第 1 週 精神看護学実習 (設置趣旨 (資料) —163 ページ) 資料 14 実践看護科学コース カリキュラムマップ 【養成する人材像】 (略) 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を探究しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 共創科目の説明 ●看護の対象者、看護職、他職種との連携に必要な知識と技術を修得し、ケアをつなぐ重要性を理解 実践看護科学科目 (在宅看護学、地域看護学科目) の説明 ●広い視野で地域と在宅療養者への支援の理解	地域包括ケア実習 4 年生後期 10 月第 2 週～11 月第 3 週 (計画表枠外) <u>＊早期体験実習、高齢者ウェルネス実習、生活行動基本実習、生活行動ケア応用実習については学生を 7 グループに分け、1 グループあたり、学生 7～8 名にて構成する。</u> (設置趣旨 (資料) —156 ページ) 資料 9 臨地実習計画表 (実践看護科学コース) 4 年生 1G 5 月第 4 週～6 月第 1 週 <u>小児看護学実習</u> (設置趣旨 (資料) —163 ページ) 資料 14 実践看護科学コース カリキュラムマップ 【養成する人材像】 (略) 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を<u>探求</u>しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 共創科目の説明 ●看護の対象者、看護職、他職種との連携に必要な知識と技術を修得 実践看護科学科目 (在宅看護学、地域看護学科目) の説明 ●広い視野で地域と在宅療養者への支援の理解
--	---

●ケアをつなぐ地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの理解 実践看護科学科目（看護研究方法論、総合研究）の説明 ●看護研究に取り組む基礎的能力を修得 ●4年次で関心のある看護専門領域を選択し少人数制ゼミ教育 実践看護科学科目（総合実習）の説明 ●多職種との協働、看護のマネジメントと実践力を修得 ●臨床におけるケアをつなぐ重要性の理解 （設置趣旨（資料）—164 ページ） 資料 14 先進ケア科学コース カリキュラムマップ 【養成する人材像】 （略） 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を探究しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 基幹教育科目 （削除）	（追加） 実践看護科学科目（看護研究方法論、総合研究）の説明 ●関心のある看護専門領域で看護研究に取り組む基礎的能力を修得 実践看護科学科目（総合実習）の説明 ●多職種との協働、看護のマネジメントと実践力を修得 （追加） （設置趣旨（資料）—164 ページ） 資料 14 先進ケア科学コース カリキュラムマップ 【養成する人材像】 （略） 具体的には、看護学部で養成する豊かな人間性としては、全人的に人を理解し、倫理観をもって行動できる力、看護実践力としては、ケアをつなぎ、適切な判断と課題解決能力をもって看護を実践する力、社会への変化の適応力として、総合的な視野をもって看護を<u>探求</u>しながら自己を研鑽し、地域と国際社会に貢献する力を養成する。 基幹教育科目 <u>統計学基礎</u>
---	---

【看護学科】

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
（（再補正後）教育課程－1、6 ページ） （削除）	（（再補正前）教育課程－1、6 ページ） 授業科目の名称 <u>統計学基礎 1</u>

((再補正後) 教育課程－5、6、11 ページ) 卒業要件及び履修方法 (略) 2. 専門科目 上記 1 に加えて、専門科目 96 単位以上 (必修 30 単位、選択 66 単位以上) 修得すること ※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程－5 ページ) 合計 (128 科目) 備考：兼 61 <森之宮キャンパス> ((再補正後) 教育課程－6 ページ) 合計 (5 科目) 備考：兼 2	((再補正前) 教育課程－5、6、11 ページ) 卒業要件及び履修方法 (略) 2. 専門科目 上記 1 に加えて、<u>基幹教育科目の基礎教育科目および専門科目</u> 96 単位以上 (必修 30 単位、選択 66 単位以上) 修得すること ※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程－5 ページ) 合計 <u>(129 科目)</u> 備考：<u>兼 85</u> <森之宮キャンパス> ((再補正前) 教育課程－6 ページ) 合計 <u>(6 科目)</u> 備考：<u>兼 26</u>
---	---

(その他)

(5) 理学療法士作業療法士学校養成施設の指定申請に伴う修正

医学部

(対応)

理学療法士作業療法士学校養成施設に係る指定申請に伴い、申請書類の記載内容に不備等の指摘があったことから、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【リハビリテーション学科】

(新旧対照表) 医学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (添付資料) -17、18 ページ) 資料 4-1 理学療法学専攻 教育課程と指定規則との対比表 ・(理学療法士学校) (大阪公立大学医学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) 別表 1 (理学療法士課程) ・「履修要件及び卒業要件」、「小計 (卒業要件)」、「卒業要件単位数」、「指定規則に対する増単位数」を必修と選択に分けて記載。 ・「医学序論」と「心肺蘇生法実習」について専門基礎分野「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」に修正。 ・1 単位あたりの時間数 【理学療法学専攻専門科目】 ・理学療法基礎評価学 30 ・地域理学療法学 1 15 ・地域理学療法学 2 15 ・在宅リハビリテーション実習 30 ・総合理学療法論 2 30 (設置趣旨 (添付資料) -19、20 ページ) 資料 4-2 作業療法学専攻 教育課程と指定規則との対比表 ・(作業療法士学校) (大阪公立大学医学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻)	(設置趣旨 (添付資料) -17、18 ページ) 資料 4-1 理学療法学専攻 教育課程と指定規則との対比表 ・(学校種別) (大学等名) (学部、学科等名) 別表〇 ・「履修要件及び卒業要件」、「小計 (卒業要件)」、「卒業要件単位数」、「指定規則に対する増単位数」を必修と選択を分けずに記載。 ・「医学序論」と「心肺蘇生法実習」について基礎分野としていた。 ・1 単位あたりの時間数 【理学療法学専攻専門科目】 ・理学療法基礎評価学 15 ・地域理学療法学 1 30 ・地域理学療法学 2 30 ・在宅リハビリテーション実習 15 ・総合理学療法論 2 空白 (設置趣旨 (添付資料) -19、20 ページ) 資料 4-2 作業療法学専攻 教育課程と指定規則との対比表 ・(学校種別) (大学等名) (学部、学科等名)

別表 2 (作業療法士課程) ・「履修要件及び卒業要件」、「小計 (卒業要件)」、「卒業要件単位数」、「指定規則に対する増単位数」を必修と選択に分けて記載。 ・「医学序論」と「心肺蘇生法実習」について専門基礎分野「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」に修正。 ・理学療法学総論の配当年次を2 後、作業療法学総論の配当年次を1 前に修正。 ・1 単位あたりの時間数 【学部共通専門科目】 ・心肺蘇生法実習 30 【作業療法学専攻専門科目】 ・精神医学各論 30 ・作業科学実習 2 30 ・作業療法評価学 15 ・作業療法評価学各論 1 30 ・作業療法評価学各論 2 30 ・作業療法評価学実習 30 ・身体障害作業療法学 1 15 ・身体障害作業療法学実習 30 ・精神障害作業療法学 1 15 ・精神障害作業療法学実習 30 ・発達障害作業療法学 1 15 ・発達障害作業療法学実習 30 ・老年期障害作業療法学 15 ・高次脳機能障害学 15 ・作業療法研究法 1 30 ・作業療法研究法 2 30	別表〇 ・「履修要件及び卒業要件」、「小計 (卒業要件)」、「卒業要件単位数」、「指定規則に対する増単位数」を必修と選択を分けずに記載。 ・「医学序論」と「心肺蘇生法実習」について基礎分野としていた。 ・理学療法学総論の配当年次を1 後、作業療法学総論の配当年次を2 前としていた。 ・1 単位あたりの時間数 【学部共通専門科目】 ・心肺蘇生法実習 <u>15</u> 【作業療法学専攻専門科目】 ・精神医学各論 <u>15</u> ・作業科学実習 2 <u>45</u> ・作業療法評価学 <u>30</u> ・作業療法評価学各論 1 <u>15</u> ・作業療法評価学各論 2 <u>15</u> ・作業療法評価学実習 <u>45</u> ・身体障害作業療法学 1 <u>30</u> ・身体障害作業療法学実習 <u>45</u> ・精神障害作業療法学 1 <u>30</u> ・精神障害作業療法学実習 <u>45</u> ・発達障害作業療法学 1 <u>30</u> ・発達障害作業療法学実習 <u>45</u> ・老年期障害作業療法学 <u>30</u> ・高次脳機能障害学 <u>30</u> ・作業療法研究法 1 <u>15</u> ・作業療法研究法 2 <u>15</u>
(設置趣旨 (添付資料) -22 ページ) 資料 5-2-1 実習施設一覧 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) ・No. 7 学校法人 大阪医科大学附属病院 大阪医科薬科大学病院 (設置趣旨 (添付資料) -33、34、36、38 ページ)	(設置趣旨 (添付資料) -22 ページ) 資料 5-2-1 実習施設一覧 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) ・No. 7 学校法人 大阪医科大学附属病院 <u>大阪医科大学附属病院</u> (設置趣旨 (添付資料) -33、34、36、38 ページ)

資料 5-2-2 実習施設一覧（リハビリテーション学科作業療法学専攻） ・ No. 27 社会医療法人有隣会 東大阪病院 ・ No. 33 社会医療法人 医真会 八尾リハビリテーション病院 （〒581-0023）大阪府八尾市都塚 3-1015-1 ・ No. 53 特定医療法人 寿栄会 ありまこ うげんホスピタル ・ No. 67 三国丘病院	資料 5-2-2 実習施設一覧（リハビリテーション学科作業療法学専攻） ・ No. 27 <u>医療法人社団有隣会</u> 東大阪病院 ・ No. 33 社会医療法人 医真会 八尾リハビリテーション病院 <u>（〒581-0865）大阪府八尾市服部川 1 丁目 21 番地</u> ・ No. 53 特定医療法人 寿栄会 <u>有馬高原 病院</u> ・ No. 67 三国丘病院 <u>（デイケア）</u>
（設置趣旨（添付資料）－242、244 ページ） 資料 10-1 臨地実習計画表（医学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻） ・ 理学療法臨床実習 1 実習施設一覧 ・ 理学療法臨床実習 3 実習施設一覧 4 大阪医科薬科大学病院 （設置趣旨（添付資料）－249 ページ） 資料 10-2 臨地実習計画表（医学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻） ・ 作業療法臨床実習 4 実習施設一覧 38 ありまこうげんホスピタル 47 三国丘病院	（設置趣旨（添付資料）－242、244 ページ） 資料 10-1 臨地実習計画表（医学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻） ・ 理学療法臨床実習 1 実習施設一覧 ・ 理学療法臨床実習 3 実習施設一覧 4 <u>大阪医科大学附属病院</u> （設置趣旨（添付資料）－249 ページ） 資料 10-2 臨地実習計画表（医学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻） ・ 作業療法臨床実習 4 実習施設一覧 38 <u>有馬高原病院</u> 47 三国丘病院 <u>（デイケア）</u>

(その他)

(6) 社会福祉士申請に伴う修正

現代システム科学域

(対応)

現代システム科学域教育福祉学類が養成する社会福祉士について、社会福祉士に係る「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針について」に従い、補正申請書類の記載内容を下記のとおり修正する。

未来デザインコース専門科目として設定している次の4科目について、同指針により、合併授業（大学等における社会福祉士養成課程と他の学科、コース、専攻等と同時に授業を行うこと）を実施してはならないことから、知識情報システム学類、環境社会システム学類、心理学類の「教育課程等の概要」の未来デザインコース専門科目から削除する。

＜削除対象となる授業科目＞

「教育福祉フィールドワーク 2」
「教育福祉フィールドワーク 3」
「コミュニティとソーシャルワーク」
「相談援助演習」

また、「教育福祉フィールドワーク 1」については、合併授業での実施が認められるものの、前述の指針により、当該授業科目の履修者数に限度があり、かつ「教育福祉フィールドワーク 2」「教育福祉フィールドワーク 3」へとつながる、社会福祉士養成のための専門性の高い積み上げ式科目となっているため、「教育福祉フィールドワーク 1」についても知識情報システム学類、環境社会システム学類、心理学類における未来デザインコース専門科目から削除する。

【知識情報システム学類】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－4、7 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学類専門科目) (削除)	((再補正前) 教育課程－4、7 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学類専門科目) <u>教育福祉フィールドワーク 1</u>
((再補正後) 教育課程－4、11 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目	((再補正前) 教育課程－4、11 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目

未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） (削除) ((再補正後) 教育課程－4、11 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） (削除) ((再補正後) 教育課程－5、12 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 (削除) ((再補正後) 教育課程－5、12 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 (削除) ((再補正後) 教育課程－4 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） 小計 (26 科目) 単位数 選択 52 兼 20 ((再補正後) 教育課程－5 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 小計 (48 科目) 単位数 選択 89 兼 50 合計 (293 科目) 単位数 選択 527 兼 204	未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） <u>教育福祉フィールドワーク 2</u> ((再補正前) 教育課程－4、11 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） <u>教育福祉フィールドワーク 3</u> ((再補正前) 教育課程－5、12 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 <u>コミュニティとソーシャルワーク</u> ((再補正前) 教育課程－5、12 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 <u>相談援助演習</u> ((再補正前) 教育課程－4 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目（教育福祉学 類専門科目） 小計 <u>(29 科目)</u> 単位数 選択 <u>58</u> <u>兼 21</u> ((再補正前) 教育課程－5 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 小計 <u>(50 科目)</u> 単位数 選択 <u>93</u> <u>兼 53</u> 合計 <u>(295 科目)</u> 単位数 選択 <u>531</u> <u>兼 206</u>
---	--

((再補正後) 教育課程－7 ページ) <森之宮キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) 小計 (3 科目) 単位数 選択 6 兼 3 合計 (26 科目) 単位数 選択 30 兼 93 ((再補正後) 教育課程－11 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) 小計 (23 科目) 単位数 選択 46 兼 19 ((再補正後) 教育課程－13 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 小計 (46 科目) 単位数 選択 85 兼 50 合計 (269 科目) 単位数 選択 497 兼 220 ※環境社会システム学類、心理学類の「教 育課程等の概要」についても、上記の修正 を行う。	((再補正前) 教育課程－7 ページ) <森之宮キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) 小計 (4 科目) 単位数 選択 8 兼 6 合計 (28 科目) 単位数 選択 34 兼 96 ((再補正前) 教育課程－11 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) 小計 (25 科目) 単位数 選択 50 兼 20 ((再補正前) 教育課程－13 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 小計 (48 科目) 単位数 選択 89 兼 53 合計 (267 科目) 単位数 選択 497 兼 222
--	--

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
(授業概要－46 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) (削除)	(授業概要－45 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) <u>教育福祉フィールドワーク 1</u>
(授業概要－46 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) (削除)	(授業概要－45 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) <u>教育福祉フィールドワーク 2</u>
(授業概要－46 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) (削除)	(授業概要－45 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 (教育福祉学 類専門科目) <u>教育福祉フィールドワーク 3</u>
(授業概要－55 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 (削除)	(授業概要－55 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 <u>コミュニティとソーシャルワーク</u>
(授業概要－55 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 (削除)	(授業概要－55 ページ) 未来デザインコース (FDC) 専門科目 資格系専門科目 <u>相談援助演習</u>
※環境社会システム学類、心理学類の「授 業科目の概要」についても、上記の修正を 行う。	

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－3、18 ページ) 調書番号【32】 伊藤 嘉余子	((再補正前) 教員氏名－3、18 ページ) 調書番号【32】 伊藤 嘉余子

担当授業科目の名称 (削除) ((再補正後) 教員氏名－6、14 ページ) 調書番号【53】 東 優子 担当授業科目の名称 (削除) ((再補正後) 教員氏名－8、23 ページ) 調書番号【73】 嵯峨 嘉子 担当授業科目の名称 (削除) ((再補正後) 教員氏名－9、24 ページ) 調書番号【86】 松田 博幸 担当授業科目の名称 (削除) (削除) ((再補正後) 教員氏名－9、24 ページ) 調書番号【90】 森岡 次郎 担当授業科目の名称 (削除) ((再補正後) 教員氏名－10、15 ページ) 調書番号【93】 吉原 雅昭 担当授業科目の名称 (削除) ((再補正後) 教員氏名－10、24 ページ) 調書番号【94】 東根 ちよ 担当授業科目の名称 (削除)	担当授業科目の名称 <u>相談援助演習</u> ((再補正前) 教員氏名－6、14 ページ) 調書番号【53】 東 優子 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 1</u> ((再補正前) 教員氏名－8、22 ページ) 調書番号【73】 嵯峨 嘉子 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 2</u> ((再補正前) 教員氏名－9、23 ページ) 調書番号【86】 松田 博幸 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 2</u> <u>教育福祉フィールドワーク 3</u> ((再補正前) 教員氏名－9、24 ページ) 調書番号【90】 森岡 次郎 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 3</u> ((再補正前) 教員氏名－10、15 ページ) 調書番号【93】 吉原 雅昭 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 1</u> ((再補正前) 教員氏名－10、24 ページ) 調書番号【94】 東根 ちよ 担当授業科目の名称 <u>コミュニティとソーシャルワーク</u>
---	--

((再補正後) 教員氏名－11、15、26 ページ) 調書番号 129 神原 知香 担当授業科目の名称 (削除) (削除) (削除) (削除) 上記修正に伴い、月額基本給を修正する。 ((再補正後) 教員氏名－11、26 ページ) (削除) ((再補正後) 教員氏名－12、26 ページ) (削除) ((再補正後) 教員氏名－12、26 ページ) (削除) ※環境社会システム学類、心理学類の「教員の氏名等」についても、上記の修正を行う。	((再補正前) 教員氏名－11、15、26 ページ) 調書番号 129 神原 知香 担当授業科目の名称 <u>教育福祉フィールドワーク 1</u> <u>教育福祉フィールドワーク 2</u> <u>教育福祉フィールドワーク 3</u> <u>相談援助演習</u> ((再補正前) 教員氏名－11、26 ページ) 調書番号 133 塩田 祥子 担当授業科目の名称 <u>コミュニティとソーシャルワーク</u> ((再補正前) 教員氏名－12、26 ページ) 調書番号 137 鈴木 大介 担当授業科目の名称 <u>コミュニティとソーシャルワーク</u> ((再補正前) 教員氏名－12、26 ページ) 調書番号 142 中本 勝也 担当授業科目の名称 <u>相談援助演習</u>
---	---

(その他)

(7) 誤記や不備に伴う修正

1. 全学

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

(新旧対照表) 大阪公立大学 基本計画書

新	旧
(基本計画書－9 ページ)	(基本計画書－9 ページ)
教育課程	教育課程
開設する授業科目の総数	開設する授業科目の総数
文学部	文学部
哲学歴史学科	哲学歴史学科
講義 60 科目	講義 65 科目
演習 51 科目	演習 83 科目
実験・実習 4 科目	実験・実習 2 科目
計 115 科目	計 150 科目
工学部	工学部
化学工学科	化学工学科
講義 60 科目	講義 61 科目
演習 12 科目	演習 14 科目
実験・実習 9 科目	実験・実習 9 科目
計 81 科目	計 84 科目
マテリアル工学科	マテリアル工学科
講義 58 科目	講義 59 科目
演習 12 科目	演習 12 科目
実験・実習 9 科目	実験・実習 9 科目
計 79 科目	計 80 科目
化学バイオ工学科	化学バイオ工学科
講義 60 科目	講義 61 科目
演習 10 科目	演習 12 科目
実験・実習 8 科目	実験・実習 8 科目
計 78 科目	計 81 科目
生活科学部	生活科学部
食栄養学科	食栄養学科
講義 52 科目	講義 53 科目

演習 9 科目 実験・実習 24 科目 計 85 科目 (基本計画書－10、11 ページ) 教員組織の概要 工学部 建築学科 兼任教員等 183 (144) 化学工学科 兼任教員等 167 (163) マテリアル工学科 兼任教員等 169 (165) 化学バイオ工学科 兼任教員等 151 (146) 看護学部 看護学科 専任教員等 准教授 20 (19) 計 65 (64) 兼任教員等 61 (14) 生活科学部 食栄養学科 兼任教員等 71 (42) 新設分 計 教授 429 (467) 准教授 444 (452) 講師 205 (201) 助教 83 (86) 計 1,161 (1,206) 助手 11 (11)	演習 10 科目 実験・実習 24 科目 計 87 科目 (基本計画書－10、11 ページ) 教員組織の概要 工学部 建築学科 兼任教員等 183 (143) 化学工学科 兼任教員等 169 (163) マテリアル工学科 兼任教員等 167 (163) 化学バイオ工学科 兼任教員等 153 (146) 看護学部 看護学科 専任教員等 准教授 21 (20) 計 66 (65) 兼任教員等 85 (38) 生活科学部 食栄養学科 兼任教員等 78 (47) 新設分 計 教授 429 (467) 准教授 445 (453) 講師 205 (201) 助教 83 (86) 計 1,162 (1,207) 助手 11 (11)
---	--

合計		合計	
教授	429 (467)	教授	429 (467)
准教授	444 (452)	准教授	445 (453)
講師	205 (201)	講師	205 (201)
助教	83 (86)	助教	83 (86)
計	1,161 (1,206)	計	1,162 (1,207)
助手	11 (11)	助手	11 (11)

(新旧対照表) 大阪公立大学大学院 基本計画書

新	旧
(基本計画書－14 ページ)	(基本計画書－14 ページ)
教育課程	教育課程
開設する授業科目の総数	開設する授業科目の総数
文学研究科	文学研究科
言語文化学専攻（博士前期課程）	言語文化学専攻（博士前期課程）
講義 48 科目	講義 48 科目
演習 58 科目	演習 54 科目
実験・実習 0 科目	実験・実習 0 科目
計 106 科目	計 102 科目
言語文化学専攻（博士後期課程）	言語文化学専攻（博士後期課程）
講義 14 科目	講義 12 科目
演習 18 科目	演習 17 科目
実験・実習 0 科目	実験・実習 0 科目
計 32 科目	計 29 科目
(基本計画書－16、18 ページ)	(基本計画書－16、18 ページ)
教員組織の概要	教員組織の概要
新設分	新設分
文学研究科	文学研究科
文化構想学専攻（博士前期課程）	文化構想学専攻（博士前期課程）
専任教員等	専任教員等
教授 7 (8)	教授 7 (7)
准教授 5 (4)	准教授 5 (5)
看護学研究科	看護学研究科
看護学専攻（博士前期課程）	看護学専攻（博士前期課程）
専任教員等	専任教員等
准教授 20 (20)	准教授 21 (21)
計 63 (62)	計 64 (63)

看護学専攻（博士後期課程） 専任教員等 准教授 18 (18) 計 43 (42) 兼任教員等 35 (35) 新設分 小計（博士前期課程、修士課程、専門職学位課程） 教授 498 (510) 准教授 461 (454) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,199 (1,201) 小計（博士後期課程、博士課程） 教授 483 (509) 准教授 389 (390) 講師 142 (142) 助教 52 (53) 計 1,066 (1,094) 計 教授 498 (510) 准教授 461 (454) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,199 (1,201) 合計 教授 498 (510) 准教授 461 (454) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,199 (1,201)	看護学専攻（博士後期課程） 専任教員等 准教授 19 (19) 計 44 (43) 兼任教員等 35 (36) 新設分 小計（博士前期課程、修士課程、専門職学位課程） 教授 531 (551) 准教授 488 (481) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,259 (1,214) 小計（博士後期課程、博士課程） 教授 450 (468) 准教授 364 (366) 講師 142 (142) 助教 52 (53) 計 1,008 (1,029) 計 教授 531 (551) 准教授 488 (481) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,259 (1,215) 合計 教授 531 (551) 准教授 488 (481) 講師 180 (175) 助教 60 (62) 計 1,259 (1,214)
---	---

(新旧対照表) 校地校舎等の図面

新	旧
(図面－11 ページ) (3) 校舎、運動場等の配置図 羽曳野キャンパス (2024 年度まで利用) 利用学部等 ・看護学部 看護学科、看護学研究科 (～2024 年度までの利用、2025 年度から阿倍野に移転) ・医学部 リハビリテーション学科、リハビリテーション学研究科 (～2024 年度までの利用、2025 年度から森之宮に移転) ・生活科学部 食栄養学科、生活科学研究科 生活科学専攻 食栄養学コース (～2024 年度までの利用、2025 年度から森之宮に移転)	(図面－11 ページ) (3) 校舎、運動場等の配置図 羽曳野キャンパス (2024 年度まで利用) 利用学部等 ・看護学部 看護学科、看護学研究科 (～2024 年度までの利用、2025 年度から阿倍野に移転) ・医学部 リハビリテーション学科、リハビリテーション学研究科 (～2024 年度までの利用、2025 年度から森之宮に移転)

(新旧対照表) 学則 (大阪公立大学)

新	旧
(学則－11 ページ) 附則 2 (経過処置) 収容定員の欄 ・獣医学部獣医学科 200 (小計欄 200) ・医学部医学科 450 (小計欄 650)	(学則－11 ページ) 附則 2 (経過処置) 収容定員の欄 ・獣医学部獣医学科 240 (小計欄 240) ・医学部医学科 540 (小計欄 740)

(新旧対照表) 学則 (大阪公立大学大学院)

新	旧
(大学院学則－2 ページ) 第 4 条 (研究科、専攻、課程及び収容定員) 第 2 項 総収容定員の欄 ・法学政治学専攻 28 (大学院学則－9 ページ) 第 37 条 (学位の授与) 第 2 項 学位の名称 ・理学研究科 博士課程 博士 (理学) (大学院学則－12 ページ) 附則 2 (経過処置) 収容定員 (令和 5 年度)	(大学院学則－2 ページ) 第 4 条 (研究科、専攻、課程及び収容定員) 第 2 項 総収容定員の欄 ・法学政治学専攻 二 (大学院学則－9 ページ) 第 37 条 (学位の授与) 第 2 項 学位の名称 ・理学研究科 博士課程 博士 (理学) (大学院学則－12 ページ) 附則 2 (経過処置) 収容定員 (令和 5 年度)

の欄 ・農学研究科 博士後期課程 緑地環境科学専攻 6	の欄 ・農学研究科 博士後期課程 緑地環境科学専攻 <u>3</u>
---------------------------------------	---------------------------------------

2. 学部等

国際基幹教育機構

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおりに修正する。

【国際基幹教育機構】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－5 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－5 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
((再補正後) 教育課程－6 ページ) 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－6 ページ) 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位

(新旧対照表) 教員名簿 (教員の氏名等)

新	旧
((再補正後)) 教員氏名－17 ページ) 調書番号 519 吉岡 理文 担当授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－17 ページ) 調書番号 519 吉岡 理文 担当授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 810 竹田 恵美 担当授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 810 竹田 恵美 担当授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 822 田中 秀和 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 822 田中 秀和 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 823 田中 良晴 担当授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－25 ページ) 調書番号 823 田中 良晴 担当授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－29 ページ) 調書番号 948 渕側 太郎 担当授業科目の名称：	((再補正前) 教員氏名－29 ページ) 調書番号 948 渕側 太郎 担当授業科目の名称：

生物学 A 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1041 吉田 雅通 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1057 綿森 葉子 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1080 岩本 賢一 担当授業科目の名称： 入門化学 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－36 ページ) 調書番号 1369 浅芝 秀人 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－36 ページ) 調書番号 1371 綾野 孝則	生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1041 吉田 雅通 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1057 綿森 葉子 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－32 ページ) 調書番号 1080 岩本 賢一 担当授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－36 ページ) 調書番号 1369 浅芝 秀人 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－36 ページ) 調書番号 1371 綾野 孝則
--	--

担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> ((再補正後) 教員氏名－38 ページ) 調書番号 1402 岩井 雅崇 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> ((再補正後) 教員氏名－40 ページ) 調書番号 1424 大仁田 義裕 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> ((再補正後) 教員氏名－41 ページ) 調書番号 1449 金信 泰三 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> ((再補正後) 教員氏名－41 ページ) 調書番号 1451 釜江 哲朗 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> ((再補正後) 教員氏名－42 ページ) 調書番号 1455	担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－38 ページ) 調書番号 1402 岩井 雅崇 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－40 ページ) 調書番号 1424 大仁田 義裕 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－41 ページ) 調書番号 1449 金信 泰三 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－41 ページ) 調書番号 1451 釜江 哲朗 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－42 ページ) 調書番号 1455
--	--

河内 明夫 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－45 ページ) 調書番号 1506 佐官 謙一 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－45 ページ) 調書番号 1510 佐藤 敬志 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－47 ページ) 調書番号 1533 関 行宏 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－47 ページ) 調書番号 1545 武富 雄一郎 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－48 ページ)	河内 明夫 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 ((再補正前) 教員氏名－45 ページ) 調書番号 1506 佐官 謙一 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 ((再補正前) 教員氏名－45 ページ) 調書番号 1510 佐藤 敬志 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 ((再補正前) 教員氏名－47 ページ) 調書番号 1533 関 行宏 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 ((再補正前) 教員氏名－47 ページ) 調書番号 1545 武富 雄一郎 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 ((再補正前) 教員氏名－48 ページ)
--	--

調書番号 1550 伊達山 正人 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－48 ページ) 調書番号 1552 田中 潮 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－52 ページ) 調書番号 1623 橋本 要 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－54 ページ) 調書番号 1659 古澤 昌秋 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 ((再補正後) 教員氏名－55 ページ) 調書番号 1664 堀口 達也 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後	調書番号 1550 伊達山 正人 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－48 ページ) 調書番号 1552 田中 潮 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－52 ページ) 調書番号 1623 橋本 要 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－54 ページ) 調書番号 1659 古澤 昌秋 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> ((再補正前) 教員氏名－55 ページ) 調書番号 1664 堀口 達也 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u>
--	---

((再補正後) 教員氏名－55 ページ) 調書番号 1671 枘田 幹也 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－55 ページ) 調書番号 1671 枘田 幹也 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－56 ページ) 調書番号 1692 宮崎 慧 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－56 ページ) 調書番号 1692 宮崎 慧 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u>
((再補正後) 教員氏名－57 ページ) 調書番号 1705 森本 真弘 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後	((再補正前) 教員氏名－57 ページ) 調書番号 1705 森本 真弘 担当授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u>

現代システム科学域

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【現代システム科学域】

(新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) －15、16、17、18、19 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性	(設置趣旨 (本文) －15、16、17、18、19 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー ー (2) ディプロマポリシー [現代システム科学域] (略) 2. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 (略) [知識情報システム学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 知識情報システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 (略) [環境社会システム学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 環境社会システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 (略) [教育福祉学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 教育福祉学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 (略) [心理学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 (略)	イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー ー (2) ディプロマポリシー [現代システム科学域] (略) 2. (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。 (略) [知識情報システム学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 知識情報システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションできる。 (略) [環境社会システム学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 環境社会システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーション<u>す</u>ることができる。 (略) [教育福祉学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 教育福祉学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーション<u>す</u>ることができる。 (略) [心理学類] (略) 2. (コミュニケーション能力) 心理学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーション<u>す</u>ることができる。 (略)
---	---

[未来デザインコース (FDC)] (略) 2 (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。 ※カリキュラムマップに記載の各学類のディプロマ・ポリシーについても、上記と同様の修正を行う。 (設置趣旨 (本文) -28、29、30、31、32、33 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 ア 教育課程の編制方針 (カリキュラムポリシー) (略) [現代システム科学域] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目 (「University English 1A・1B・2A・2B・3A・3B」) および初修外国語科目を配置する。 (略) [知識情報システム学類] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目 (「University English 1A・1B・2A・2B・3A・3B」) および初修外国語科目を配置する。 (略) [環境社会システム学類] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を	[未来デザインコース (FDC)] (略) 2 (コミュニケーション能力) 複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーション<u>す</u>ることができる。 (設置趣旨 (本文) -28、29、30、31、32 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 ア 教育課程の編制方針 (カリキュラムポリシー) (略) [現代システム科学域] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。 (略) [知識情報システム学類] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。 (略) [環境社会システム学類] (略) 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、
--	---

養うために、基幹教育科目の英語科目 （「University English 1A・1B・2A・2B・ 3A・3B」）および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔教育福祉学類〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目 （「University English 1A・1B・2A・2B・ 3A・3B」）および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔心理学類〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目 （「University English 1A・1B・2A・2B・ 3A・3B」）および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔未来デザインコース（FDC）〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目 （「University English 1A・1B・2A・2B・ 3A・3B」）および初修外国語科目を配置する。 ※カリキュラムマップに記載の各学類のカリキュラム・ポリシーについても、上記と同様の修正を行う。 （設置趣旨（本文）-49 ページ） 5 教員組織の編成の考え方及び特色 イ 教員組織編成の特色	基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔教育福祉学類〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔心理学類〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。 （略） 〔未来デザインコース（FDC）〕 （略） 2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションできる能力を養うために、基幹教育科目に英語科目および初修外国語科目を配置する。 （設置趣旨（本文）-45 ページ） 5 教員組織の編成の考え方及び特色 イ 教員組織編成の特色
---	---

<

専 門 科 目	学域共通	12 以上				96 以 上
	学類基盤	26 以 上	16 以 上	20 以 上	—	
	学類専門	30 以 上	32 以 上	30 以 上	48 以 上	
	学類関連	—	—	—	10 以 上	
	P B L プ ログラム	2 以上				
	合計単位数	131 以上				

専 門 科 目	基礎教育科目	12 以 上	6 以 上	6 以 上	4 以 上	96 以 上
	学域共通	12 以上				
	学類基盤	26 以 上	16 以 上	20 以 上	—	
	学類専門	30 以 上	32 以 上	30 以 上	48 以 上	
	学類関連	—	—	—	10 以 上	
	P B L プ ログラム	2 以上				
合計単位数	131 以上					

(設置趣旨 (本文) -57 ページ)

8 入学者選抜の概要

ア アドミッションポリシー

[現代システム科学域]

(略)

本学域では、複数の学問分野を融合的に学びつつ PBL (Project-Based-Learning) に取り組むことを通して、現代社会の諸問題を解決することができる人材を養成することを目指す。

(設置趣旨 (本文) -53 ページ)

8 入学者選抜の概要

ア アドミッションポリシー

[現代システム科学域]

(略)

本科学域では、複数の学問分野を融合的に学びつつ PBL (Project-Based-Learning) に取り組むことを通して、現代社会の諸問題を解決することができる人材を養成することを目指す。

(設置趣旨 (本文) -64 ページ)

イ 入学者選抜の方法と体制

(略)

各学類において、一般前期入試における大学入学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は下表のとおりである。

(略)

学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は下表と同様の科目の大学入学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学入学共通テストを課さず、

(略)

(設置趣旨 (本文) -59、60 ページ)

イ 入学者選抜の方法と体制

(略)

各学類において、一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は下表のとおりである。

(略)

学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は下表と同様の科目の大学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学共通テストを課さず、

(略)

【各学類の一般前期入試における大学入学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】 【各学類の一般前期入試における大学入学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】	【各学類の一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】																																																																																																																																																																																												
(設置趣旨 (本文) -94 ページ) 2 3 未来デザインコース (FDC : Future Design Course) エ FDC の卒業要件 【各学類および FDC の卒業要件】	(設置趣旨 (本文) -86 ページ) 2 3 未来デザインコース (FDC : Future Design Course) エ FDC の卒業要件 【各学類 (課程) および FDC の卒業要件】																																																																																																																																																																																												
<table><tr><th colspan="2" rowspan="3">科目区分</th><th colspan="5">卒業要件</th><th rowspan="3">計</th></tr><tr><th colspan="4">学類</th><th rowspan="2"></th></tr><tr><th>知識情報</th><th>環社シス</th><th>教育福祉</th><th>心理</th></tr><tr><td rowspan="6">基幹教育科目</td><td>総合教養</td><td colspan="4">10</td><td rowspan="6">35以上</td></tr><tr><td>初年次教育</td><td colspan="4">2</td></tr><tr><td>情報リテラシー</td><td colspan="4">2</td></tr><tr><td>英語</td><td colspan="4">6</td></tr><tr><td>初修外国語</td><td colspan="4">2</td></tr><tr><td>健康・スポーツ科学</td><td colspan="4">3</td></tr><tr><td colspan="2">基礎教育科目</td><td>12以上</td><td>6以上</td><td>6以上</td><td>4以上</td><td rowspan="6">102以上</td></tr><tr><td rowspan="6">専門科目</td><td>学域共通</td><td colspan="4">16以上</td></tr><tr><td>学類基盤</td><td>20以上</td><td>10以上</td><td>14以上</td><td>—</td></tr><tr><td>学類専門</td><td>30以上</td><td>32以上</td><td>30以上</td><td>42以上</td></tr><tr><td>学類関連</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>10以上</td></tr><tr><td>PBL プログラム</td><td colspan="4">2以上</td></tr><tr><td>未来デザインプログラム</td><td colspan="4">22以上</td></tr><tr><td colspan="2">合計単位数</td><td colspan="4">137以上</td><td></td></tr></table>	科目区分		卒業要件					計	学類					知識情報	環社シス	教育福祉	心理	基幹教育科目	総合教養	10				35以上	初年次教育	2				情報リテラシー	2				英語	6				初修外国語	2				健康・スポーツ科学	3				基礎教育科目		12以上	6以上	6以上	4以上	102以上	専門科目	学域共通	16以上				学類基盤	20以上	10以上	14以上	—	学類専門	30以上	32以上	30以上	42以上	学類関連	—	—	—	10以上	PBL プログラム	2以上				未来デザインプログラム	22以上				合計単位数		137以上					<table><tr><th colspan="2" rowspan="3">科目区分</th><th colspan="5">卒業要件</th><th rowspan="3">計</th></tr><tr><th colspan="4">学類</th><th rowspan="2"></th></tr><tr><th>知識情報</th><th>環社シス</th><th>教育福祉</th><th>心理</th></tr><tr><td rowspan="6">基幹教育科目</td><td>総合教養</td><td colspan="4">10以上</td><td rowspan="6">35</td></tr><tr><td>初年次教育</td><td colspan="4">2</td></tr><tr><td>情報リテラシー</td><td colspan="4">2</td></tr><tr><td>英語</td><td colspan="4">6</td></tr><tr><td>初修外国語</td><td colspan="4">2以上</td></tr><tr><td>キャリア教育</td><td colspan="4">—</td></tr><tr><td colspan="2">基礎教育科目</td><td>12以上</td><td>6以上</td><td>6以上</td><td>4</td><td rowspan="6">102</td></tr><tr><td rowspan="6">専門科目</td><td>学域共通</td><td colspan="4">16以上</td></tr><tr><td>学類基盤</td><td>20以上</td><td>10以上</td><td>14以上</td><td>—</td></tr><tr><td>学類専門</td><td>30以上</td><td>32以上</td><td>30以上</td><td>42以上</td></tr><tr><td>学類関連</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>10以上</td></tr><tr><td>PBL プログラム</td><td colspan="4">2以上</td></tr><tr><td>未来デザインプログラム</td><td colspan="4">22以上</td></tr><tr><td colspan="2">合計単位数</td><td colspan="4">137以上</td><td></td></tr></table>	科目区分		卒業要件					計	学類					知識情報	環社シス	教育福祉	心理	基幹教育科目	総合教養	10以上				35	初年次教育	2				情報リテラシー	2				英語	6				初修外国語	2以上				キャリア教育	—				基礎教育科目		12以上	6以上	6以上	4	102	専門科目	学域共通	16以上				学類基盤	20以上	10以上	14以上	—	学類専門	30以上	32以上	30以上	42以上	学類関連	—	—	—	10以上	PBL プログラム	2以上				未来デザインプログラム	22以上				合計単位数		137以上				
科目区分			卒業要件						計																																																																																																																																																																																				
			学類																																																																																																																																																																																										
		知識情報	環社シス	教育福祉	心理																																																																																																																																																																																								
基幹教育科目	総合教養	10				35以上																																																																																																																																																																																							
	初年次教育	2																																																																																																																																																																																											
	情報リテラシー	2																																																																																																																																																																																											
	英語	6																																																																																																																																																																																											
	初修外国語	2																																																																																																																																																																																											
	健康・スポーツ科学	3																																																																																																																																																																																											
基礎教育科目		12以上	6以上	6以上	4以上	102以上																																																																																																																																																																																							
専門科目	学域共通	16以上																																																																																																																																																																																											
	学類基盤	20以上	10以上	14以上	—																																																																																																																																																																																								
	学類専門	30以上	32以上	30以上	42以上																																																																																																																																																																																								
	学類関連	—	—	—	10以上																																																																																																																																																																																								
	PBL プログラム	2以上																																																																																																																																																																																											
	未来デザインプログラム	22以上																																																																																																																																																																																											
合計単位数		137以上																																																																																																																																																																																											
科目区分		卒業要件					計																																																																																																																																																																																						
		学類																																																																																																																																																																																											
		知識情報	環社シス	教育福祉	心理																																																																																																																																																																																								
基幹教育科目	総合教養	10以上				35																																																																																																																																																																																							
	初年次教育	2																																																																																																																																																																																											
	情報リテラシー	2																																																																																																																																																																																											
	英語	6																																																																																																																																																																																											
	初修外国語	2以上																																																																																																																																																																																											
	キャリア教育	—																																																																																																																																																																																											
基礎教育科目		12以上	6以上	6以上	4	102																																																																																																																																																																																							
専門科目	学域共通	16以上																																																																																																																																																																																											
	学類基盤	20以上	10以上	14以上	—																																																																																																																																																																																								
	学類専門	30以上	32以上	30以上	42以上																																																																																																																																																																																								
	学類関連	—	—	—	10以上																																																																																																																																																																																								
	PBL プログラム	2以上																																																																																																																																																																																											
	未来デザインプログラム	22以上																																																																																																																																																																																											
合計単位数		137以上																																																																																																																																																																																											
(設置趣旨 (資料) -24、25、26、27、28、29、30、33、34 ページ) 資料 2 現代システム科学域の履修モデル	(設置趣旨 (資料) -24、25、26、27、28、29、30、33、34 ページ) 資料 2 現代システム科学域の履修モデル																																																																																																																																																																																												

環境社会システム学類履修モデル 1 年次 基幹教育科目 総合教養科目 現代社会におけるキャリアデザイン (設置趣旨 (資料) -24 ページ) 1 年次 基幹教育科目 総合教養科目 生命と環境 # (設置趣旨 (資料) -24、25 ページ) 専門科目 学類専門科目 単位合計 54 (設置趣旨 (資料) -24、25、26、27、 28、29、30、31、32、33、34、35、36 ページ) 1 年次 基幹教育科目 外国語科目 University English 1A University English 1B University English 2A University English 2B (設置趣旨 (資料) -25 ページ) 1 年次 専門科目 学類専門科目 地域実践演習 2 年次 専門科目 学類基盤科目 公共政策学基礎 (下線、#を削除) (設置趣旨 (資料) -26、30、35 ページ)	環境社会システム学類履修モデル 1 年次 基幹教育科目 総合教養科目 現代社会におけるキャリアデザイン (設置趣旨 (資料) -24 ページ) 2 年次 基幹教育科目 総合教養科目 生命と環境 (設置趣旨 (資料) -24、25 ページ) 専門科目 学類専門科目 単位合計 <u>56</u> (設置趣旨 (資料) -24、25、26、27、 28、29、30、31、32、33、34、35、36 ページ) 1 年次 基幹教育科目 外国語科目 Un<u>i</u>siversity English 1A Un<u>i</u>siversity English 1B Un<u>i</u>siversity English 2A Un<u>i</u>siversity English 2B (設置趣旨 (資料) -25 ページ) 1 年次 専門科目 学類専門科目 地域実践演習 <u>#</u> 2 年次 専門科目 学類基盤科目 <u>公共政策学基礎</u> <u>#</u> (設置趣旨 (資料) -26、30、35 ページ)
--	---

2 年次前期 専門科目 学類専門科目 倫理学 (設置趣旨(資料) -26、27、28、29、30 ページ) 3 年次 専門科目 学域共通科目 インターンシップ (下線を削除) (設置趣旨(資料) -28、29 ページ) 2 年次 専門科目 学類基盤科目 地理学基礎 (設置趣旨(資料) -29 ページ) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 PBL 演習(共生の思想) Ⅱ (下線を追加) (設置趣旨(資料) -30 ページ) 2 年次 専門科目 学類専門科目 社会調査論 (下線を削除) (設置趣旨(資料) -31 ページ) 環境社会システム学類履修モデル(環境哲学・政策学 No.1) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 PBL 演習(地域再生) Ⅱ (下線を追加)	2 年次後期 専門科目 学類専門科目 倫理学 (設置趣旨(資料) -26、27、28、29、30 ページ) 3 年次 専門科目 学域共通科目 <u>インターンシップ</u> (設置趣旨(資料) -28、29 ページ) 2 年次 専門科目 学類基盤科目 地理学基礎Ⅱ (設置趣旨(資料) -29 ページ) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 PBL 演習(共生の思想) Ⅱ (設置趣旨(資料) -30 ページ) 2 年次 専門科目 学類専門科目 <u>社会調査論</u> (設置趣旨(資料) -31 ページ) 環境社会システム学類履修モデル(環境共生学 No.1) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 PBL 演習(地域再生) Ⅱ
--	--

(設置趣旨(資料)－32 ページ) 環境社会システム学類履修モデル (<u>環境哲学・政策学</u> No. 2) (設置趣旨(資料)－33、34 ページ) 1 年次 基幹教育科目 総合教養科目 大阪の都市づくり 2 年次 専門科目 学類専門科目 <u>地域研究◇</u> (<u>＃を削除</u>) 自由科目 単位合計 <u>32</u> ※知識情報システム学類、心理学類の履修モデルについても上記の修正を行う。	(設置趣旨(資料)－32 ページ) 環境社会システム学類履修モデル (<u>環境共生学</u> No. 2) (設置趣旨(資料)－33、34 ページ) 1 年次 基幹教育科目 総合教養科目 大阪の都市づくり<u>＃</u> 2 年次 専門科目 学類専門科目 <u>地域研究＃◇</u> (追加)
(設置趣旨(資料)－33 ページ) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 <u>PBL 演習 (ESD-A) ＃◇</u> (<u>下線を追加</u>)	(設置趣旨(資料)－33 ページ) 3 年次 専門科目 PBL プログラム科目 PBL 演習 (ESD-A) ＃◇
(設置趣旨(資料)－34 ページ) 2 年次 専門科目 学類基盤科目 <u>地理学基礎◇</u> (<u>＃を削除</u>)	(設置趣旨(資料)－34 ページ) 2 年次 専門科目 学類基盤科目 <u>地理学基礎＃◇</u>
2 年次 専門科目 学類専門科目 文化と景観◇	2 年次 専門科目 学類専門科目 文化と景観<u>＃◇</u>

3 年次 専門科目 学類専門科目 都市と経済の地理学◇	3 年次 専門科目 学類専門科目 都市と経済の地理学 <u>並</u> ◇
4 年次 専門科目 学類専門科目 防災・安全科学	4 年次 専門科目 学類専門科目 防災安全科学

【環境社会システム学類】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－3 ページ) 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 単位数： 必修 2単位	((再補正前) 教育課程－3 ページ) 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 単位数： <u>選択 2 単位</u>
授業科目名： 未来デザイン計画演習 単位数： 必修 2単位	授業科目名： 未来デザイン計画演習 単位数： <u>選択 2単位</u>
授業科目名 未来デザインPBL演習 単位数： 必修 2単位	授業科目名 未来デザインPBL演習 単位数： <u>選択 2単位</u>
授業科目名： 未来デザイン卒業研究 単位数： 必修 6単位	授業科目名： 未来デザイン卒業研究 単位数： <u>選択 6単位</u>
科目区分： 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目	科目区分： 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目

単位数： 小計 必修 12 選択 0 ((再補正後) 教育課程－5 ページ) 単位数： 合計 必修 38 選択 549 ((再補正後) 教育課程－7 ページ) <森之宮キャンパス> 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 単位数： 必修 2単位 科目区分： 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 単位数： 小計 必修 2 選択 0 合計 必修 12 選択 40 ((再補正後) 教育課程－10 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 授業科目名： 未来デザイン計画演習 単位数： 必修 2単位 授業科目名： 未来デザインPBL演習 単位数： 必修 2単位 授業科目名： 未来デザイン卒業研究 単位数： 必修 6単位	単位数： 小計 必修 0 選択 12 ((再補正前) 教育課程－5 ページ) 単位数： 合計 必修 26 選択 565 ((再補正前) 教育課程－7 ページ) <森之宮キャンパス> 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 単位数： 選択 2単位 科目区分： 未来デザインコース (FDC) 専門科目 未来デザインプログラム科目 単位数： 小計 必修 0 選択 2 合計 必修 14 選択 46 ((再補正前) 教育課程－10 ページ) <中百舌鳥キャンパス> 授業科目名： 未来デザイン計画演習 単位数： 選択 2単位 授業科目名： 未来デザインPBL演習 単位数： 選択 2単位 授業科目名： 未来デザイン卒業研究 単位数： 選択 6単位
---	---

科目区分： 未来デザインコース（FDC）専門科目 未来デザインプログラム科目 単位数： 小計 必修 10 選択 0 （（再補正後）教育課程－13 ページ） ＜中百舌鳥キャンパス＞ 単位数： 合計 必修 28 選択 509 ※教育福祉学類、心理学類の「教育課程等の概要」についても、上記の修正を行う。	科目区分： 未来デザインコース（FDC）専門科目 未来デザインプログラム科目 単位数： 小計 必修 0 選択 10 （（再補正前）教育課程－13 ページ） ＜中百舌鳥キャンパス＞ 単位数： 合計 必修 12 選択 519
---	---

【教育福祉学類】

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
（（再補正後）教育課程－6、8、14ページ） 卒業要件及び履修方法の欄 （略） 未来デザインコース（FDC） 学士（学術） （略） 2. 専門科目 （略） （5）未来デザインプログラム科目 22 単位以上（必修 12 単位を含む） ※未来デザインコースを修了する場合、教育福祉学卒業研究は履修することができない。 （（再補正後）教育課程－2、9ページ） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：2後 ※カリキュラムマップ、履修モデルについても、上記の修正を行う。	（（再補正前）教育課程－6、8、14 ページ） 卒業要件及び履修方法の欄 （略） 未来デザインコース（FDC） 学士（学術） （略） 2. 専門科目 （略） （5）未来デザインプログラム科目 22 単位以上（必修 12 単位を含む） ※未来デザインコースを修了する場合、<u>知識情報システム学卒業研究</u>は履修することができない。 （（再補正前）教育課程－2、9 ページ） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：3前

（（再補正後）教育課程－15、16ページ） 現代システム科学域 PBLプログラム履修課程 PBLプログラム： ESD-A（資格系） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：<u>2後</u> PBLプログラム： ESD-B（資格系） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：<u>2後</u> ※「現代システム科学域 PBLプログラム履修課程」については、知識情報システム学類、環境社会システム学類、心理学類において、上記の修正を行う。	（（再補正前）教育課程－15、16 ページ） 現代システム科学域 PBLプログラム履修課程 PBLプログラム： ESD-A（資格系） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：<u>3 前</u> PBLプログラム： ESD-B（資格系） 授業科目名： 国際教育と開発 配当年次：<u>3 前</u>
---	---

【心理学類】

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
（（再補正後）教育課程－6、8、14ページ） 卒業要件及び履修方法の欄 (略) 未来デザインコース（FDC） 学士（学術） (略) 2. 専門科目 (略) (5) 未来デザインプログラム科目 22 単位以上（必修 12 単位を含む） ※未来デザインコースを修了する場合、心理学卒業研究は履修することができない。	（（再補正前）教育課程－6、8、14 ページ） 卒業要件及び履修方法の欄 (略) 未来デザインコース（FDC） 学士（学術） (略) 2. 専門科目 (略) (5) 未来デザインプログラム科目 22 単位以上（必修 12 単位を含む） ※未来デザインコースを修了する場合、<u>知識情報システム学卒業研究</u>は履修することができない。

【環境社会システム学類】

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－3 ページ) 調書番号<5> 西川 弘展 週当たり平均日数：5 日 (削除) ((再補正後) 教員氏名－18 ページ) 調書番号<5> 西川 弘展 週当たり平均日数：5 日 上記の他、月額基本給の不整合(教育福祉学類、心理学類も同様)を修正した。	((再補正前) 教員氏名－3 ページ) 調書番号【24】 西川 弘展 週当たり平均日数： ((再補正前) 教員氏名－14 ページ) 調書番号【24】 西川 弘展 週当たり平均日数： ((再補正前) 教員氏名－18 ページ) 調書番号【24】 西川 弘展 週当たり平均日数：

【知識情報システム学類】

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
(授業概要-4ページ) 授業科目名：インターンシップ 授業計画： (略) 単位として認定されるインターンシップは、原則として、本学キャリアサポートを通じて申し込んだものであるが、教員の紹介や個人で探してきたものについても、単位認定の対象となることがあるので、事前に担当教員に申し出る必要がある。 (略) ※環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の「授業科目の概要」について	(授業概要-4ページ) 授業科目名：インターンシップ 事業計画： (略) 単位として認定されるインターンシップは、原則として、本学キャリアサポートを通じて申し込んだものであるが、教員の紹介や個人で探してきたものについても、単位認定の対象となることがあるので、事前に担当教員に申し出る必要<u>有</u>る。 (略)

も、上記の修正を行う。	
-------------	--

(新旧対照表) シラバス

新	旧
(シラバス-93ページ) 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 必修・選択・自由の別 必修	(シラバス-93ページ) 授業科目名： 未来デザインインターンシップ 必修・選択・自由の別 選択
(シラバス-95ページ) 授業科目名： 未来デザイン計画演習 必修・選択・自由の別 必修	(シラバス-95ページ) 授業科目名： 未来デザイン計画演習 必修・選択・自由の別 選択
(シラバス-97ページ) 授業科目名： 未来デザインPBL演習 必修・選択・自由の別 必修	(シラバス-97ページ) 授業科目名： 未来デザインPBL演習 必修・選択・自由の別 選択
(シラバス-99ページ) 授業科目名： 未来デザイン卒業研究 必修・選択・自由の別 必修	(シラバス-99ページ) 授業科目名： 未来デザイン卒業研究 必修・選択・自由の別 選択
※環境社会システム学類、教育福祉学類、心理学類の「シラバス」についても、上記の修正を行う。	

【教育福祉学類】

(新旧対照表) 教育福祉学類 シラバス

新	旧
※不備があったため修正するシラバスについて、授業科目名及び修正する項目を示す。 (シラバス-14ページ)	(シラバス-14ページ)

教育福祉学A ・ 成績評価方法 (シラバスー16ページ) 教育福祉学B ・ 成績評価方法	教育福祉学A (シラバスー16ページ) 教育福祉学B
---	---

【環境社会システム学類】

(新旧対照表) 審査意見への対応を記載した書類 (3月)

新	旧
(意見対応 (3月) (本文) -6 ページ) 審査意見 1 (対応) (略) このうちの2つのキーワード、「領域<u>横断的</u>応用力」と「システムの思考力」それぞれの定義については、現代システム科学域 (共通) の審査意見 No. 1 の資料 1 (現代システム科学域に関するキーワードについての説明) を参照いただきたい。 (略) 環境社会システム学類においては、表 1 に示すように、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然	(意見対応 (3月) (本文) -6 ページ) 審査意見 1 (対応) (略) このうちの2つのキーワード、「領域<u>相談的</u>応用力」と「システムの思考力」それぞれの定義については、現代システム科学域 (共通) の審査意見 No. 1 の資料 1 (現代システム科学域に関するキーワードについての説明) を参照いただきたい。 (略) 環境社会システム学類においては、表 1 に示すように、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然

システムの持続可能性を理解することで領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(意見対応 (3 月) (本文) -11、12 ページ)

審査意見 2

(対応)

(略)

環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解することで領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(略)

(意見対応 (3 月) (本文) -16、17 ページ)

審査意見 3

システムの持続可能性を理解領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(意見対応 (3 月) (本文) -11、12 ページ)

審査意見 2

(対応)

(略)

環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(略)

(意見対応 (3 月) (本文) -16、17 ページ)

審査意見 3

(対応) (略) 例えば、PBL プログラム（環境学）であれば、環境学の基礎的な座学として、まず人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修として学び、その次に応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を身に付けたうえで PBL 演習に臨む、という構成となっている。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -42 ページ) 審査意見 6 (対応) (略) 一般前期入試において、理・数型は、大学入学共通テストにおいて国語、社会 (1 科目選択)、数学 (2 科目選択)、理科 (1 科目選択)、英語の 5 教科 6 科目を、個別学力検査では数学 (数Ⅱ・数 B まで)、理科 (物理・化学・生物・地学から 1 つを選択) の 2 科目を課す。また英・国型は、大学入学共通テストにおいて国語、社会 (2 科目選択)、数学 (2 科目選択)、理科 (1 科目選択)、英語の 5 教科 7 科目を、個別学力検査では国型 (国語総合と現代文 B)、英語の 2 科目を課す。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -44 ページ) 審査意見 6 (新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類 新欄	(対応) (略) 例えば、PBL プログラム（環境学）であれば、環境学の基礎的な座学として、まず人間環境を理解する「環境・生命・倫理」、社会環境を理解する「環境政策学」、自然環境を理解する「自然環境学概論」を必修として学び、その次に応用の座学として受講生の興味に合わせてさまざまな環境関連科目 6 科目から一つを選択して履修したのち、それらの知識・技能を付けたうえで PBL 演習に臨む、という構成となっている。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -42 ページ) 審査意見 6 (対応) (略) 一般前期入試において、理・数型は、大学共通テストにおいて国語、社会 (1 科目選択)、数学 (2 科目選択)、理科 (1 科目選択)、英語の 5 教科 6 科目を、個別学力検査では数学 (数Ⅱ・数 B まで)、理科 (物理・化学・生物・地学から 1 つを選択) の 2 科目を課す。また英・国型は、大学共通テストにおいて国語、社会 (2 科目選択)、数学 (2 科目選択)、理科 (1 科目選択)、英語の 5 教科 7 科目を、個別学力検査では国型 (国語総合と現代文 B)、英語の 2 科目を課す。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -44 ページ) 審査意見 6 (新旧対照表) 現代システム科学域 設置の趣旨等を記載した書類 新欄
--	--

(略) 各学類において、一般前期入試における大学入学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は下表のとおりである。 (略) 学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は下表と同様の科目の大学入学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学入学共通テストを課さず、代わりに出願資格を『調査書の全体の評定平均値が 4.0 (5 点満点) 以上で、かつ「外国語、英語のいずれかの 1 教科」及び「国語、地理歴史、公民、理科、数学、理数のいずれか 2 教科」の 3 教科の評定平均値の平均が 4.2 以上の者』としており、外国語の基礎学力については評定平均により確認できる。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -45 ページ) 新欄 (略) 【各学類の一般前期入試における大学入学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -66 ページ) 審査意見 13 (対応) (略) この「経済学基礎」と既存の「公共政策学基礎」(選択必修、2 年次前期)、ならびに別途指摘があった法律学の基礎「企業法」を改変した「経済活動と法」(選択必修、2 年次前期)を学類基盤科目として学ぶことで、政策科学の基礎を学修する。 (略)	(略) 各学類において、一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力検査で課している科目は下表のとおりである。 (略) 学校推薦型選抜においては、知識情報システム学類は下表と同様の科目の大学共通テストを課しており基礎学力の確認を行っている、またそれ以外の学類は大学共通テストを課さず、代わりに出願資格を『調査書の全体の評定平均値が 4.0 (5 点満点) 以上で、かつ「外国語、英語のいずれかの 1 教科」及び「国語、地理歴史、公民、理科、数学、理数のいずれか 2 教科」の 3 教科の評定平均値の平均が 4.2 以上の者』としており、外国語の基礎学力については評定平均により確認できる。 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -45 ページ) 新欄 (略) 【各学類の一般前期入試における大学共通テストおよび個別学力試験に課す科目】 (略) (意見対応 (3 月) (本文) -66 ページ) 審査意見 13 (対応) (略) この「経済学基礎」と既存の「公共政策学基礎」(選択必修、2 年次前期)、ならびに別途指摘があった法律学の基礎を「企業法」を改変した「経済活動と法」(選択必修、2 年次前期)を学類基盤科目として学ぶことで、政策科学の基礎を学修する。 (略)
--	---

(意見対応 (3 月) (本文) -81 ページ) 審査意見 17 (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 新欄 (略) [環境社会システム学類] 環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解することで領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。 (略)	(意見対応 (3 月) (本文) -81 ページ) 審査意見 17 (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 新欄 (略) [環境社会システム学類] 環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。 (略)
(意見対応 (3 月) (本文) -83 ページ) 審査意見 18 (対応) 環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生など	(意見対応 (3 月) (本文) -83 ページ) 審査意見 18 (対応) 環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生など

の社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解することによって領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(略)

(意見対応 (3 月) (本文) -83、84 ページ)

(新旧対照表)

現代システム科学域設置の趣旨等を記載した書類
新欄

(略)

[環境社会システム学類]

環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、

の社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。

(略)

(意見対応 (3 月) (本文) -83、84 ページ)

(新旧対照表)

現代システム科学域設置の趣旨等を記載した書類
新欄

(略)

[環境社会システム学類]

環境社会システム学類においては、大気・海洋循環、水・食糧・エネルギー、生態系、都市環境などの自然システムに関する課題、ガバナンス、異・多文化共生などの社会システムに関する課題、哲学・倫理、自・異文化理解などの人間システムに関する課題に焦点を当て、自然科学、人文・社会科学、人間科学を基盤学問分野として、自然システムの持続可能性を理解するために必要となる地球環境学、生態学、

環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解することで領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。 (略)	環境計画学、食糧生産学などの自然環境学、社会システムそのものの成り立ちや変化を理解するために必要となる歴史学、言語学、文化人類学、地理学、社会学などの社会環境学、環境と調和した社会システムを構築するために必要となる経済学、経営学、法学、政策学、環境哲学・倫理学などの環境共生学の観点から、自然システムの持続可能性を理解領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することとしている。 (略)
---	--

文学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【文学部】

(新旧対照表) 文学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —25 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 イ 教育課程の概要及び特色 (略) また、4年次には、「哲学歴史学研究演習 1」「哲学歴史学研究演習 2」、「人間行動学研究演習 1」「人間行動学研究演習 2」、「言語文化学研究演習 1」「言語文化学研究演習 2」、「文化構想学研究演習 1」「文化構想学研究演習 2」といった、それぞれの学科に対応した研究演習科目を必修科目とし、4年間の研究を集大成させて、文学部が重視している卒	(設置趣旨 (本文) —25 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 イ 教育課程の概要及び特色 (略) また、4年次には、「哲学歴史学研究演習 1」「哲学歴史学研究演習 2」、「人間行動学兼研究演習 1」「人間行動学研究演習 2」、「言語文化学研究演習 1」「言語文化学研究演習 2」、「文化構想学研究演習 1」「文化構想学研究演習 2」といった、それぞれの学科に対応した研究演習科目を必修科目とし、4年間の研究を集大成させて、文学部が重視してい

業論文の研究につなげる。	る卒業論文の研究につなげる。
(設置趣旨 (本文) —27 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 ア 教員組織編成の考え方 (略) コース担当の教員は、それぞれ教室会議を構成し、内規に基づいて原則として1月に1回会議を開催し、コースの教務事項や学生事項に関わる審議を行い、議事録を残すこととする。	(設置趣旨 (本文) —27 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 ア 教員組織編成の考え方 (略) コース担当の教員は、それぞれ教室会議を構成し、内規に基づいて<u>原則して</u>1月に1回会議を開催し、コースの教務事項や学生事項に関わる審議を行い、議事録を残すこととする。
(設置趣旨 (本文) —38 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 イ 履修指導方法 (略) 加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「インターカルチュラルスタディーズA」「インターカルチュラルスタディーズB」「フランス語コミュニケーション3」「フランス語コミュニケーション4」を履修することが望ましい。	(設置趣旨 (本文) —39 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 イ 履修指導方法 (略) 加えて、3年次または4年次に、自由選択科目の「<u>ヨーロッパ言語文化特講</u>」「インターカルチュラルスタディーズA」「インターカルチュラルスタディーズB」「<u>フ</u>」「フランス語コミュニケーション3」「フランス語コミュニケーション4」を履修することが望ましい。
(設置趣旨 (本文) —45、46、47 ページ) 8 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) 【一般選抜 (前期日程)】 2月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力<u>検査</u>を実施し、調査書等も評価対象とするが、<u>2</u>種類の試験で学力の<u>3</u>要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。 (略)	(設置趣旨 (本文) —46、47 ページ) 8 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) 【一般選抜 (前期日程)】 2月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力<u>試験</u>を実施し、調査書等も評価対象とするが、<u>二</u>種類の試験で学力の<u>三</u>要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。 (略)

【一般選抜（後期日程）】

3月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力検査を実施し、調査書等も評価対象とするが、2種類の試験で学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【国際バカロレア特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【帰国生徒特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文・外国語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・外国語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【私費外国人留学生特別選抜】

2月に実施する本選抜では、日本留学試験、個別学力検査（外国語・国語・作文）、口述試験と出願者調査書等の出願書類を評価対象とする。日本留学試験と個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価するが、そのうち日本留学試験では日本語能力と基礎学力を評価する。

【一般選抜（後期日程）】

3月に実施する本選抜では、大学入学共通テストと個別学力試験を実施し、調査書等も評価対象とするが、二種類の試験で学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【国際バカロレア特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文試験では、学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【帰国生徒特別選抜】

11月に実施する本選抜では、小論文・外国語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・外国語試験では、学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。

（略）

【私費外国人留学生特別選抜】

2月に実施する本選抜では、日本留学試験、筆答試験（外国語・国語・作文）、口述試験と出願者調査書等の出願書類を評価対象とする。日本留学試験と筆答試験では、学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価するが、そのうち日本留学試験では日本語能力と基礎学力を評価する。

(略) 【編入学・学士入学（3年次）選抜】 11月に実施する編入学・学士入学（3年次）選抜では、小論文・英語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。 (略) 【外国人留学生学士入学（3年次）選抜】 11月に実施する外国人留学生学士入学（3年次）選抜では、小論文・外国語（日本語）試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の3要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。	(略) 【編入学・学士入学（3年次）選抜】 11月に実施する編入学・学士入学（3年次）選抜では、小論文・英語試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。 (略) 【外国人留学生学士入学（3年次）選抜】 11月に実施する外国人留学生学士入学（3年次）選抜では、小論文・外国語（日本語）試験及び口述試験を実施し、成績証明書等の出願書類も評価対象とする。小論文・英語試験では、学力の三要素のうち知識・技能と思考力・判断力・表現力を評価する。
(設置趣旨（本文）—58、59 ページ) 18 管理運営 (略) さらに「大阪公立大学大学院学則」にしたがい、文学研究科に文学研究科教授会を設置する。文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規程」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。 (略) (3) 基幹教育科目との連携に関すること	(設置趣旨（本文）—58、59 ページ) 18 管理運営 (略) さらに「大阪公立大学大学院学則」にしがたい、文学研究科に文学研究科教授会を設置する。文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規定」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。 (略) (3) 全学共通科目との連携に関すること
(設置趣旨（資料）—23 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル	(設置趣旨（資料）—25 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（標準））

1 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
国文学史 A	2
国文学史 B	2

1 年次 自由選択科目

科目名	単位
(削除)	(削除)
(削除)	(削除)

2 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
フランス語圏言語文化論	2
英語学概論 A	2
国文学史 C	2
国文学史 D	2

2 年次 自由選択科目

科目名	単位
(削除)	(削除)
(削除)	(削除)
(略)	(略)

3 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
英米文学史 A	2
フランス語圏文化論	2
フランス語学概論	2

3 年次 自由選択科目

科目名	単位
(削除)	(削除)
(削除)	(削除)
(略)	(略)

履修モデル（言語文化学科 ドイツ語フランス語圏言語文化コース（ドイツ語標準））

1 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)

1 年次 自由選択科目

科目名	単位
国文学史 A	2
国文学史 B	2

2 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)

2 年次 自由選択科目

科目名	単位
国文学史 C	2
国文学史 D	2
(略)	(略)

3 年次 選択必修科目

科目名	単位
(略)	(略)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)
(追記)	(追記)

3 年次 自由選択科目

科目名	単位
フランス語圏文化論	2
フランス語学概論	2
(略)	(略)

ヨーロッパ言語文化特講	2	(追記)	(追記)
4 年次 基幹教育科目		4 年次 基幹教育科目	
科目名	単位	科目名	単位
(削除)	(削除)	ドイツ語特修 G	1
(削除)	(削除)	ドイツ語特修 H	1
4 年次 選択必修科目		4 年次 選択必修科目	
科目名	単位	科目名	単位
(削除)	(削除)	フランス語圏文化論	2
4 年次 自由選択科目		4 年次 自由選択科目	
科目名	単位	科目名	単位
(削除)	(削除)	ヨーロッパ言語文化特講	2
基幹教育科目 小計 単位		基幹教育科目 小計 単位	
4 年次 0 単位合計 43		4 年次 2 単位合計 45	
専門科目 小計 単位		専門科目 小計 単位	
2 年次 32 3 年次 32 4 年次 14 単位合計 92		2 年次 28 3 年次 28 4 年次 18 単位合計 88	
合計 単位		合計 単位	
2 年次 42 3 年次 34 4 年次 14 単位合計 135		2 年次 38 3 年次 30 4 年次 20 単位合計 133	
(設置趣旨 (資料) —25 ページ)		(設置趣旨 (資料) —26 ページ)	
資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル履修モデル (言語文化学科 <u>ドイツ語圏言語文化コース</u> (学芸員取得))		資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル履修モデル (言語文化学科 <u>ドイツ語フランス語圏言語文化コース</u> (ドイツ語学芸員取得))	
2 年次 自由選択科目		2 年次 自由選択科目	
科目名	単位	科目名	単位
(略)	(略)	(略)	(略)
ラテン語 1	2	(追記)	(追記)
ラテン語 2	2	(追記)	(追記)
4 年次 基幹教育科目		4 年次 基幹教育科目	
科目名	単位	科目名	単位
(削除)	(削除)	ドイツ語特修 E	1

(削除)		(削除)		ドイツ語特修 F		1	
基幹教育科目 小計 単位 4 年次 0 単位合計 43				基幹教育科目 小計 単位 4 年次 2 単位合計 45			
専門科目 小計 単位 2 年次 32 単位合計 93				専門科目 小計 単位 2 年次 28 単位合計 89			
合計 単位 2 年次 42 4 年次 17 単位合計 136				合計 単位 2 年次 38 4 年次 19 単位合計 134			
(設置趣旨 (資料) —26 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 フランス語圏言語文化コース (標準)) 3 年次 自由選択科目				(設置趣旨 (資料) —23 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 ドイツ語フランス語圏言語文化コース (フランス語標準)) 3 年次 自由選択科目			
科目名		単位		科目名		単位	
(略)		(略)		(略)		(略)	
西洋史講読 C		2		(追記)		(追記)	
専門科目 小計 単位 3 年次 26 単位合計 92				専門科目 小計 単位 3 年次 24 単位合計 90			
合計 単位 3 年次 26 単位合計 133				合計 単位 3 年次 24 単位合計 131			
(設置趣旨 (資料) —27 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 フランス語圏言語文化コース (中・高 フランス語免許取得)) 2 年次 自由科目				(設置趣旨 (資料) —24 ページ) 資料 2-3 文学部言語文化学科の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 ドイツ語フランス語圏言語文化コース (中・高 英語・仏語免許取得)) 2 年次 自由科目			
科目名		単位		科目名		単位	
(略)		(略)		(略)		(略)	
(削除)		(削除)		外国語科教育法 (英語) 1A		2	
(削除)		(削除)		外国語科教育法 (英語) 1B		2	
(略)		(略)		(略)		(略)	
3 年次 自由科目				3 年次 自由科目			
科目名		単位		科目名		単位	

(略) (削除) (削除) (略) (削除) (削除)	(略) (略) (略) (略) (略) (略)																																
専門科目 小計 単位 2 年次 52 3 年次 32 単位合計 133 合計 単位 2 年次 60 3 年次 32 単位合計 172	専門科目 小計 単位 2 年次 56 3 年次 36 単位合計 141 合計 単位 2 年次 64 3 年次 36 単位合計 180																																
(設置趣旨 (資料) —89 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース (編入)) 編入学時 自由選択科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table>	科目名	単位	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(略)	(略)	(設置趣旨 (資料) —89 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 ドイツ語フランス語圏言語文化コース (ドイツ語編入)) 編入学時 自由選択科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>(編入学個別認定) 国文学史 C</td><td>2</td></tr> <tr><td>(編入学個別認定) 国文学史 D</td><td>2</td></tr> <tr><td>(編入学個別認定) 国文学史 A</td><td>2</td></tr> <tr><td>(編入学個別認定) 国文学史 B</td><td>2</td></tr> <tr><td>(略)</td><td>(略)</td></tr> </table>	科目名	単位	(編入学個別認定) 国文学史 C	2	(編入学個別認定) 国文学史 D	2	(編入学個別認定) 国文学史 A	2	(編入学個別認定) 国文学史 B	2	(略)	(略)								
科目名	単位																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
(略)	(略)																																
科目名	単位																																
(編入学個別認定) 国文学史 C	2																																
(編入学個別認定) 国文学史 D	2																																
(編入学個別認定) 国文学史 A	2																																
(編入学個別認定) 国文学史 B	2																																
(略)	(略)																																
3 年次 基幹教育科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr><td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> </table>	科目名	単位	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	3 年次 基幹教育科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ドイツ語圏特修 A</td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語圏特修 B</td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語圏特修 E</td><td>1</td></tr> <tr><td>ドイツ語圏特修 F</td><td>1</td></tr> </table>	科目名	単位	ドイツ語圏特修 A	1	ドイツ語圏特修 B	1	ドイツ語圏特修 E	1	ドイツ語圏特修 F	1												
科目名	単位																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
(削除)	(削除)																																
科目名	単位																																
ドイツ語圏特修 A	1																																
ドイツ語圏特修 B	1																																
ドイツ語圏特修 E	1																																
ドイツ語圏特修 F	1																																
3 年次 選択必修科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr><td>ドイツ語圏言語文化論</td><td>2</td></tr> <tr><td>国文学史 A</td><td>2</td></tr> <tr><td>国文学史 B</td><td>2</td></tr> <tr><td>フランス語圏文学史</td><td>2</td></tr> <tr><td>フランス語圏文化論</td><td>2</td></tr> <tr><td>フランス語学概論</td><td>2</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	ドイツ語圏言語文化論	2	国文学史 A	2	国文学史 B	2	フランス語圏文学史	2	フランス語圏文化論	2	フランス語学概論	2	3 年次 選択必修科目 <table> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr><td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr><td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
ドイツ語圏言語文化論	2																																
国文学史 A	2																																
国文学史 B	2																																
フランス語圏文学史	2																																
フランス語圏文化論	2																																
フランス語学概論	2																																
科目名	単位																																
(略)	(略)																																
(追記)	(追記)																																
(追記)	(追記)																																
(追記)	(追記)																																
(追記)	(追記)																																
(追記)	(追記)																																
(追記)	(追記)																																

3 年次 自由選択科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>哲学概論 1</td><td>2</td></tr> <tr> <td>美学概論 1</td><td>2</td></tr> </table> 4 年次 基幹教育科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> </table> 4 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>国文学史 C</td><td>2</td></tr> <tr> <td>国文学史 D</td><td>2</td></tr> </table> 基幹教育科目 小計 単位 3 年次 0 4 年次 0 単位合計 0 専門科目 小計 単位 編入学時 22 3 年次 42 4 年次 28 単位合計 92 合計 単位 編入学時 22 3 年次 42 4 年次 28 単位合計 92	科目名	単位	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(略)	(略)	哲学概論 1	2	美学概論 1	2	科目名	単位	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	科目名	単位	(略)	(略)	国文学史 C	2	国文学史 D	2	3 年次 自由選択科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>フランス語圏文化論</td><td>2</td></tr> <tr> <td>フランス語学概論</td><td>2</td></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> </table> 4 年次 基幹教育科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>ドイツ語圏特修 G</td><td>1</td></tr> <tr> <td>ドイツ語圏特修 H</td><td>1</td></tr> </table> 4 年次 選択必修科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> </table> 基幹教育科目 小計 単位 3 年次 4 4 年次 2 単位合計 6 専門科目 小計 単位 編入学時 30 3 年次 30 4 年次 24 単位合計 84 合計 単位 編入学時 30 3 年次 34 4 年次 26 単位合計 90	科目名	単位	フランス語圏文化論	2	フランス語学概論	2	(略)	(略)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)	科目名	単位	ドイツ語圏特修 G	1	ドイツ語圏特修 H	1	科目名	単位	(略)	(略)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)
科目名	単位																																																				
(削除)	(削除)																																																				
(削除)	(削除)																																																				
(略)	(略)																																																				
哲学概論 1	2																																																				
美学概論 1	2																																																				
科目名	単位																																																				
(削除)	(削除)																																																				
(削除)	(削除)																																																				
科目名	単位																																																				
(略)	(略)																																																				
国文学史 C	2																																																				
国文学史 D	2																																																				
科目名	単位																																																				
フランス語圏文化論	2																																																				
フランス語学概論	2																																																				
(略)	(略)																																																				
(追記)	(追記)																																																				
(追記)	(追記)																																																				
科目名	単位																																																				
ドイツ語圏特修 G	1																																																				
ドイツ語圏特修 H	1																																																				
科目名	単位																																																				
(略)	(略)																																																				
(追記)	(追記)																																																				
(追記)	(追記)																																																				
(設置趣旨 (資料) —90 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 フランス語圏言語文化コース (編入)) 3 年次 基幹教育科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> <tr> <td>(削除)</td><td>(削除)</td></tr> </table>	科目名	単位	(削除)	(削除)	(削除)	(削除)	(設置趣旨 (資料) —88 ページ) 資料 4-3 文学部言語文化学科の編入学後の履修モデル 履修モデル (言語文化学科 ドイツ語フランス語圏言語文化コース (フランス語編入)) 3 年次 基幹教育科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>フランス語特修 A</td><td>1</td></tr> <tr> <td>フランス語特修 H</td><td>1</td></tr> </table>	科目名	単位	フランス語特修 A	1	フランス語特修 H	1																																								
科目名	単位																																																				
(削除)	(削除)																																																				
(削除)	(削除)																																																				
科目名	単位																																																				
フランス語特修 A	1																																																				
フランス語特修 H	1																																																				

3 年次 自由選択科目	3 年次 自由選択科目																
<table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>ヨーロッパ言語文化特講</td><td>2</td></tr> <tr> <td>表現文化特論</td><td>2</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	ヨーロッパ言語文化特講	2	表現文化特論	2	<table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> <tr> <td>(追記)</td><td>(追記)</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	(追記)	(追記)	(追記)	(追記)
科目名	単位																
(略)	(略)																
ヨーロッパ言語文化特講	2																
表現文化特論	2																
科目名	単位																
(略)	(略)																
(追記)	(追記)																
(追記)	(追記)																
基幹教育科目 小計 単位 3 年次 0 単位合計 0	基幹教育科目 小計 単位 3 年次 2 単位合計 2																
専門科目 小計 単位 3 年次 40 単位合計 94	専門科目 小計 単位 3 年次 36 単位合計 90																
合計 単位 3 年次 40 単位合計 94	合計 単位 3 年次 38 単位合計 92																

【人間行動学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2 ページ) 専門科目 自由選択科目 心理学 発達心理学特論 備考 (削除)	((再補正前) 教員氏名－2 ページ) 専門科目 自由選択科目 心理学 発達心理学特論 備考 隔年

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－1 ページ) 調書番号 6 佐伯 大輔 担当授業科目の名称 (略) 発達心理学特論	((再補正前) 教員氏名－1 ページ) 調書番号 6 佐伯 大輔 担当授業科目の名称 (略) 発達心理学特論【隔年】

経済学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【経済学部】

(新旧対照表) 経済学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -13 ページ) (1) 特別選抜: 学校推薦型選抜 (略) この選抜方法における大学入学共通テストの配点は、次のとおりである: 英語重点型 国語 200+外国語 300+数学 200+地歴・公民 (1 科目) 100=800 点満点 数学重点型 国語 200+外国語 200+数学 300+地歴・公民 (1 科目) 100=800 点満点	(設置趣旨 (本文) -13 ページ) (1) 特別選抜: 学校推薦型選抜 (略) この選抜方法における大学入学共通テストの配点は、次のとおりである: 英語重点型 国語 200+外国語 300+数学 200+地歴・公民 (1 科目) <u>200=900</u> 点満点 数学重点型 国語 200+外国語 200+数学 300+地歴・公民 (1 科目) <u>200=900</u> 点満点

【経済学科】

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員名簿-2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 博士 (経済学)	((再補正前) 教員名簿-2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 <u>経済学博士</u>

商学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【商学部】

(新旧対照表) 商学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
設置趣旨 (本文) -19、20 ページ 【学校推薦型選抜(商業科等対象)】 大学入学共通テストによって高等学校教育段階においてめざす知識・技能を確認し、口述試験と調査書、出身学校長の推薦書、 自己推薦書 に	設置趣旨 (本文) -19、20 ページ 【学校推薦型選抜(商業系推薦)】 大学入学共通テストによって高等学校教育段階においてめざす知識・技能を確認し、口述試験と調査書、出身学校長の推薦書によって学ぶ意

よって学ぶ意欲と商学部での学修に十分に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を確認して、総合的に評価をおこなう(募集人員 8 名)。 【学校推薦型選抜】 略	欲と商学部での学修に十分に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を確認して、総合的に評価をおこなう(募集人員 8 名)。 【学校推薦型選抜(<u>一般推薦</u>)】 略
---	--

理学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【理学部】

(新旧対照表) 理学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨(資料) —2、3、4、5 ページ) 資料 1 履修モデル (数学科) 確率統計 <u>2 年次</u>	(設置趣旨(資料) —2、3、4、5 ページ) 資料 1 履修モデル (数学科) 確率統計 <u>1 年次</u>
(設置趣旨(資料) —10 ページ、11 ページ) 資料 1 履修モデル (生物学科) 入門化学 <u>2 年次</u>	(設置趣旨(資料) —10 ページ、11 ページ) 資料 1 履修モデル (生物学科) 入門化学 <u>1 年次</u>
(設置趣旨(資料) —46 ページ) 資料 3 理学部 新キャンパス整備に伴う校地(教育実施場所)遷移について (2025 年度) ※2 生物化学科のみ、2 年後期の一部は<u>中百舌鳥</u>(週 2 日) (2026 年度) ※3 生物化学科のみ、2 年後期の一部は<u>杉本</u>(週 2 日) ※4 改修学舎(2 期)に生物化学科の学生実	(設置趣旨(資料) —46 ページ) 資料3 理学部 新キャンパス整備に伴う校地(教育実施場所)遷移について (2025 年度) 注釈追加 (2026 年度) ※2 生物化学科のみ、2 年後期の一部は<u>中百舌鳥</u>(週 2 日) ※3 改修学舎(2 期)に生物化学科の学生実験

験室を整備	室を整備
-------	------

【数学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： 1 前・後 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 1 前・後 単位数： 選択 2 単位

【物理学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前・後 単位数： 選択 2 単位

授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位

【化学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、3 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－1、3 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位

【生物学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次：	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次：

<u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 必修 2 単位	<u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 必修 2 単位
--	--

【地球学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次：	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： 生物学 A 配当年次：

2 前・後 単位数： 選択 2 単位	<u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
--	--

【生物化学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： 入門化学 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 入門化学 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位
授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位	授業科目の名称： 生物学 A 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位

工学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【工学部】

(新旧対照表) 工学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
---	---

(設置趣旨 (本文) —128 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 マテリアル工学科 ア 教育方法等 (略) 「微積分 1B、2」・「線形代数 1、2B」	(設置趣旨 (本文) —128 ページ) 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 マテリアル工学科 ア 教育方法等 (略) 「微積分 1A、1B」・「線形代数 2A、2B」
(設置趣旨 (本文) —145 ページ) 8 入学者選抜の方法 海洋システム工学科 イ 入学者選抜の方法と体制 ○一般選抜 (略) 前期日程では総合的な学力を重視し、中期日程では専門性を重視し理系科目を重点的に評価する。 ○総合型選抜 募集定員は4名とする。海洋システム工学科に必要な素質を有していること、工学の学修・研究に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有していることを、適性検査、志願理由書、調査書、自己アピール書、英検の合格証明書、口述試験、面接におけるグループワーク、個別面接によって測り、これらを総合的に評価する。	(設置趣旨 (本文) —145 ページ) 8 入学者選抜の方法 海洋システム工学科 イ 入学者選抜の方法と体制 ○一般選抜 (略) 前期日程入試では、総合的な学力を重視し、中期日程では専門性を重視し理系科目を重点的に評価する。 ○総合型選抜 募集定員は4名とする。海洋システム工学科に必要な素質を有していること、工学の学修・研究に必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有していることを、適正検査、志願理由書、調査書、自己アピール書、英検の合格証明書、口述試験、面接におけるグループワーク、個別面接によって測り、これらを総合的に評価する。
(設置趣旨 (本文) —166 ページ) 9 取得可能な資格 毒物劇物取扱責任者 応用化学科、化学工学科、化学バイオ工学科	(設置趣旨 (本文) —166 ページ) 9 取得可能な資格 毒物劇物取扱責任者 応用化学科、化学工学科
(設置趣旨 (資料) —2 ページ) 添付資料 資料1 履修モデル	(設置趣旨 (資料) —2 ページ) 添付資料 資料1 履修モデル

(航空宇宙工学科) 確率統計 <u>2 年次</u> ※開講年次変更による小計の修正 (設置趣旨 (資料) —34 ページ) (マテリアル工学科) <u>微積分 2</u> <u>線形代数 1</u> (設置趣旨 (資料) —101 ページ) 添付資料 資料 3 編入学履修モデル (マテリアル工学科) <u>微積分 2</u> <u>線形代数 1</u> (設置趣旨 (資料) —104 ページ) 添付資料 資料 5 カリキュラム・マップ 航空宇宙工学科 確率統計 <u>2 年次前期・後期</u> (設置趣旨 (資料) —115 ページ) マテリアル工学科 <u>微積分 2</u> <u>1 年次後期</u> <u>線形代数 1</u> <u>1 年次前期</u> 微積分 1B <u>1 年次前期</u> 線形代数 2B <u>1 年次後期</u>	(航空宇宙工学科) 確率統計 <u>1 年次</u> (設置趣旨 (資料) —34 ページ) (マテリアル工学科) <u>微積分 1A</u> <u>線形代数 2A</u> (設置趣旨 (資料) —101 ページ) 添付資料 資料 3 編入学履修モデル (マテリアル工学科) <u>微積分 1A</u> <u>線形代数 2A</u> (設置趣旨 (資料) —104 ページ) 添付資料 資料 5 カリキュラム・マップ 航空宇宙工学科 確率統計 <u>1 年次前期・後期</u> (設置趣旨 (資料) —115 ページ) マテリアル工学科 <u>微積分 1A</u> <u>1 年次前期</u> <u>線形代数 2A</u> <u>1 年次後期</u> 微積分 1B <u>1 年次後期</u> 線形代数 2B <u>1 年次前期</u>
--	---

【航空宇宙工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—1、4、5、6 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>2 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位 ※開講キャンパスを森之宮キャンパスから 中百舌鳥キャンパスに変更することから、小	((再補正前) 教育課程—1、4、5、6 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： <u>1 前・後</u> 単位数： 選択 2 単位

計欄、合計欄を修正	
-----------	--

【建築学科】

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－2 ページ) 調書番号 31 高市 俊史 担当授業科目の名称： 造形実習 1 配当年次： 1 前 担当授業科目の名称： 造形実習 2 配当年次： 1 後 就任（予定）年月： 令和 4 年 4 月	((補正前) 教員氏名－2 ページ) 調書番号 31 高市 俊史 担当授業科目の名称： 造形実習 1 配当年次： 1 後 担当授業科目の名称： 造形実習 2 配当年次： 2 前 就任（予定）年月： 令和 4 年 9 月

【都市学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4、6、7 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 2 前・後 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： 2 前・後 単位数：	((再補正前) 教育課程－1、4、6、7 ページ) 授業科目の名称： 確率統計 配当年次： 1 前 単位数： 選択 2 単位 授業科目の名称： データベースと情報検索 配当年次： 1 前 単位数：

選択 2 単位 ※開講キャンパスを森之宮キャンパスから杉本キャンパスに変更することから、小計欄、合計欄を修正	選択 2 単位
---	---------

【電子物理工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－3、5、7 ページ) 卒業要件及び履修方法 【履修方法】 (略) 2. 専門科目 (略) ・電子材料コース選択者 電子材料コース科目 必修 14 単位 その他 学部共通科目、学科共通科目、電子材料コース科目の選択科目から 32 単位以上	((再補正前) 教育課程－3、5、7 ページ) 卒業要件及び履修方法 【履修方法】 (略) 2. 専門科目 (略) ・電子材料コース選択者 電子材料コース科目 必修 14 単位 その他 学部共通科目、学科共通科目、電子物性コース科目の選択科目から 32 単位以上

【化学工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称： バイオテクノロジー概論 配当年次： 4 前 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称： バイオテクノロジー概論 配当年次： <u>4 後</u> 単位数： 選択 2 単位

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－3 ページ) 調書番号 26 立花 太郎 担当授業科目の名称：	((再補正前) 教員氏名－3 ページ) 調書番号 26 立花 太郎 担当授業科目の名称：

バイオテクノロジー概論 配当年次： 4 前	バイオテクノロジー概論 配当年次： 4 後
-----------------------------	-----------------------------

【マテリアル工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 微積分 2 配当年次： 1 後 単位数： 必修 2 単位 備考： 兼 33	((再補正前) 教育課程－1、4 ページ) 授業科目の名称： 微積分 1A 配当年次： 1 前 単位数： 必修 2 単位 備考： 兼 26
授業科目の名称： 線形代数 1 配当年次： 1 前 単位数： 必修 2 単位 備考： 兼 30	授業科目の名称： 線形代数 2A 配当年次： 1 後 単位数： 必修 2 単位 備考： 兼 28
授業科目の名称： 微積分 1B 配当年次： 1 前 単位数： 必修 4 単位	授業科目の名称： 微積分 1B 配当年次： 1 後 単位数： 必修 4 単位
授業科目の名称： 線形代数 2B 配当年次： 1 後	授業科目の名称： 線形代数 2B 配当年次： 1 前

単位数： 必修 4 単位 ((再補正後) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称： 高分子材料工学 配当年次： 3 後 単位数： 選択 2 単位 ※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程－1、2 ページ) 基礎教育科目 小計 備考：兼 139 専門科目 小計 備考：兼 32 合計 (79 科目) 備考：兼 169 <森之宮キャンパス> ((再補正後) 教育課程－4 ページ) 基礎教育科目 小計 備考：兼 89 合計 (13 科目) 備考：兼 95	単位数： 必修 4 単位 ((再補正前) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称： 高分子材料工学 配当年次： 3 前 単位数： 選択 2 単位 ※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程－1、2 ページ) 基礎教育科目 小計 備考：兼 137 専門科目 小計 備考：兼 30 合計 (79 科目) 備考：兼 167 <森之宮キャンパス> ((再補正前) 教育課程－4 ページ) 基礎教育科目 小計 備考：兼 81 合計 (13 科目) 備考：兼 87
--	--

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－2 ページ) 調書番号 27 堀邊 英夫 担当授業科目の名称： 高分子材料工学 配当年次： 3 後	((再補正前) 教員氏名－2 ページ) 調書番号 27 堀邊 英夫 担当授業科目の名称： 高分子材料工学 配当年次： 3 前

【化学バイオ工学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2、8 ページ) 授業科目の名称： 環境化学 配当年次： 4 前 単位数： 選択 2 単位	((再補正前) 教育課程－2、8 ページ) 授業科目の名称： 環境化学 配当年次： 4 後 単位数： 選択 2 単位

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－3 ページ) 調書番号 35 定永 靖宗 担当授業科目の名称： 環境化学 配当年次： 4 前	((再補正前) 教員氏名－3 ページ) 調書番号 35 定永 靖宗 担当授業科目の名称： 環境化学 配当年次： 4 後

農学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【農学部】

(新旧対照表) 農学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) －47 ページ) 9 取得可能な資格 (3) 緑地環境科学科 (資格を分割して記載) 1・2 級土木施工管理技士	(設置趣旨 (本文) －47 ページ) 9 取得可能な資格 (3) 緑地環境科学科 1・2 級土木・造園等施工管理技士

1・2級造園施工管理技士 (資格を追加) 登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 補	
--	--

【緑地環境科学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2 ページ) 【全体】 学科専門科目 「植物病理学」 単位数 選択 2 単位 小計 60 単位 合計 79 単位 ((再補正後) 教育課程－7 ページ) 【中百舌鳥キャンパス】 学科専門科目 「植物病理学」 単位数 選択 2 単位 小計 60 単位 合計 60 単位	((再補正前) 教育課程－2 ページ) 【全体】 学科専門科目 「植物病理学」 単位数 選択 <u>1</u> 単位 小計 <u>59</u> 単位 合計 <u>78</u> 単位 ((再補正前) 教育課程－7 ページ) 【中百舌鳥キャンパス】 学科専門科目 「植物病理学」 単位数 選択 <u>1</u> 単位 小計 <u>59</u> 単位 合計 <u>59</u> 単位

医学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【医学部】

(新旧対照表) 医学部 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —35、36 ページ) 8 入学者選抜の概要 ア アドミッション・ポリシー 医学科 (略)	(設置趣旨 (本文) —35、36 ページ) 8 入学者選抜の概要 ア アドミッション・ポリシー 医学科 (略)

・仁は人への博愛の心を意味し、人を包み込む<u>広い心を有している人</u> (略) <u>リハビリテーション学科</u> 人が<u>地域社会において</u>健康で文化的な生活を営むためには、身体的、精神的、社会的に良好な状態で生活できることが大切である。 (略) リハビリテーション学科では、理学療法士、<u>作業療法士として</u>、人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的でかつ協働的な実践力を身に付け、地域社会及び国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成する。 (設置趣旨 (本文) —50 ページ) 10 実習の具体的計画 (略) (2) 損害賠償責任保険、傷害保険等の対策等 (略) 守秘義務の徹底と個人情報保護対策 臨床実習の手引きに情報の守秘義務と個人情報保護については「資料9 大阪公立大学医学部リハビリテーション学科臨床実習における個人情報保護に関する指針」に記載するとともに、SNS にて実習施設または実習で知りえた個人を特定できる情報を扱わないことを、臨床実習オリエンテーション、臨床実習指導者会議の際に学生、教員、臨床実習指導者等に周知徹底を図る。	・仁は人への博愛の心を意味し、人を包み込む<u>広い心有する人</u> (略) <u>リハビリテーション学科</u> 人は<u>地域社会において</u>、健康で文化的な生活を営むためには、身体的、精神的、社会的に良好な状態で生活できることが大切である。 (略) リハビリテーション学科では、理学療法士、<u>作業療法士として</u>人と社会に対する包括的視野と、人を支援する専門的でかつ協働的な実践力を身に付け、地域社会及び国際社会において人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成する。 (設置趣旨 (本文) —50 ページ) 10 実習の具体的計画 (略) (2) 損害賠償責任保険、傷害保険等の対策等 (略) 守秘義務の徹底と個人情報保護対策 臨床実習の手引きに情報の守秘義務と個人情報保護については「資料9 大阪公立大学医学部リハビリテーション学科臨床実習における個人情報保護に関する指針」に記載するとともに、SNS にて実習施設または実習で知りえた個人を特定できる情報を扱わないことを、臨床実習オリエンテーション、臨床実習<u>次週</u>指導者会議の際に学生、教員、臨床実習指導者等に周知徹底を図る。
---	---

看護学部

(対応)

教員の退職に伴い、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【看護学部】

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —21 ページ) 5. 教員組織の編成の考え方及び特色 ア. 教員組織編成の考え方 (略) 各科目の特色に応じて、完成年次においては実践看護科学領域に 44 名、先進ケア科学領域に 21 名の総計 65 名 (完成年度の 2025 年度時点の教員数) の専任教員を配置する。 (略) イ. 教員組織編成の特色 (略) なお、専任教員の博士の学位を有する者については、教授は 26 名中 23 名 (延べ数)、准教授は 20 名中 16 名 (延べ数)、講師は 18 名中 4 名 (延べ数) の計 43 名 (延べ数) である。 (略) (設置趣旨 (本文) —22 ページ) ウ. 専任教員の年齢構成 (略) その一方、完成年度においては 60 歳以上の専任教員の割合が約 32% (21 名) を占めるため、開学後、看護学部の教育研究水準の継続性と将来構想を視野に入れた上で、若手人材の確保ならびに実績の優れた者の昇任人事など戦略的な人材育成・確保計画を検討する。 表 完成年度における教員の年齢構成	(設置趣旨 (本文) —21 ページ) 5. 教員組織の編成の考え方及び特色 ア. 教員組織編成の考え方 (略) 各科目の特色に応じて、完成年次においては実践看護科学領域に <u>45</u> 名、先進ケア科学領域に <u>21</u> 名の総計 <u>66</u> 名 (完成年度の 2025 年度時点の教員数) の専任教員を配置する。 (略) イ. 教員組織編成の特色 (略) なお、専任教員の博士の学位を有する者については、教授は 26 名中 23 名 (延べ数)、准教授は <u>22</u> 名中 <u>18</u> 名 (延べ数)、講師は 18 名中 4 名 (延べ数) の計 <u>45</u> 名 (延べ数) である。 (略) (設置趣旨 (本文) —22 ページ) ウ. 専任教員の年齢構成 (略) その一方、完成年度においては 60 歳以上の専任教員の割合が約 <u>31</u>% (21 名) を占めるため、開学後、看護学部の教育研究水準の継続性と将来構想を視野に入れた上で、若手人材の確保ならびに実績の優れた者の昇任人事など戦略的な人材育成・確保計画を検討する。 表 完成年度における教員の年齢構成

50～59 歳 准教授 12 准教授 計 20 50～59 歳 計 25 合計 65 (設置趣旨 (本文) —40 ページ) 1 4.2 以上の校地において教育研究を行う 場合の具体的計画 (略) 2022 年度～2024 年度については、羽曳野キ ャンパスには 44 名 (ただし、2022 年度は 45 名)、阿倍野キャンパスには 21 名の専任 教員を配置し専門教育を実施する。 (略)	50～59 歳 准教授 <u>13</u> 准教授 計 <u>21</u> 50～59 歳 計 <u>26</u> 合計 <u>66</u> (設置趣旨 (本文) —40 ページ) 1 4.2 以上の校地において教育研究を行う 場合の具体的計画 (略) 2022 年度～2024 年度については、羽曳野キ ャンパスには <u>45</u> 名 (ただし、2022 年度は <u>46</u> 名)、阿倍野キャンパスには <u>22</u> 名の専任 教員を配置し専門教育を実施する。 (略)
--	--

【看護学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2、8 ページ) 授業科目の名称 ヘルスアセスメントとシミュレーション 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 2 授業科目の名称 急性看護学支援論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 1	((再補正前) 教育課程－2、8 ページ) 授業科目の名称 ヘルスアセスメントとシミュレーション 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>3</u> 授業科目の名称 急性看護学支援論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>2</u>

授業科目の名称 急性看護学支援論演習 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>1</u>	授業科目の名称 急性看護学支援論演習 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>2</u>
授業科目の名称 急性看護学実習 配当年次 3 後～4 前 単位数 選択 3 単位 准教授 <u>1</u>	授業科目の名称 急性看護学実習 配当年次 3 後～4 前 単位数 選択 3 単位 准教授 <u>2</u>
((再補正後) 教育課程－3、9 ページ) 授業科目の名称 総合研究 1 配当年次 4 前 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>13</u>	((再補正前) 教育課程－3、9 ページ) 授業科目の名称 総合研究 1 配当年次 4 前 単位数 選択 1 単位 准教授 <u>14</u>
授業科目の名称 総合研究 2 配当年次 4 後 単位数 選択 2 単位 准教授 <u>13</u>	授業科目の名称 総合研究 2 配当年次 4 後 単位数 選択 2 単位 准教授 <u>14</u>
授業科目の名称	授業科目の名称

総合実習 配当年次 4 前 単位数 選択 2 単位 准教授 13 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 13 ((再補正後) 教育課程－5、11 ページ) 授業科目の名称 チーム医療 A 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 20 備考 共同 (削除) 授業科目の名称 チーム医療 B 配当年次 4 後 単位数 選択 1 単位 准教授 20 授業科目の名称 看護管理学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位	総合実習 配当年次 4 前 単位数 選択 2 単位 准教授 14 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 14 ((再補正前) 教育課程－5、11 ページ) 授業科目の名称 チーム医療 A 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 准教授 21 備考 共同・先進 授業科目の名称 チーム医療 B 配当年次 4 後 単位数 選択 1 単位 准教授 21 授業科目の名称 看護管理学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位
--	--

備考 オムニバス (削除)	備考 オムニバス・ <u>実践</u>
授業科目の名称 国際看護論	授業科目の名称 国際看護論
配当年次 3 前	配当年次 3 前
単位数 選択 1 単位	単位数 選択 1 単位
備考 オムニバス (削除)	備考 オムニバス・ <u>実践</u>
授業科目の名称 看護教育学	授業科目の名称 看護教育学
配当年次 4 前	配当年次 4 前
単位数 選択 1 単位	単位数 選択 1 単位
備考 オムニバス (削除)	備考 オムニバス・ <u>実践</u>
授業科目の名称 災害看護論	授業科目の名称 災害看護論
配当年次 4 後	配当年次 4 後
単位数 選択 1 単位	単位数 選択 1 単位
教授 1	教授 (追加)
准教授 (削除)	准教授 1
助教 1	助教 (追加)
備考欄 オムニバス・共同 (一部)	備考欄 <u>実践</u>
授業科目の名称 緩和ケア学	授業科目の名称 緩和ケア学
配当年次	配当年次

4 前 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス (削除) 専門科目 キャリア発展科目 小計 准教授 20 合計 准教授 20 ((再補正後) 教育課程-7 ページ) ＜阿倍野キャンパス＞ 授業科目の名称 栄養学総論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 (削除) 授業科目の名称 感染管理論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 (削除) 授業科目の名称 基礎遺伝学 配当年次 2 後 単位数	4 前 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス・実践 専門科目 キャリア発展科目 小計 准教授 21 合計 准教授 21 ((再補正前) 教育課程-7 ページ) ＜阿倍野キャンパス＞ 授業科目の名称 栄養学総論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 実践 授業科目の名称 感染管理論 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 先進 授業科目の名称 基礎遺伝学 配当年次 2 後 単位数
---	---

選択 1 単位 備考 (削除) 授業科目の名称 ゲノム医療ケア科学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 (削除) 授業科目の名称 生命倫理学 配当年次 3 前 単位数 選択 2 単位 備考 (削除) 授業科目の名称 健康と疫学 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス (削除) 授業科目の名称 医療と社会福祉学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 (削除)	選択 1 単位 備考 <u>先進</u> 授業科目の名称 ゲノム医療ケア科学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 <u>先進</u> 授業科目の名称 生命倫理学 配当年次 3 前 単位数 選択 2 単位 備考 <u>実践</u> 授業科目の名称 健康と疫学 配当年次 2 後 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス・<u>実践</u> 授業科目の名称 医療と社会福祉学 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 <u>実践</u>
---	--

授業科目の名称 セクシュアルヘルス支援 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス (削除)	授業科目の名称 セクシュアルヘルス支援 配当年次 3 前 単位数 選択 1 単位 備考 オムニバス・ <u>実践</u>
---	---

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名-3 ページ) 調書番号<1> 富川 順子 担当授業科目の名称 災害看護論 ※ 配当年次 4 後 担当単位数 0.8 年間開講数 1	((再補正前) 教員氏名-3 ページ) 調書番号 14 富川 順子 担当授業科目の名称 (追加)
((再補正後) 教員氏名-5 ページ) (削除)	((再補正前) 教員氏名-5 ページ) 調書番号 29 大江 理英 担当授業科目の名称 <u>急性看護学実習</u> <u>ヘルスアセスメントとシミュレーション</u> ※ <u>急性看護学支援論</u> ※ <u>急性看護学支援論演習</u> ※ <u>総合研究 1</u> <u>総合研究 2</u> <u>総合実習</u> <u>チーム医療 A</u> <u>チーム医療 B</u> <u>災害看護論</u> ※

((再補正後) 教員氏名－7 ページ) 調書番号 <u><2></u> 林田 裕美 担当授業科目の名称 急性看護学支援論 ※ 配当年次 2 後 担当単位数 0.8 年間開講数 1 担当授業科目の名称 急性看護学支援論演習 ※ 配当年次 3 前 担当単位数 0.9 年間開講数 1 ((再補正後) 教員氏名－12 ページ) 調書番号 <u><3></u> 喜田 雅彦 担当授業科目の名称 災害看護論 ※ 配当年次 4 後 担当単位数 0.8 年間開講数 1	((再補正前) 教員氏名－7 ページ) 調書番号 <u>41</u> 林田 裕美 担当授業科目の名称 急性看護学支援論 ※ 配当年次 2 後 担当単位数 0.4 年間開講数 1 担当授業科目の名称 急性看護学支援論演習 ※ 配当年次 3 前 担当単位数 0.8 年間開講数 1 ((再補正前) 教員氏名－12 ページ) 調書番号 <u>67</u> 喜田 雅彦 担当授業科目の名称 (追加)
---	---

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

新	旧
(専任年齢・学位－1 ページ) 50～59 歳 准教授 博士 9 人 准教授 博士 合計 16 人	(専任年齢・学位－1 ページ) 50～59 歳 准教授 博士 10 人 准教授 博士 合計 17 人

50～59 歳 博士 合計 16 人 博士 合計 42 人	50～59 歳 博士 合計 17 人 博士 合計 43 人
----------------------------------	----------------------------------

生活科学部

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【生活科学部】

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨(資料)－117、118、119、120、121、122 ページ) 生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(食品栄養学コース) (削除) (削除)	(設置趣旨(資料)－117、118、119、120、121、122 ページ) 生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(食品栄養学コース) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B」</u>
生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(実践栄養学コース) (削除) (削除)	生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(実践栄養学コース) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B」</u>
生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(栄養士) (削除) (削除)	生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(栄養士) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B」</u>
生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(管理栄養士) (削除) (削除)	生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(管理栄養士) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B」</u>
生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(栄養教諭) (削除) (削除)	生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ(栄養教諭) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B」</u>

生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (家庭科教諭) (削除) (削除)	生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (家庭科教諭) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B 」</u>
--	---

【食栄養学科】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、2 ページ) (削除) (削除)	((再補正前) 教育課程－1、2 ページ) <u>「データベースと情報検索」</u> <u>「プログラミング入門 B 」</u>
基幹教育科目 基礎教育科目 小計 (5 科目) 自由科目 0 単位 備考欄 兼 37	基幹教育科目 基礎教育科目 小計 (7 科目) 自由科目 4 単位 備考欄 兼 43
合計 (85 科目) 自由科目 34 単位 備考欄 兼 71	合計 (87 科目) 自由科目 38 単位 備考欄 兼 78

3. 研究科

文学研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおりに修正する。

【文学研究科】

(新旧対照表) 文学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —3 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 ア 研究科等設置の理由及び必要性 (2) 研究科設置の経緯 (略) 平成 22(2010)年 4 月には、言語情報学専修が言語応用学専修となった。さらに、令和 2 (2020)年 4 月には、新たに文化構想学専攻が設置された。 (略) (設置趣旨 (本文) —7 ページ) イ 人材育成の方針及びディプロマ・ポリシー (1) 人材育成の方針 博士後期課程 【文化構想学専攻】 (略) 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽	(設置趣旨 (本文) —3 ページ) 1 設置の趣旨及び必要性 ア 研究科等設置の理由及び必要性 (2) 研究科設置の経緯 (略) 平成 22(2010)年 4 月には、<u>ドイツ語ドイツ文学専修とフランス語フランス文学専修がドイツ語フランス語圏言語文化学専修に統合され、また言語情報学専修が言語応用学専修となった。</u>さらに、令和元 (2020)年 4 月には、新たに文化構想学専攻が設置され、<u>4 専攻 16 専修の教育研究体制が完成した。</u> (略) (設置趣旨 (本文) —7 ページ) イ 人材育成の方針及びディプロマ・ポリシー (1) 人材育成の方針 博士後期課程 【文化構想学専攻】 (略) 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽

引できる人材を養成する。 (設置趣旨 (本文) —47 ページ) 1 7 管理運営 (略) 文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規程」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。	引できる人材を育成する。 (設置趣旨 (本文) —46 ページ) 1 7 管理運営 (略) 文学研究科教授会は「大阪公立大学大学院文学研究科規定」ならびに「大阪公立大学大学院文学研究科教授会会議規則」によって運営される。																
(設置趣旨 (資料) —94 ページ) 資料 3-3 履修モデル (博士前期課程 言語文化学専攻) 履修モデル (言語文化学専攻フランス語圏言語文化学専修 博士前期課程) 企業等における事務職に携わる人材像 1 年次 分野専門科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>フランス語圏言語文化論 A</td><td>2</td></tr> <tr> <td>フランス語圏言語文化論 B</td><td>2</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	フランス語圏言語文化論 A	2	フランス語圏言語文化論 B	2	(設置趣旨 (資料) —89 ページ) 資料 3-3 履修モデル (博士前期課程 言語文化学専攻) 履修モデル (言語文化学専攻ドイツ語フランス語圏言語文化学専修 博士前期課程) 企業等における事務職に携わる人材像 1 年次 分野専門科目 <table border="1"> <tr> <th>科目名</th><th>単位</th></tr> <tr> <td>(略)</td><td>(略)</td></tr> <tr> <td>フランス語圏文化論 A</td><td>2</td></tr> <tr> <td>フランス語圏文化論 B</td><td>2</td></tr> </table>	科目名	単位	(略)	(略)	フランス語圏文化論 A	2	フランス語圏文化論 B	2
科目名	単位																
(略)	(略)																
フランス語圏言語文化論 A	2																
フランス語圏言語文化論 B	2																
科目名	単位																
(略)	(略)																
フランス語圏文化論 A	2																
フランス語圏文化論 B	2																
(設置趣旨 (資料) —135 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科人間行動学専攻 (博士後期課程) カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする総合的・学際的な人間行動専攻である。 社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものである。	(設置趣旨 (資料) —129 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科人間行動学専攻 (博士後期課程) カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための 2 つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向																

それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的追究を行う研究者の養成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。 このような理由から本専攻を設置する。	<u>性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学（日本史学・東洋史学・西洋史学）の学問的追究を行う研究者養成が強く希求される。</u> <u>このような理由から本専攻を設置する。</u>
（設置趣旨（資料）—136、137 ページ） 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科言語文化学専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。 グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。 このような理由から本専攻を設置する。 （略） フランス語圏言語文化学専修 カリキュラム・ポリシー CP②	（設置趣旨（資料）—130、131 ページ） 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科言語文化学専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 <u>予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための 2 つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学（日本史学・東洋史学・西洋史学）の学問的追究を行う研究者養成が強く希求される。</u> <u>このような理由から本専攻を設置する。</u> （略） <u>ドイツ語フランス語圏言語文化学専修・フランス語圏</u>カリキュラム・ポリシー CP②

C P②フランス語圏言語文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。	C P②国語国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。
(設置趣旨 (資料) —138 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科文化構想学専攻 (博士後期課程) カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって 21 世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本専攻では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。 文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本専攻の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。 このような理由から本専攻を設置する。	(設置趣旨 (資料) —132 ページ) 資料 8 カリキュラム・マップ 文学研究科文化構想学専攻 (博士後期課程) カリキュラムマップ 【設置の趣旨】 <u>予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための 2 つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学 (日本史学・東洋史学・西洋史学) の学問的追究を行う研究者養成が強く希求される。</u> <u>このような理由から本専攻を設置する。</u>

【言語文化学専攻 博士前期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程—2 ページ) (文学研究科言語文化学専攻博士前期課程) 分野専門科目 地域社会文化学研究 A 配当年次 1・2 前 地域社会文化学研究 B 配当年次 1・2 後	((補正前) 教育課程—2 ページ) (文学研究科言語文化学専攻博士前期課程) 分野専門科目 地域社会文化学研究 A 配当年次 <u>1・2 後</u> 地域社会文化学研究 B 配当年次 <u>1 後</u>

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名—1 ページ) (文学研究科言語文化学専攻博士前期課程) 調書番号 6 高井 絹子 地域社会文化学研究 A 【隔年】 配当年次 1・2 前	((再補正前) 教員氏名—1 ページ) (文学研究科言語文化学専攻博士前期課程) 調書番号 6 高井 絹子 地域社会文化学研究 A 【隔年】 配当年次 <u>1・2 後</u>
((再補正後) 教員氏名—2 ページ) 調書番号 26 真田 桂子 地域社会文化学研究 B 【隔年】 配当年次 1・2 後	((再補正前) 教員氏名—2 ページ) 調書番号 26 真田 桂子 地域社会文化学研究 B 【隔年】 配当年次 <u>1 後</u>

経済学研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【経済学研究科】

(新旧対照表) 経済学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —25、26、27 ページ) 10 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 (略)	(設置趣旨 (本文) —25、26、27 ページ) 10 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 (略)

博士前期課程については、8月および翌年2月（再募集）の2回、入学者選抜を実施する。**ただし、再募集の入学者選抜については、8月に実施する入学者選抜における定員を充足しなかった場合のみ実施するものとし、また、推薦入学特別選抜は7月、社会人特別選抜Bは9月(2021年度のみ12月に実施)にそれぞれ実施する。**

次に掲げる選抜単位ごとに入学者選抜を実施し、学修成果や能力・適性を、以下のような教科科目等で評価する。

【一般選抜】

修士コース：

学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。**専門科目の試験は、ERE/ERE ミクロ・マクロの成績による代替が可能である。**そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

博士コース（前期）：

学力試験により、英語能力と経済学専門科目の習得度を問う。英語の試験は、TOEICやTOEFLの成績による代替が可能であり、**専門科目の試験は、ERE/ERE ミクロ・マクロの成績による代替が可能である。**そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

【外国人留学生特別選抜】

修士コース：

学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。**専門科目の試験は、ERE/ERE ミクロ・マクロの成績による代替が可能である。**そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、日本語能力、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

博士コース（前期）：

学力試験により、英語能力と経済学専門科目の習得度を問う。英語の試験は、TOEICやTOEFLの成績による代替が可能であり、**専門科目の試験は、ERE/ERE ミクロ・マクロの成績による代替が可能である。**そして、学力試験

博士前期課程については、8月および翌年2月（再募集）の2回、入学者選抜を実施する。次に掲げる選抜単位ごとに入学者選抜を実施し、学修成果や能力・適性を、以下のような教科科目等で評価する。なお、推薦入学特別選抜は6月、そして、社会人特別選抜Bは9月に各々、別途行う。

【一般選抜】

修士コース：

学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

博士コース（前期）：

学力試験により、英語能力と経済学専門科目の習得度を問う。英語の試験は、TOEICやTOEFLの成績による代替が可能である。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

【外国人留学生特別選抜】

修士コース：

学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、日本語能力、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。

博士コース（前期）：

学力試験により、英語能力と経済学専門科目の習得度を問う。英語の試験は、TOEICやTOEFLの成績による代替が可能である。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、日本語能力、研究動機や事前知識、そして、

験の合格者のみ、口述試験を行い、日本語能力、研究動機や事前知識、そして、コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。 【社会人特別選抜】 入学時において満 30 歳以上であり、かつ、学士（経済学もしくは指導可能な分野の学位）を取得または見込みである者を対象とする。 社会人特別選抜 A: 学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。専門科目の試験は、ERE/ERE ミクロ・マクロの成績による代替が可能である。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。 (略) 【一般選抜】 学力試験では英語の読解力・表現力を問う。英語の試験は、TOEIC や TOEFL の成績による代替が可能である。口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性、そして、コミュニケーション能力を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。 【外国人留学生特別選抜】 学力試験では英語の読解力・表現力を問う。英語の試験は、TOEIC や TOEFL の成績による代替が可能である。口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性を確認する。さらに、コミュニケーション能力（日本語または英語）を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。	コミュニケーション能力を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。 【社会人特別選抜】 入学時において満 30 歳以上であり、かつ、学士（経済学もしくは指導可能な分野の学位）を取得または見込みである者を対象とする。 社会人特別選抜 A: 学力試験により、経済学専門科目の習得度を問う。そして、学力試験の合格者のみ、口述試験を行い、研究動機や事前知識を問う。学力試験の成績と合わせて総合的に評価する。 (略) 【一般選抜】 学力試験では英語の読解力・表現力を問う。口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性、そして、コミュニケーション能力を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。 【外国人留学生特別選抜】 学力試験では英語の読解力・表現力を問う。口述試験では提出された修士論文及びそれに準じた研究報告書のほか、研究計画書の達成度や的確性を確認する。さらに、コミュニケーション能力（日本語または英語）を確認し、学士課程・前期博士課程における成績とあわせて総合的に評価する。
--	---

【経済学専攻 博士前期課程】

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員名簿－2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 博士 (経済学)	((再補正前) 教員名簿－2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 経済学博士

--	--

【経済学専攻 博士後期課程】

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員名簿-2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 博士 (経済学)	((再補正前) 教員名簿-2 ページ) 調書番号 16 西岡 英毅 <u>経済学博士</u>

都市経営研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおりに修正する。

【都市経営研究科】

(新旧対照表) 都市経営研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —43 ページ) ⑩入学者選抜の概要 ア アドミッション・ポリシー (略) ＊博士前期課程【アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)】 都市経営研究科は、都市政策・地域経済、都市行政、都市ビジネス、医療・福祉イノベーション経営の各コースにおける都市関連 (行政、市民、経済活動) の研究に要する知識を体系的に習得するうえでの基本的な素養となる基礎知識、論理的な思考力、文章力を含む構成力を備えた人材を、社会人を中心として受け入れる。 一般選抜では、入学後の学修に必要な知識や実績について口頭での試問を通して確認するとともに、事前に提出された研究計画に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力をみる。特別	(設置趣旨 (本文) —43 ページ) ⑩入学者選抜の概要 ア アドミッション・ポリシー (略) ＊博士前期課程【アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)】 都市経営研究科は、都市政策・地域経済、都市行政、都市ビジネス、医療・福祉イノベーション経営の各コースにおける都市関連 (行政、市民、経済活動) の研究に要する知識を体系的に習得するうえでの基本的な素養となる基礎知識、論理的な思考力、文章力を含む構成力を備えた人材を、社会人を中心として受け入れます。 一般選抜では、入学後の学修に必要な知識や実績について口頭での試問を通して確認するとともに、事前に提出された研究計画に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力をみます。特

選抜では、併せて筆答試験等を課し、知識や文章力に加えて、課題を把握する力ならびに修了論文作成に必要な論理性を備えているか否かを判定する。 (略) (設置趣旨(本文) —44、45 ページ) イ 入学者選抜の方法と体制 《博士前期課程》 (略) (1) 社会人一般選抜 3年の実務実績のある社会人については、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された「実務実績書」と口頭での試問を通じて確認するとともに、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見る。募集人員は56名とする。 なお、本研究科の人材育成趣旨にそった代表的な行政機関や各種団体であり、かつ予め推薦認定団体と認めたものについては、推薦を認め、推薦状内容を考慮しつつ、一般選抜と同様の考査をおこなう。募集人員は若干名とする。 (2) 特別選抜 実務実績が短い(3年未満)か、学部からの入学選抜者については、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された大学での成績、卒業研究の実績、研究報告等と口頭での試問を通じて確認し、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見るとともに、小論文、外国語等の筆記試験を課す。募集人員は若干名とする。 (略) 《博士後期課程》	別選抜では、併せて筆答試験等を課し、知識や文章力に加えて、課題を把握する力ならびに修了論文作成に必要な論理性を備えているか否かを判定します。 (略) (設置趣旨(本文) —44、45 ページ) イ 入学者選抜の方法と体制 《博士前期課程》 (略) (1) 社会人一般選抜 3年の実務実績のある社会人については、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された「実務実績書」と口頭での試問を通じて確認するとともに、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見る。 (2) 特別選抜 実務実績が短い(3年未満)か、学部からの入学選抜者については、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された大学での成績、卒業研究の実績、研究報告等と口頭での試問を通じて確認し、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見るとともに、小論文、外国語等の筆記試験を課す。 (略) 《博士後期課程》
---	--

(略) (1) 一般選抜 3年以上の実務実績のある社会人については、事前に提出された修士論文の審査にくわえ、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された資料と口頭での試問で確認するとともに、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見る。募集人員は5名とする。 (2) 特別選抜 実務実績が3年未満か、大学院修士課程からの入学選抜者については、事前に提出された修士論文の審査にくわえ、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された資料で確認し、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見るとともに、外国語の筆記試験を課す。募集人員は若干名とする。 (略)	(略) (1) 一般選抜 3年以上の実務実績のある社会人については、事前に提出された修士論文の審査にくわえ、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された資料と口頭での試問で確認するとともに、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見る。 (2) 特別選抜 実務実績が3年未満か、大学院修士課程からの入学選抜者については、事前に提出された修士論文の審査にくわえ、入学後の学修に必要な知識について、事前に提出された資料で確認し、事前に提出された「研究計画書」に基づいて、文章力を含めた構成力、研究を推進するうえでの構想力を見るとともに、外国語の筆記試験を課す。 (略)
---	--

情報学研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【基幹情報学専攻 博士前期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程-5 ページ) 授業科目の名称 高性能計算論	((再補正前) 教育課程-5 ページ) 授業科目の名称 <u>情報セキュリティ論</u>

工学研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおりに修正する。

【工学研究科】

(新旧対照表) 工学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —119 ページ) 10 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 【博士後期課程】 一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜により、入学生を選抜する。募集定員については、それぞれの専攻に記述する。なお、特別選抜の募集定員「若干名」については、一般選抜の募集定員の内数とする。	(設置趣旨 (本文) —119 ページ) 10 入学者選抜の概要 イ 入学者選抜の方法と体制 【博士後期課程】 一般選抜、<u>推薦入学特別選抜</u>、社会人特別選抜、外国人特別選抜により、入学生を選抜する。募集定員については、それぞれの専攻に記述する。なお、<u>推薦入学特別選抜</u>、<u>その他特別選抜</u>の募集定員「若干名」については、一般選抜の募集定員の内数とする。
(設置趣旨 (本文) —140 ページ) 11 取得可能な資格 (資格の削除) (資格の削除)	(設置趣旨 (本文) —140 ページ) 11 取得可能な資格 <u>第一種放射線取扱主任者</u> <u>量子放射線系専攻</u> <u>第二種放射線取扱主任者</u> <u>量子放射線系専攻</u>
(設置趣旨 (資料) —6、7 ページ) 工学研究科 学位論文審査基準 (1) 修士論文 (略) ・審査委員の体制 審査委員会は本研究科の教授 3 名以上の審査委員 (主査 1 名、副査 2 名以上) をもつ	(設置趣旨 (資料) —6、7 ページ) 工学研究科 学位論文審査基準 (1) 修士論文 (略) ・審査委員の体制 審査委員会は本研究科の教授 3 名以上の審査委員 (主査 1 名、副査 2 名以上) をもつ

て組織する。ただし、研究科において特に認める場合は、本研究科の教授 1 名に代えて本研究科の准教授又は講師を 1 名に限り審査委員に充てることができる。なお、研究科において必要と認める場合は、次の各号に<u>挙</u>げる者を加えることができる。 (2) 博士論文（課程修了によるもの） (略) ・審査委員の体制 審査委員会は本研究科の教授 3 名以上の審査委員（主査 1 名、副査 2 名以上）をもって組織する。ただし、研究科において特に認める場合は、本研究科の教授 1 名に代えて本研究科の准教授を 1 名に限り審査委員に充てることができる。なお、研究科において必要と認める場合は、次の各号に<u>挙</u>げる者を加えることができる。	て組織する。ただし、研究科において特に認める場合は、本研究科の教授 1 名に代えて本研究科の准教授又は講師を 1 名に限り審査委員に充てることができる。なお、研究科において必要と認める場合は、次の各号に<u>揚</u>げる者を加えることができる。 (2) 博士論文（課程修了によるもの） (略) ・審査委員の体制 審査委員会は本研究科の教授 3 名以上の審査委員（主査 1 名、副査 2 名以上）をもって組織する。ただし、研究科において特に認める場合は、本研究科の教授 1 名に代えて本研究科の准教授を 1 名に限り審査委員に充てることができる。なお、研究科において必要と認める場合は、次の各号に<u>揚</u>げる者を加えることができる。
---	---

【都市系専攻（博士前期課程）】

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－1、2 ページ) (項目の削除)	((補正前) 教育課程－1、2 ページ) 備考欄：(※1,2 意匠、構造、設備、共通、共有) 卒業要件及び履修方法：6)～9)

農学研究科

(対応)

補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【農学研究科】

（新旧対照表）工学研究科 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) —55、56 ページ) 10 入学者選抜の概要 (1) 応用生物科学専攻 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) <博士前期課程> (略) 大学院博士前期課程で学修するための学力を有していることを、筆答試験の必須科目 (基礎応用生物科学) と選択科目 (植物分子育種学、機能ゲノム科学、細胞分子生物学、代謝機能学、植物栄養学、植物病理学、遺伝育種学、食料安全科学、園芸生産学、栽培管理学の中から1科目を選択)、及び口頭試問によって評価する。 以下の項目についても、上記同様に修正する。 ウ 多様な学生の受入 <博士前期課程> (社会人特別選抜) (外国人留学生特別選抜) (設置趣旨 (本文) —62、63 ページ) (3) 緑地環境科学専攻 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) <博士前期課程> (略) 学力試験 (筆答試験及び口頭試問)、英語 (TOEIC 又は TOEFL の成績を利用)、出願書類などに基づいて、総合判定する。大学院博士前期課程で学修するための学力を有していることを、筆答試験の必須科目 (緑地環境科学基礎) と選択科目 (生態気象学、生物環境調節学、土環境学、水環境学、生産環境学、緑地計画学、緑地保全学、地域生態学、環境動物昆虫学の中から1科目を	(設置趣旨 (本文) —55、56 ページ) 10 入学者選抜の概要 (1) 応用生物科学専攻 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) <博士前期課程> (略) 大学院博士前期課程で学修するための学力を有していることを、筆答試験の共通問題 (基礎応用生物科学) と選択問題 (植物分子育種学、機能ゲノム科学、細胞分子生物学、代謝機能学、植物栄養学、植物病理学、遺伝育種学、食料安全科学、園芸生産学、栽培管理学の中から1科目を選択)、及び口頭試問によって評価する。 (設置趣旨 (本文) —62、63 ページ) (3) 緑地環境科学専攻 イ 入学者選抜の方法と体制 (略) <博士前期課程> (略) 学力試験 (筆頭試験及び口頭試問)、英語 (TOEIC 又は TOEFL の成績を利用)、出願書類などに基づいて、総合判定する。大学院博士前期課程で学修するための学力を有していることを、筆頭試験の必須科目 (緑地環境科学基礎) と選択科目 (生態気象学、生物環境調節学、土環境学、水環境学、生産環境学、緑地計画学、緑地保全学、地域生態学、環境動物昆虫学の中から1科目を

選択)、及び口頭試問によって評価する。 以下の項目についても、上記同様に修正する。 ウ 多様な学生の受入 <博士前期課程> (社会人特別選抜) (外国人留学生特別選抜)	選択)、及び口頭試問によって評価する。
--	----------------------------

看護学研究科

教員の退職に伴い、補正申請書類を下記のとおり修正する。また、補正申請書類について改めて点検した結果、誤記や不備があったため、補正申請書類を下記のとおり修正する。

【看護学研究科】

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(設置趣旨 (本文) -20 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 (教育研究の柱となる領域/分野の説明も含む) (略) イ 教育課程の概要及び特色 【博士前期課程】 (略) 3) 大学院前期課程科目の早期履修 博士前期課程の修士論文コースには、大阪公立大学看護学部学生、大阪府立大学地域保健学域看護学類生及び大阪市立大学医学部看護学科生に本研究科の授業科目を早期に履修する機会を提供することで、大学院進学へのモチベーションを高め、目的意識と計画性をもち、大学院進学への準備を十全に行ってもらふことを目的とし、早期履修制度を設置する。 (略) さらに、大阪公立大学看護学部、大阪府立大学地域保健学域看護学類又は大阪市立	(設置趣旨 (本文) -20 ページ) 4 教育課程の編成の考え方及び特色 (教育研究の柱となる領域/分野の説明も含む) (略) イ 教育課程の概要及び特色 【博士前期課程】 (略) 3) 大学院前期課程科目の早期履修 博士前期課程の修士論文コースには、大阪公立大学看護学部学生に本研究科の授業科目を早期に履修する機会を提供することで、大学院進学へのモチベーションを高め、目的意識と計画性をもち、大学院進学への準備を十全に行ってもらふことを目的とし、早期履修制度を設置する。 (略) さらに、大阪公立大学看護学部に 3 年以上在学した者で、早期履修制度により、本研

大学医学部看護学科に3年以上在学した者で、早期履修制度により、本研究科が提供する専門基礎科目および専門科目の単位を優秀な成績で修得した学生を対象とし、それらの単位を修了要件としている単位として認めることにより、通常の入学試験を経て本研究科博士前期課程に入学し、1年間で早期修了する制度を設置する。 (設置趣旨(本文) -22 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 イ 教員組織編成の特色 (略) 専門看護師の資格を有し、活動実績のある教授3名、准教授1名、講師3名、助教2名が、高度実践看護者養成の共通科目、専門科目を担当する。 (略) (設置趣旨(本文) -23 ページ) (略) 博士の学位を持つ教員は先進ケア科学領域、実践看護科学領域合わせて43名(看護学25名、保健学10名、医学5名、その他3名、延べ数)であり、大学院における研究、教育を行える教員が確保できている。 ウ 専任教員の年齢構成 (略) 表2 看護学研究科看護学専攻の完成年度における専任教員の年齢構成 博士前期課程 50～59歳 准教授 12 准教授 計 20 50～59歳 計 26 合計 63 博士後期課程	研究科が提供する専門基礎科目および専門科目の単位を優秀な成績で修得した学生を対象とし、それらの単位を修了要件としている単位として認めることにより、通常の入学試験を経て本研究科博士前期課程に入学し、1年間で早期修了する制度を設置する。 (設置趣旨(本文) -22 ページ) 5 教員組織の編成の考え方及び特色 イ 教員組織編成の特色 (略) 専門看護師の資格を有し、活動実績のある教授3名、准教授2名、講師3名、助教2名が、高度実践看護者養成の共通科目、専門科目を担当する。 (略) (設置趣旨(本文) -23 ページ) (略) 博士の学位を持つ教員は先進ケア科学領域、実践看護科学領域合わせて44名(看護学26名、保健学10名、医学5名、その他4名、延べ数)であり、大学院における研究、教育を行える教員が確保できている。 ウ 専任教員の年齢構成 (略) 表2 看護学研究科看護学専攻の完成年度における専任教員の年齢構成 博士前期課程 50～59歳 准教授 13 准教授 計 21 50～59歳 計 27 合計 64 博士後期課程
---	---

50～59 歳 准教授 12 准教授 計 18 50～59 歳 計 20 合計 43 (設置趣旨 (本文) -38 ページ) 10 入学者選抜の概要 ア アドミッションポリシー (略) 【博士前期課程】 博士前期課程のアドミッションポリシーは次の通りである。 博士前期課程は、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。本研究科の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜する。 (略) (設置趣旨 (本文) -39 ページ) 3) 評価方法 (略) ・各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査、口述試験を組み合わせて評価する。 【博士後期課程】 博士後期課程のアドミッションポリシーは次の通りである。 博士後期課程は豊かな学識を有し、看護学分野において社会実装化することを視野に入れた学術的研究を推進し、その深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に	50～59 歳 准教授 13 准教授 計 19 50～59 歳 計 21 合計 44 (設置趣旨 (本文) -38 ページ) 10 入学者選抜の概要 ア アドミッションポリシー (略) 【博士前期課程】 博士前期課程のアドミッションポリシーは次の通りである。 博士前期課程は、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。本研究科の学位授与方針および教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜する。 (略) (設置趣旨 (本文) -39 ページ) 3) 評価方法 (略) ・各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査・口述試験によって評価する。 【博士後期課程】 博士後期課程のアドミッションポリシーは次の通りである。 博士後期課程は豊かな学識を有し、看護学分野において社会実装化することを視野に入れた学術的研究を推進し、その深奥を究め、高い倫理観を持ち、自立して研究活動を行い、看護学の知の創造に
---	---

貢献できる能力を有する人材を育成する。本研究科の学位授与方針及び教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜する。 1) 入学前能力 【能力】 ・専門分野に精通した基礎及び応用力を有し、知識と研究成果をグローバルに発信できる基礎的語学力を有する人 (略) 3) 評価方法 入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために、一般選抜、博士前期課程特別選抜を実施し、各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査、口述試験を組み合わせて評価する。 (設置趣旨 (本文) - 40 ページ) イ 入学者選抜の方法と体制 1) 博士前期課程 博士前期課程では、一般選抜、社会人特別選抜、学部特別選抜の区分で入学者選抜を実施し、大学院看護学研究科教授会により合否判定を行う。募集定員は全体で 50 名とし、領域、分野における定員は設けない。 (略) 2) 博士後期課程 博士後期課程では、一般選抜、博士前期課程特別選抜の区分で入学者選抜を実施し、大学院看護学研究科教授会により合否判定を行う。募集定員は全体で 10 名とし、領域、分野における定員は設けない。 (略) (2) 博士前期課程特別選抜	貢献できる能力を有する人材を育成する。本研究科の学位授与方針および教育課程編成・実施方針を踏まえ、次の能力や適性を身につけた学生を選抜する。 1) 入学前能力 【能力】 ・専門分野に精通した基礎および応用力を有し、知識と研究成果をグローバルに発信できる基礎的語学力を有する人 (略) 3) 評価方法 入学者選抜においては、多様な人材を選抜するために、一般選抜、<u>本学博士前期課程からの選抜</u>を実施し、各選抜においては能力、意欲、志向を測定するために、学力試験、出願書類審査、<u>口述試験によって</u>評価する。 (設置趣旨 (本文) - 40 ページ) イ 入学者選抜の方法と体制 1) 博士前期課程 博士前期課程では、一般選抜、社会人特別選抜、学部特別選抜の区分で入学者選抜を<u>行い</u>、募集定員は全体で 50 名と<u>する</u>。<u>なお、領域、分野における定員は設けない</u>。 (略) 2) 博士後期課程 博士後期課程では、一般選抜、<u>本学博士前期課程からの選抜</u>の区分で入学者選抜を<u>行い</u>、募集定員は全体で 10 名と<u>する</u>。<u>なお、領域、分野における定員は設けない</u>。 (略) (2) <u>本学博士前期課程からの選抜</u>
--	--

出願書類審査(博士前期課程での成績、研究計画書)、口述試験により、博士後期課程のアドミッションポリシーの能力、意欲、志向を確認し、本研究科での学修に十分対応でき、入学前能力をさらに伸ばし、教育目標に定められた資質能力を身につけることができる準備性を確認し、総合的に評価する。 (設置趣旨(本文)－41、42 ページ) ウ 出願資格 【博士前期課程】 (略) 本研究科の博士前期課程に出願することのできる者は、次の要件のいずれかに該当する者とする。 1) 学部特別選抜 本学看護学部、大阪府立大学地域保健学域看護学類又は大阪市立大学医学部看護学科を入学前年度3月に卒業見込の者で、前年度までのGPAが2.5以上の者 2) 一般選抜 本学看護学部を卒業した者をはじめ、他大学で看護学の教育を修めた者又は看護学の教育を受けていない者で、本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。 (削除) 3) 社会人選抜 社会人選抜に出願することのできる者は、大学院学則に定める出願資格を有	口述試験により、博士後期課程のアドミッションポリシーの能力、意欲、志向を確認し、本研究科での学修に十分対応でき、入学前能力をさらに伸ばし、教育目標に定められた資質能力を身につけることができる準備性を確認し、総合的に評価する。 (設置趣旨(本文)－41、42 ページ) ウ <u>多様な学生の受入</u> 【博士前期課程】 (略) 本研究科の博士前期課程に<u>入学</u>することのできる者は、<u>入学年度の4月1日において、</u>次の要件のいずれかに該当する者とする。 1) 学部特別選抜 本学看護学部を入学前年度3月に卒業見込の者で、前年度までのGPAが2.5以上の者 2) 一般選抜 本学看護学部を卒業した者をはじめ、他大学で看護学の教育を修めた者<u>及び</u>看護学の教育を受けていない者で、本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。 <u>学習の準備状況については外国語と専門科目の学力試験で判断し、学習意欲や適性を口述試験より判断する。入学者選抜においては、大学院看護学研究科教授会により合否判定を行う。</u> 3) 社会人選抜 社会人選抜に出願することのできる者は、大学院学則に定める出願資格を有
--	--

し、通算 3 年以上（入学前年度 3 月までの見込みを含む）の実務経験を有し、かつ本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。 （略） 【博士後期課程】 （略） 本学看護学研究科の博士後期課程に出願することのできる者は、次の要件のいずれかに該当する者とする。 1) 博士前期課程特別選抜 本学大学院看護学研究科、大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程又は大阪市立大学大学院看護学研究科前期博士課程を入学前年度 3 月に修了見込の者 2) 一般選抜 本学大学院看護学研究科博士前期課程を修了した者、他大学大学院の博士前期課程を修了した者又は修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認められる者で、本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。 （削除） （設置趣旨（本文）－46 ページ） 1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合 （略）	し、通算 3 年以上（<u>2021 年 3 月までの見込みを含む</u>）の実務経験を有し、かつ本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。 （略） 【博士後期課程】 （略） 本学看護学研究科の博士後期課程に<u>入学することのできる者は、入学年度の 4 月 1 日において、次の要件のいずれかに該当する者とする。</u> 1) <u>本学博士前期課程からの選抜</u> 本学大学院看護学研究科を入学前年度 3 月に修了見込の者 2) 一般選抜 本学大学院看護学研究科博士前期課程を修了した者<u>をはじめ、他大学大学院の博士前期課程を修了した者及び修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認められる者で、本研究科の趣旨に合致した研究課題を持ち、意欲的に学ぶ姿勢がある者とする。</u> <u>学習の準備状況については外国語の学力試験で判断し、学習意欲や適性を口述試験より判断する。入学者選抜においては、大学院看護学研究科教授会により合否判定を行う。</u> （設置趣旨（本文）－46 ページ） 1 3 2 以上の校地において教育研究を行う場合 （略）
--	--

阿倍野キャンパスには 21 名、羽曳野キャンパスには 42 名の専任教員を配置している。 (略) (設置趣旨 (資料) -86 ページ) 資料 12 2 以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置 (削除) (設置趣旨 (資料) -93 ページ) 資料 12 2 以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置 (削除)	阿倍野キャンパスには <u>22</u> 名、羽曳野キャンパスには <u>43</u> 名の専任教員を配置している。 (略) (設置趣旨 (資料) -86 ページ) 資料 12 2 以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置 <u>看護学研究科看護学専攻博士前期課程</u> <u>28 准教授 大江理英</u> <u>羽曳野キャンパス</u> (設置趣旨 (資料) -93 ページ) 資料 12 2 以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員配置 <u>看護学研究科看護学専攻博士後期課程</u> <u>28 准教授 大江理英</u> <u>羽曳野キャンパス</u>
--	--

【看護学専攻 博士前期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程-1、11 ページ) 授業科目の名称 臨床薬理学 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 授業科目の名称 フィジカルアセスメント B 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授	((再補正前) 教育課程-1、11 ページ) 授業科目の名称 臨床薬理学 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 1 授業科目の名称 フィジカルアセスメント B 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授

(削除) ((再補正後) 教育課程－5、13 ページ) 授業科目の名称 急性看護学特論 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) 授業科目の名称 急性看護学援助特論 1 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) 授業科目の名称 急性看護学援助特論 2 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) 授業科目の名称 急性看護学演習 1A 配当年次	<u>1</u> ((再補正前) 教育課程－5、13 ページ) 授業科目の名称 急性看護学特論 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 <u>1</u> 備考 <u>共同</u> 授業科目の名称 急性看護学援助特論 1 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 <u>1</u> 備考 <u>共同</u> 授業科目の名称 急性看護学援助特論 2 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 <u>1</u> 備考 <u>共同</u> 授業科目の名称 急性看護学演習 1A 配当年次
--	---

1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 授業科目の名称 急性看護学演習 1B 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) 授業科目の名称 急性看護学演習 2A 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 授業科目の名称 急性看護学演習 2B 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 (削除) 備考 オムニバス ((再補正後) 教育課程－5、14 ページ) 授業科目の名称	1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 1 授業科目の名称 急性看護学演習 1B 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 1 備考 <u>共同</u> 授業科目の名称 急性看護学演習 2A 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 1 授業科目の名称 急性看護学演習 2B 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 1 備考 オムニバス・<u>共同 (一部)</u> ((再補正前) 教育課程－5、14 ページ) 授業科目の名称
--	--

急性看護学実習 1 配当年次 2 通 単位数 選択 6 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) 授業科目の名称 急性看護学実習 2 配当年次 2 通 単位数 選択 4 単位 准教授 (削除) 備考 (削除) ((再補正後) 教育課程－6、15 ページ) 授業科目の名称 実践看護科学特別研究 配当年次 2 通 単位数 選択 8 単位 准教授 13 授業科目の名称 実践看護科学課題研究 配当年次 2 通 単位数 選択 4 単位 准教授 8	急性看護学実習 1 配当年次 2 通 単位数 選択 6 単位 准教授 1 備考 共同 授業科目の名称 急性看護学実習 2 配当年次 2 通 単位数 選択 4 単位 准教授 1 備考 共同 ((再補正前) 教育課程－6、15 ページ) 授業科目の名称 実践看護科学特別研究 配当年次 2 通 単位数 選択 8 単位 准教授 14 授業科目の名称 実践看護科学課題研究 配当年次 2 通 単位数 選択 4 単位 准教授 9
---	---

※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程－2 ページ) 専門科目 専門基礎科目 実践看護科学 共通科目 小計 准教授 2 ((再補正後) 教育課程－6 ページ) 専門科目 実践看護科学 療養支援看護科学 小計 准教授 2 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 13 合計 准教授 20 <羽曳野キャンパス> ((再補正後) 教育課程－11 ページ) 専門科目 専門基礎科目 実践看護科学 共通科目 小計 准教授 2 ((再補正後) 教育課程－14 ページ) 専門科目 実践看護科学 療養支援看護科学 小計 准教授 2 ((再補正後) 教育課程－15 ページ) 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 13	※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程－2 ページ) 専門科目 専門基礎科目 実践看護科学 共通科目 小計 准教授 3 ((再補正前) 教育課程－6 ページ) 専門科目 実践看護科学 療養支援看護科学 小計 准教授 3 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 14 合計 准教授 21 <羽曳野キャンパス> ((再補正前) 教育課程－11 ページ) 専門科目 専門基礎科目 実践看護科学 共通科目 小計 准教授 3 ((再補正前) 教育課程－14 ページ) 専門科目 実践看護科学 療養支援看護科学 小計 准教授 3 ((再補正前) 教育課程－15 ページ) 専門科目 実践看護科学 小計 准教授 14
---	---

合計 准教授 13	合計 准教授 14
--------------	--------------

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－1 ページ) 調書番号<1> 北村 愛子 担当授業科目の名称 フィジカルアセスメント B ※ 配当年次 1 後 担当単位数 0.8 年間開講数 1	((再補正前) 教員氏名－1 ページ) 調書番号 2 北村 愛子 担当授業科目の名称 フィジカルアセスメント B ※ 配当年次 1 後 担当単位数 0.4 年間開講数 1
((再補正後) 教員氏名－11 ページ) 調書番号 98 草野 研吾 担当授業科目の名称 急性看護学演習 2B ※ 配当年次 1 後 担当単位数 0.1 年間開講数 1 上記修正に伴い、月額基本給を修正した。	((再補正前) 教員氏名－11 ページ) 調書番号 98 草野 研吾 担当授業科目の名称 急性看護学演習 2B 配当年次 1 後 担当単位数 2 年間開講数 1
((再補正後) 教員氏名－5 ページ) (削除)	((再補正前) 教員氏名－5 ページ) 調書番号 28 大江 理英 担当授業科目の名称 臨床薬理学 フィジカルアセスメント B ※ 急性看護学特論 急性看護学援助特論 1 急性看護学援助特論 2

	<u>急性看護学演習 1A</u> <u>急性看護学演習 1B</u> <u>急性看護学演習 2A</u> <u>急性看護学演習 2B ※</u> <u>急性看護学実習 1</u> <u>急性看護学実習 2</u> <u>実践看護科学特別研究</u> <u>実践看護科学課題研究</u>
--	--

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

新	旧
(専任年齢・学位－1 ページ)	(専任年齢・学位－1 ページ)
50～59 歳 准教授 博士	50～59 歳 准教授 博士
9 人	10 人
准教授 博士 合計	准教授 博士 合計
16 人	17 人
50～59 歳 博士 合計	50～59 歳 博士 合計
18 人	19 人
合計 42 人	合計 43 人

(新旧対照表) 専任教員一覧

新	旧
(専任一覧－6 ページ)	(専任一覧－7 ページ)
(削除)	調書番号 28
	大江 理英
	担当授業科目の名称
	<u>臨床薬理学</u>
	<u>フィジカルアセスメント B</u>
	<u>急性看護学特論</u>
	<u>急性看護学援助特論 1</u>
	<u>急性看護学援助特論 2</u>
	<u>急性看護学演習 1A</u>
	<u>急性看護学演習 1B</u>
	<u>急性看護学演習 2A</u>
	<u>急性看護学演習 2B</u>
	<u>急性看護学実習 1</u>
	<u>急性看護学実習 2</u>
	<u>実践看護科学特別研究</u>

	<u>実践看護科学課題研究</u> 備考 <u>研究指導 (M マル合)</u>
--	--

【看護学専攻 博士後期課程】

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
((再補正後) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称 療養支援看護科学特講 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 2 授業科目の名称 療養支援看護科学演習 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 2 ※小計、合計欄の修正 ((再補正後) 教育課程－2 ページ) 専門科目 実践看護科学科目 小計 准教授 11 合計 准教授 18 <羽曳野キャンパス> ((再補正後) 教育課程－5 ページ) 専門科目 実践看護科学科目 小計	((補正前) 教育課程－2、5 ページ) 授業科目の名称 療養支援看護科学特講 配当年次 1 前 単位数 選択 2 単位 准教授 3 授業科目の名称 療養支援看護科学演習 配当年次 1 後 単位数 選択 2 単位 准教授 3 ※小計、合計欄の修正 ((再補正前) 教育課程－2 ページ) 専門科目 実践看護科学科目 小計 准教授 12 合計 准教授 19 <羽曳野キャンパス> ((再補正前) 教育課程－5 ページ) 専門科目 実践看護科学科目 小計

准教授 11	准教授 12
合計	合計
准教授 11	准教授 12

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
((再補正後) 教員氏名－3 ページ) (削除)	((補正前) 教員氏名－3 ページ) 調書番号 28 大江 理英 担当授業科目の名称 療養支援看護科学特講 療養支援看護科学演習

(新旧対照表) 専任教員の年齢構成・学位保有状況

新	旧
(専任年齢・学位－1 ページ) 50～59 歳 准教授 博士 10 人 准教授 博士 合計 16 人 50～59 歳 博士 合計 17 人 合計 38 人	(専任年齢・学位－1 ページ) 50～59 歳 准教授 博士 11 人 准教授 博士 合計 17 人 50～59 歳 博士 合計 18 人 合計 39 人

(新旧対照表) 専任教員一覧

新	旧
(専任一覧－3 ページ) (削除)	(専任一覧－3 ページ) 調書番号 28 大江 理英 担当授業科目の名称 療養支援看護科学特講 療養支援看護科学演習 備考 なし